

# 高 根 遺 跡

—昭和63年度発掘調査報告書—

1989.6

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.



## 序 文

本報告書は、老人保健施設「桜ヶ丘」建設に伴い、建設用地内に所在する山口高根遺跡の記録保存のために実施した発掘調査の成果をまとめたものであります。

調査の結果、多数の集石を伴う土坑跡やフラスコピットなどの遺構や多量の縄文時代中期の土器や石器などの遺物が発見されました。中には、土器を埋設した土坑跡もあり今回の調査区域の性格を物語っていると考えられます。そして、今回の調査結果から、住居跡は発見されませんでした。この周辺には、当時の人たちの住居跡（集落）が存在する可能性が一段と高くなったものと思われ。この様なことも考え合わせると、当時の人たちの住居域以外の様相や縄文時代中期中頃の土器群の変遷を知るうえでは、大きな成果を収めることができました。

本報告書が、今後の埋蔵文化財の保護と研究において、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査の実施から報告書の作成、刊行に当って多大なる御協力を頂いた社団医療法人新和会（理事長 及川新）をはじめ、実際の調査作業に携わった市民の皆様及び関係各位に対し厚く御礼を申し上げます。

平成元年6月

宮古市教育委員会

教育長 保 坂 純 三

## 例 言

1. 本書は、岩手県宮古市山口高根遺跡の昭和63（1988）年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、社団医療法人新和会（理事長 及川新）の委託を受け宮古市教育委員会が主体となり、緊急発掘調査事業として実施した。
3. 本書の執筆には、高橋、鎌田が担当し編集には鎌田があたった。
4. 調査座標は、平面直角座標第X系に基づいた。
5. 高さは、標高値をそのまま使用した。
6. 土層観察に際しては、『新版標準土色帖』（1967 小山正忠、竹原秀雄）を参考とした。
7. 発掘調査及び本書作成にあたり、次の方々からの御教示、御指導を頂いた。記して感謝申し上げます。（敬称略）
  - ・ 岩手県教育委員会文化課 高橋信雄 佐々木勝
  - ・ 岩手県埋蔵文化財センター 昆野靖 小田野哲憲 玉川英喜 光井文行 高橋義介
  - ・ 陸前高田市立博物館 佐藤正彦
  - ・ 宮古市教育委員会 武田将男
  - ・ 宮古市文化財保護審議会委員 斎藤英樹
8. 本文中の引用文献の略称は次の通りとした。（すべて宮古市教育委員会刊行）
  - 『宮古市遺跡分布調査報告書 1～4』 武田将男 1983～86→『分布調査 1～4』
  - 『宮古市遺跡分布図 昭和60年度版』 武田将男 1986→『分布図 86』
  - 『崎山遺跡群Ⅰ—昭和61年度発掘調査概報』 高橋憲太郎 1987→『崎山遺跡群 Ⅰ』
  - 『崎山遺跡群Ⅱ—昭和62年度発掘調査概報』 高橋憲太郎 1988→『崎山遺跡群 Ⅱ』

# 目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査要旨	1
3. 調査体制	1・2
II 遺跡の立地と環境	5
III 調査内容	8
1. 層序	8
2. 検出した遺構と遺物	15
3. 遺構外出土遺物	70
IV 調査のまとめ	89

# 插图目次

第1図	位置図	2
第2図	高根遺跡と周辺の遺跡	3
第3図	地形分類図	4
第4図	高根遺跡と周辺の遺跡	6
第5図	調査区と周辺の地形	7
第6図	層序図 1	9
第7図	層序図 2	10
第8図	遺構全体図	11
第9図	遺構配置図 1	12
第10図	遺構配置図 2	13
第11図	遺構配置図 3	14
第12図	1号～4号土塚	16
第13図	1号～15号土塚出土土器	17
第14図	5号、6号土塚	20
第15図	7号～9号土塚	21
第16図	10号～14号土塚	22
第17図	15号、16号土塚	23
第18図	17号～22号土塚	25
第19図	23号～25号土塚	26
第20図	26号土塚	27
第21図	27号、28号土塚	28
第22図	30号土塚	29
第23図	31号～34号土塚	32
第24図	35号～38号土塚	33
第25図	39号～41号土塚	34
第26図	42号、43号土塚	35
第27図	43号～49号土塚	36
第28図	50号～54号土塚	40
第29図	55号～58号土塚	41
第30図	59号～64号土塚	42
第31図	65号～68号土塚	48
第32図	69号～71号土塚	49
第33図	72号土塚	50
第34図	73号～78号土塚	51
第35図	79号、80号土塚	51

第36图	81号~86号土坑	52
第37图	87号、88号土坑	53
第38图	89号、90号土坑	54
第39图	91号~93号土坑	55
第40图	94号土坑	56
第41图	95号土坑	56
第42图	96号~98号土坑	57
第43图	99号、100号土坑	59
第44图	101号~104号土坑	61
第45图	105号、106号土坑	62
第46图	107号~110号土坑	63
第47图	111号土坑	64
第48图	112号、113号土坑	65
第49图	114号土坑	65
第50图	第1号、2号炉迹	66
第51图	土坑内出土土器 ①	67
第52图	“ ②	68
第53图	“ ③	69
第54图	炉迹出土土器	70
第55图	遺構外出土土器 ①	74
第56图	“ ②	75 · 76
第57图	“ ③	77
第58图	“ ④	78
第59图	“ ⑤	79
第60图	“ ⑥	80
第61图	“ ⑦	81
第62图	“ ⑧	82
第63图	“ ⑨	83
第64图	“ ⑩	84
第65图	遺構外出土石器、土製品	86
第66图	遺構外出土石器	87
第67图	“	88

# 写真図版目次

- 第1図版 遺跡全景
- 第2図版 1号土塚完掘 1号土塚土層断面
- 第3図版 1号土塚完掘 4号土塚土層断面
- 第4図版 5号土塚完掘 10号土塚完掘
- 第5図版 43号土塚 76号土塚
- 第6図版 第2号炉跡 土塚群全景1
- 第7図版 土塚群全景2 3
- 第8図版 39号土塚(土器出土状況) 70号土塚(土器出土状況)
- 第9図版 54号土塚(土器出土状況) 52号土塚(土器出土状況)
- 第10図版 遺構外土器出土状況(第56図 40) 土製品出土状況(第65図 243)
- 第11図版 土塚内出土土器(第50~52図)
- 第12図版 遺構外出土土器1
- 第13図版 遺構外出土土器2
- 第14図版 遺構外出土土器3
- 第15図版 遺構外出土土器4
- 第16図版 土塚埋土出土土器(第13図)
- 第17図版 遺構外出土土器(第61図) 遺構外出土土器(第62図)
- 第18図版 遺構外出土土器(第63図) 遺構外出土土器(第64図)
- 第19図版 遺構外出土石器 土製品(第65図) 遺構外出土石器



# I 調査経過

## 1. 調査に至る経過

宮古市では近年、種々の開発の波がおし寄せて来ている。それに伴い、埋蔵文化財包蔵地である遺跡との競合が顕著となり、教育委員会と開発側との事前協議件数や調査依頼の申請数も急増している。このような状況において、宮古市教育委員会では、文化財の保護と活用の立場から遺跡の保存が回避と判断された遺跡については、開発側の理解と協力のもとに宮古市教育委員会が主体となり、緊急発掘調査を実施してきた。

緊急発掘調査

高根遺跡は、宮古市大字山口第11地割字赤畑地内に所在し、宮古市遺跡コードLG23-1253、遺跡番号Ya-08として登録し周知されている。昭和63年3月、社団法人新和会（理事長 及川新）より当遺跡の一部を含む地区に、老人保健施設を建設したいという届出がなされた。これを受けて宮古市教育委員会は、協議を行った結果、記録保存を前提として委託契約の協定を交わし昭和63年5月12日より緊急発掘調査を実施した。

記録保存

## 2. 調査要旨

発掘調査は、昭和63年5月12日～8月4日まで実施した。調査面積約1,500㎡。

<検出遺構> フラスコピットや集石を伴う土壇などの土壇跡112基、屋外石組炉2基

<検出遺物> 出土遺物の大半は、縄文時代中期の土器で石器の出土量は少ない。土製品が1点出土している。土器は、接合し復元実測可能なものが10数点ある。

## 3. 調査体制

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 小野寺聰（昭和64年1月退職）  
保坂純三（平成元年4月着職）

調査協力 社団法人新和会（理事長 及川新）

調査総括 社会教育課長 吉田昌義（平成元年4月人事異動により議会事務局長へ）  
撰待保典（ " " 着任）

社会教育係長 小本 哲

調査担当 社会教育係主事 高橋憲太郎、鎌田祐二、盛合義信

また、調査にあたり、次の各位から多大なる御協力を頂いた。

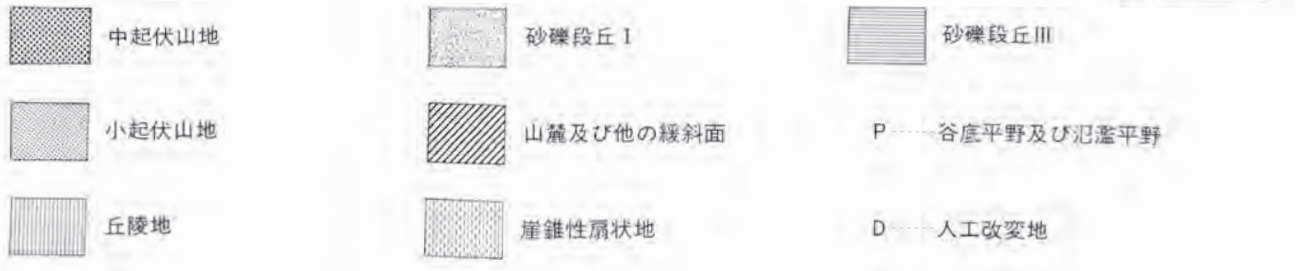
<発掘調査> 阿部 豊 村岡憲一 田崎昭吾 刈屋昭三 中居磯雄 木村 博 伊藤晴男  
内藤勝弘 佐々木茂 古館友三 松館喜八 小林 茂 小島貞一 館洞 進  
前川友宏 吉田昭 成ヶ沢英一郎 佐伯裕則

<整理作業> 阿部 豊 村岡憲一 山野目崇子 八木由美子





第2図 高根遺跡と周辺の遺跡



第3図 地形分類図

## II 遺跡の立地と環境

宮古市は、岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、北緯 $39^{\circ}29'49''$ ～ $39^{\circ}43'23''$ 、東経 $141^{\circ}45'20''$ ～ $142^{\circ}04'44''$ まで市域とし、総面積 $338.38\text{km}^2$ をはかる。市域東部の重茂半島鮭ヶ崎は、本州最東端部にあたる。

宮古市では、昭和57年度から4ヶ年にわたり、市内の遺跡詳細分布調査を実施した。その結果約400ヶ所の遺跡が確認され、『分布調査1～4』及び『分布図86』としてまとめられている。また、昭和61年度からは、市内北部の崎山地区に存在する遺跡群の内容把握と保存のための資料収集を目的とし、5ヶ年計画で第1期の範囲確認調査を継続しており、『崎山遺跡群I～III』を刊行している。

宮古市は、地形的には、津軽石川から宮古湾の西縁沿いを北北東～南南西に走向する津軽石断層帯を境に、西部の北上山地から続く、中・小起伏の山地帯及びその縁辺部に形成された丘陵帯と東部の重茂半島域に大きく2分される。更に、閉伊川、津軽石川の河口及びその各支流域に形成された平坦部に分けられる。

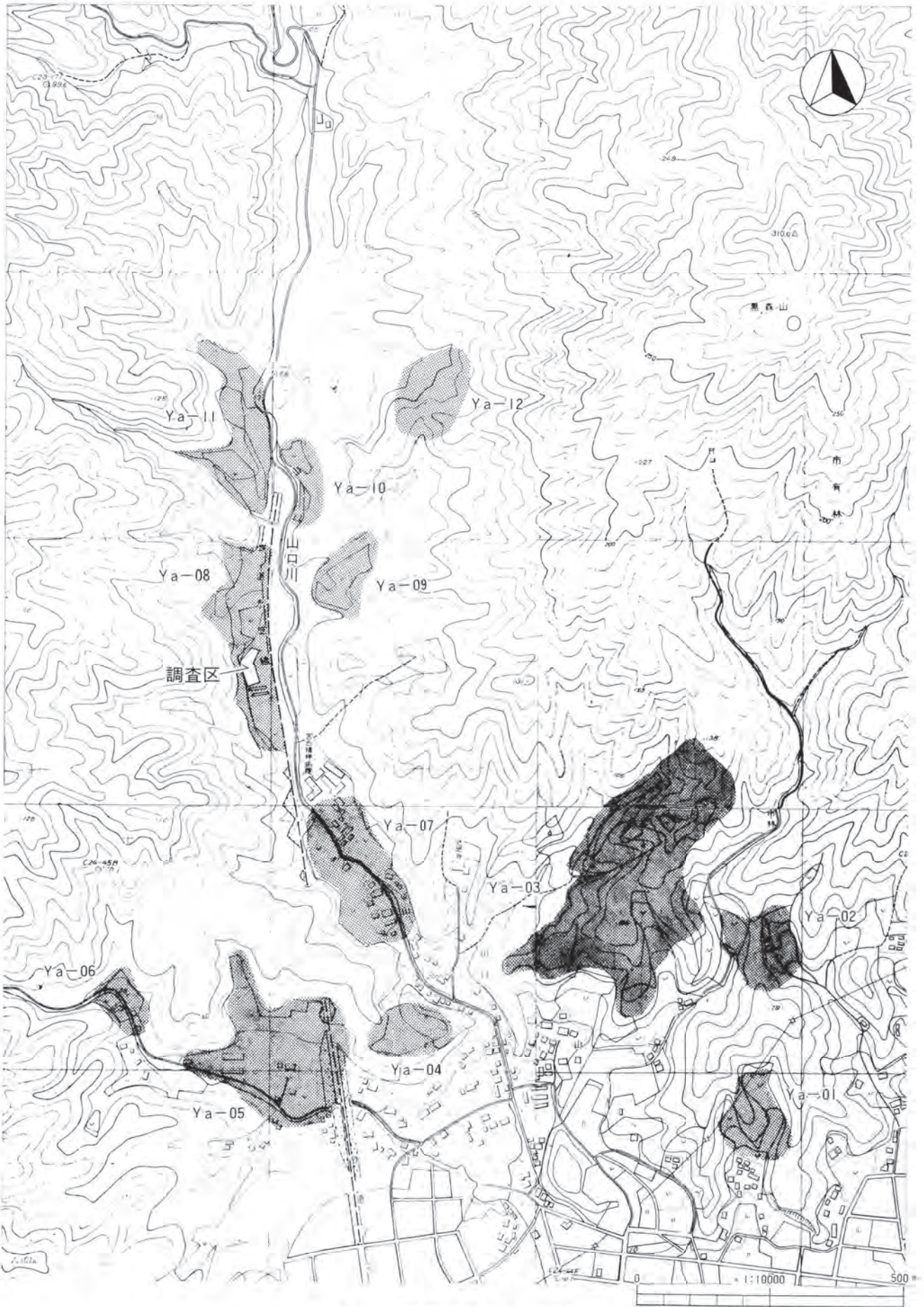
高根遺跡は、市内の北西部に位置し、閉伊川の支流山口川の流域に所在する。山口川は、標高 $400\text{m}$ ～ $200\text{m}$ の小起伏山地の黒森山山地を北～南流し、その流域に小規模な崖錐性扇状地や小起伏山地から続く緩斜面を形成している。当遺跡も、このような緩斜面上に立地する遺跡の一つで、間近には小起伏山地が迫っている。

当遺跡の周辺一帯の山口川流域沿いには、現在の所12ヶ所の遺跡が確認されている(第4図)。これは、大きく3つの地区に分けられる。

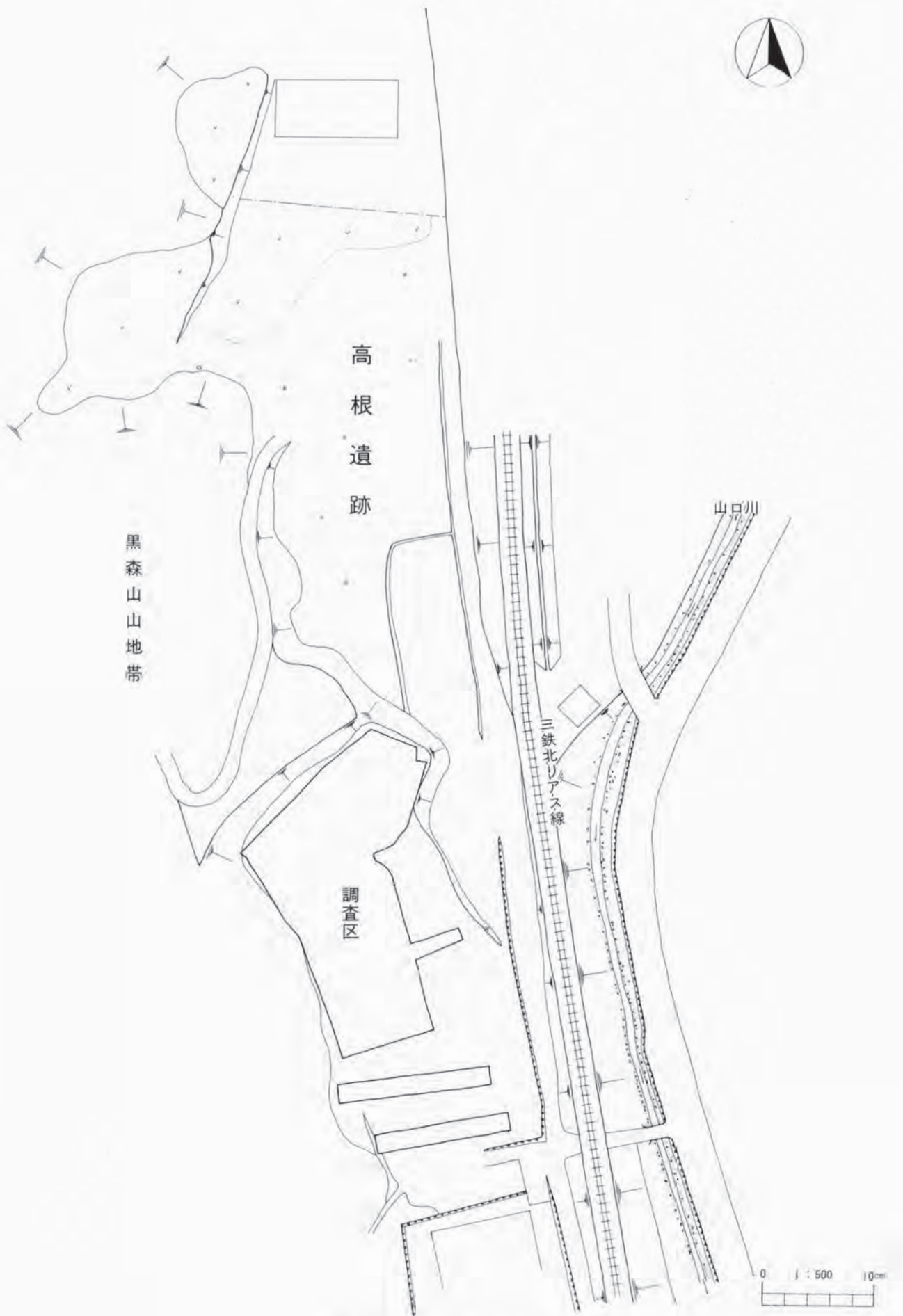
- a. 黒森山に続く台地上に立地するもの——Ya-01～Ya-03
- b. 山口川と東流する小河川にはさまれる台地上に立地するもの——Ya-04～Ya-06
- c. 山口川上流部の小起伏山地に続く緩斜面上に立地するもの——Ya-07～Ya-12

以上の各遺跡の詳細については、『分布調査1』及び『分布図86』を参照されたい。大部分は、縄文時代の遺跡だが、Ya-03は、南北朝時代～戦国時代の館跡である。また、Ya-07の赤畑遺跡は、県道拡幅工事に伴い昭和62、63年度に岩手県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施されている。その結果、堅穴住居跡、上垣、溝跡、焼土、柱穴などの遺構や縄文時代土器片、石器、鉄鏃、鉄滓などの遺物が検出されている。

山口川



第4図 高根遺跡と周辺の遺跡



第5図 調査区と周辺の地形

### III 調査内容

#### 1. 層序

今回の調査区は、高根遺跡の全体的な広がりの中でも南側にあたる部分と考えられる。調査区の北側境は、比高差約3m程の段差があるが、これは、人工的に削平されたもので元々は、一連の緩斜面であったものと考えられる。

#### 層序

調査区の層序は、土層観察用に設定した大ベルトの土層観察結果に基づくものである。基本的には大きくI～VI層に大別される。

I層 表土層。暗褐色腐植土層で全くやわらかくしまりなし。木根による攪乱が著しい。調査区の北側の斜面部程薄く、斜面がゆるくなるに従って厚くなっていく。表土層自体には、ほとんど土器片などの遺物は含まない。しかし、調査区外の一段高くなる北側の畑地などには、かなりの土器片の散布が認められ、こちらの方が高根遺跡の中心部と考えられる。

II層 幾分粘性のある黒色土層でやわらかくしまっていない。炭化物粒子や礫が混入する。調査区の北、南側で薄く、中央部付近が厚くなっている。多量の土器片などの遺物を含むが、上部よりも下部の方が多く、遺物の包含状況などから考えて上下2層に分離できる可能性もあったが、明確に把握できなかった。

III層 褐色土層。シルト質土で比較的固くしまっている。III層は調査区の中央部の斜面がゆるやかになる付近から明黄褐色土を大塊状に含むIII b層とその上層のIII a層に分離できる。III層中には多量の炭化物粒、礫や土器などの遺物が包含される。遺物は、III b層よりもIII a層の方が多く含まれている。

IV層 暗褐色土層。比較的固くしまっている。調査区のほぼ中央部、斜面がゆるやかになりはじめる付近が最も厚い。遺物の包含状況は、II層、III層に比べてかなり少なくなってくる。

V層 黒褐色土層。花崗岩の風化した砂礫粒子を多く含み、全体的に砂っぽい。比較的固くしまっている。土器などの遺物は少ない。

VI層 黄褐色土(地山)を大ブロック状に含む褐色～黄褐色土層。遺物は全く含まない。地山漸移層。

VII層 黄褐色土の地山層

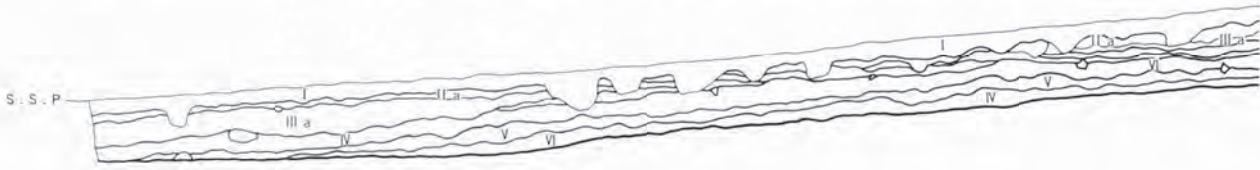
#### 2. 遺構、遺物の検出状況

今回の調査では、多数の土坑と2基の炉跡を検出した。このうち調査区の北側に検出した1号～27号土坑は、地山面上に検出したものである。これは、かなりの部分削平されているもので、調査区中央部の比較的平坦部に検出した30号～114号土坑などと層位的に同じものなのかは、確認できなかった。一方、中央部の30～100号土坑は、III b層上面で検出したが、遺構の掘り込み面自体はII層下部～III層中と考えられるもので、遺構検出の段階で掘りすぎてしまった。101号～114号土坑は、VI層下の地山面上に検出したものだが、遺構の掘り込み面自体はIV層、V層中と考えられるものであり、30～100号土坑よりは下位に存在し古い時期のものである。

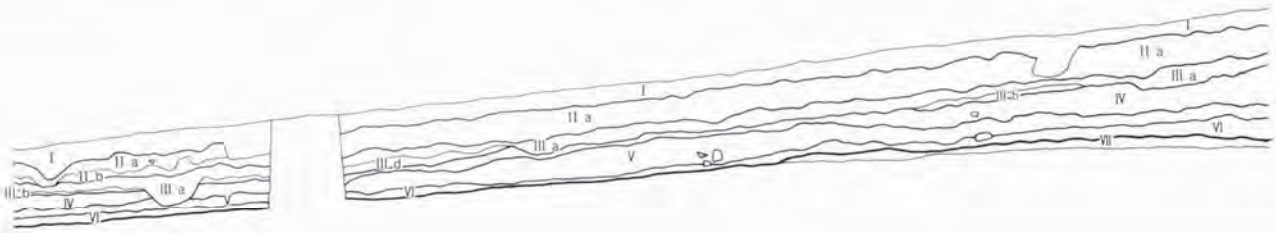


中央ベルト (N-S)

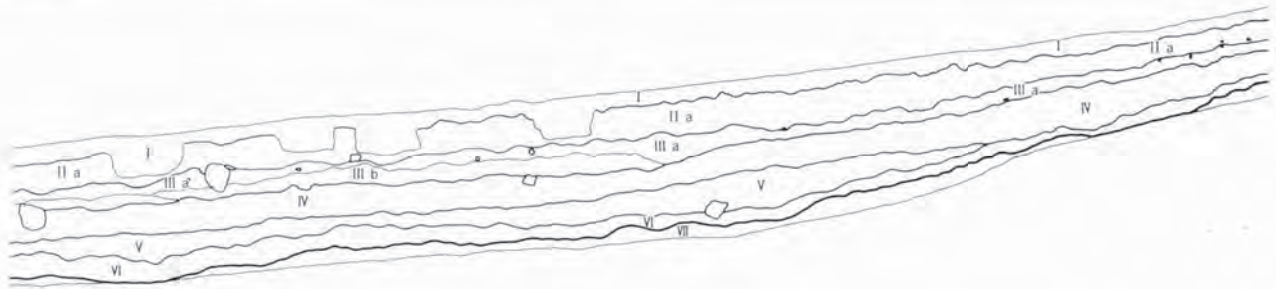
46.600 m



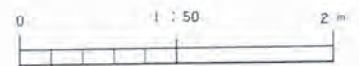
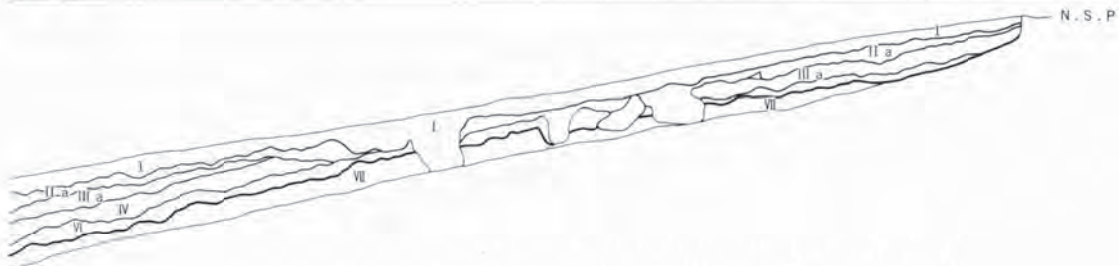
48.200 m



45.000 m

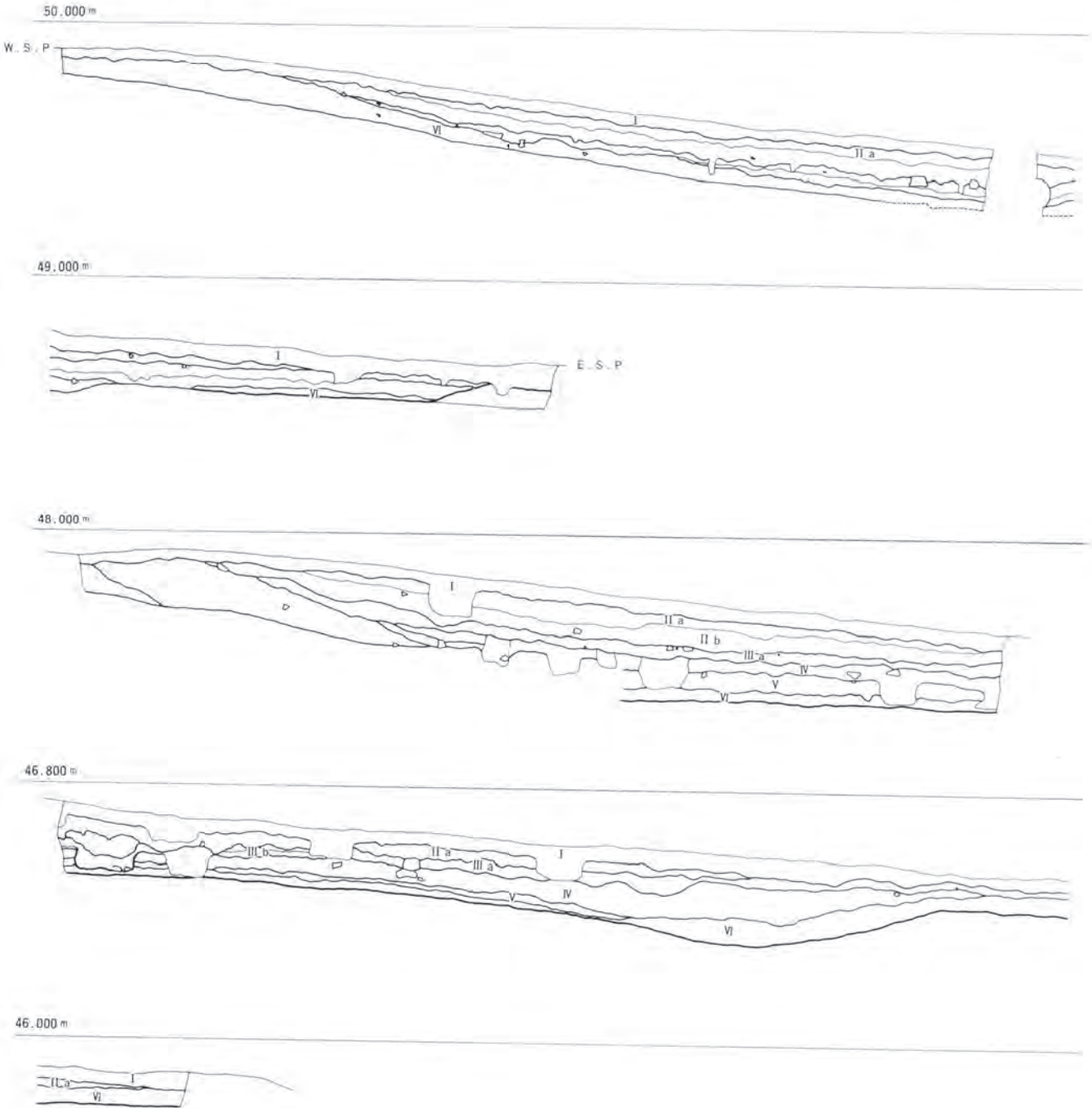


52.000 m

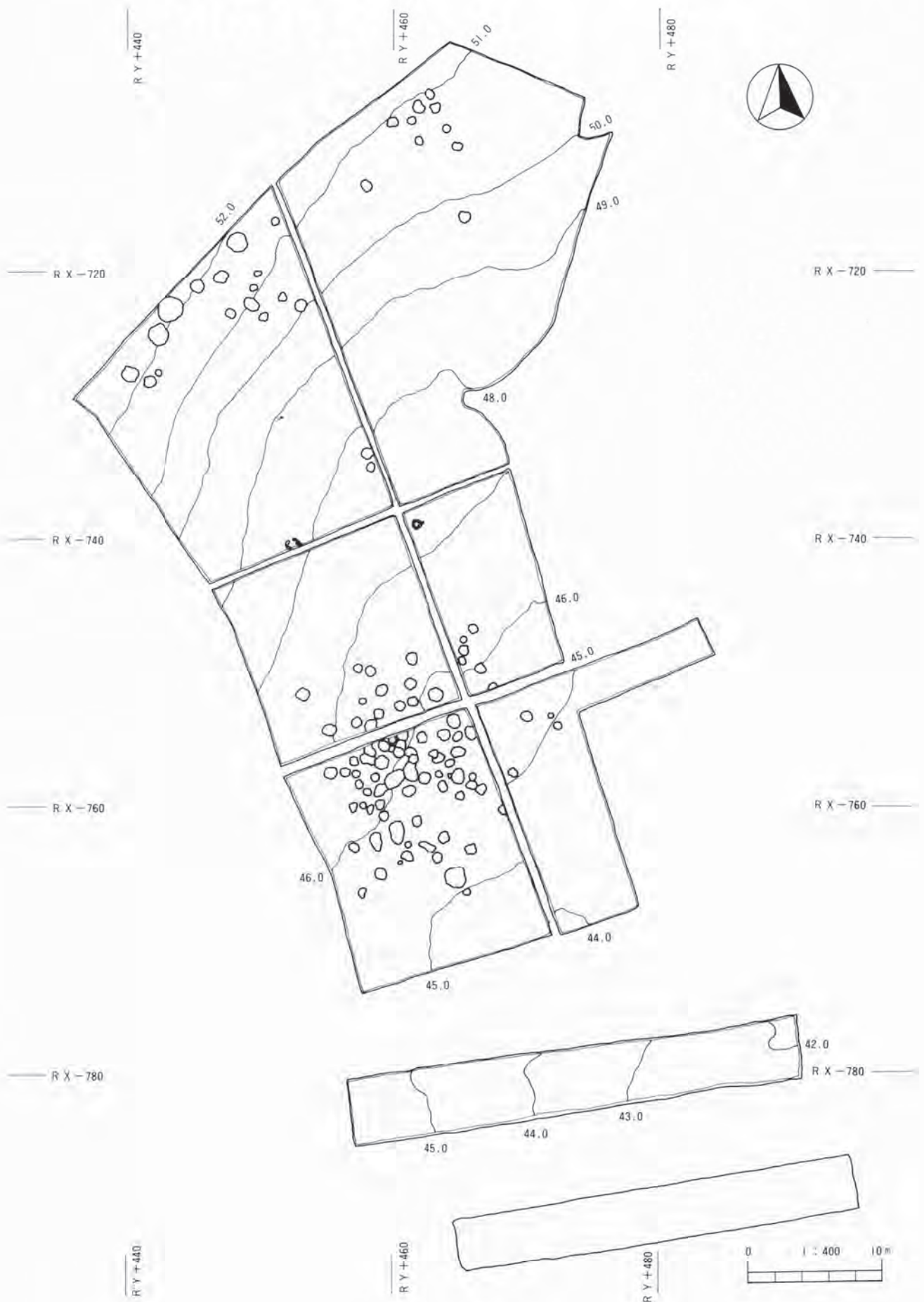


第6図 層序図 I

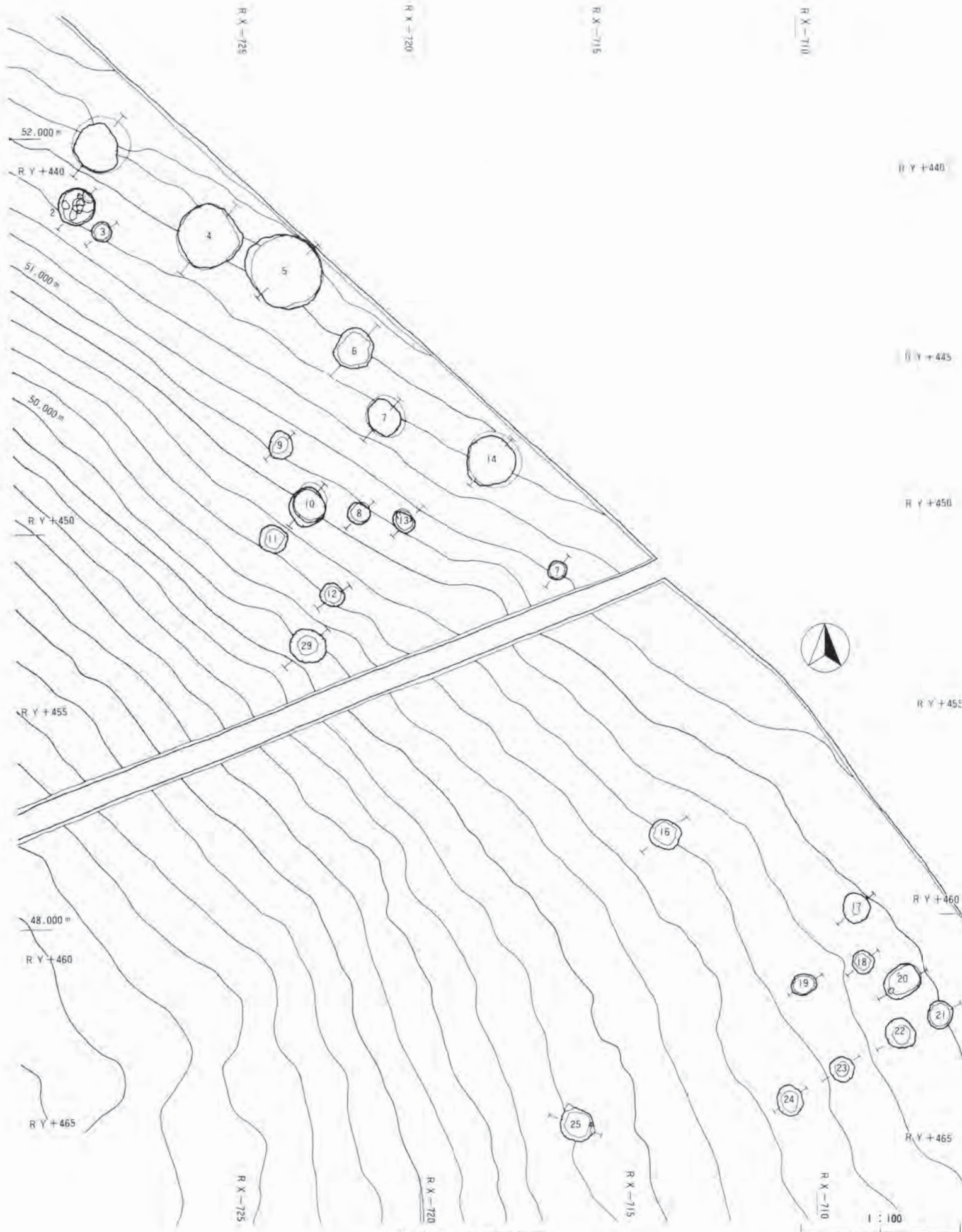
東西ベルト (E-W)



第7図 層序図2



第8図 遺構全体図



第9図 遺構配置図 I



第10図 遺構配置図2



第11図 遺構配置図3

#### 1号土坑（第12図）

平面形 上場は不整楕円形、下場で円形 規模 上場で1.25×1.1m、下場直径1.45m

壁の状態 フラスコ状を呈す 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくしまりなし。

B層—やや明るい黒褐色土主体。炭化物粒、土器片含む。やわらかくしまりなし。

C層—黒褐色土主体。明黄褐色土を塊状に含む。比較的固いが、しまりはない。

D層—暗褐色土主体。やや粘性有り。やわらかくしまりなし。

E層—やや明るい黒褐色土主体。明黄褐色土の大塊を含む。やわらかくしまりなし。

遺物出土状況 A層、B層の壁際付近を中心に出土している。

土器（第13図） ほとんどが地文だけの小破片だが、12は縦位に沈線文を施文するもの。

#### 2号土坑（第12図）

平面形 円形 規模 直径1.45m 壁の状態 垂直からややゆるやかに立ちあがる

底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。多量の花崗岩礫が混在する。比較的固くしまっている。

出土遺物 埋土中より少量の土器片出土（第13図）。14は口縁部の破片。口縁部に隆帯を施し口縁部上端は無文。16は沈線文を施すもの。

#### 3号土坑（第12図）

平面形 円形 規模 直径0.5m 壁の状態 ほぼ垂直

底面の状態 中央部が深くなる

埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色～明褐色の砂質土を粒塊状に含む。比較的固くしまる。

出土遺物 検出されていない

#### 4号土坑（第12図）

平面形 上場、下場とも不整円形 規模 直径1.55m 壁の状態 ほぼ垂直

底面の状態 ほぼ平坦だが南壁付近が幾分低くなる

埋土 A層—暗褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。全体的に砂粒（花崗岩風化粒子）も多く含む。比較的固くしまっている。

B層—暗褐色～褐色土主体。明黄褐色土塊を多量に含む。比較的固くしまっている。

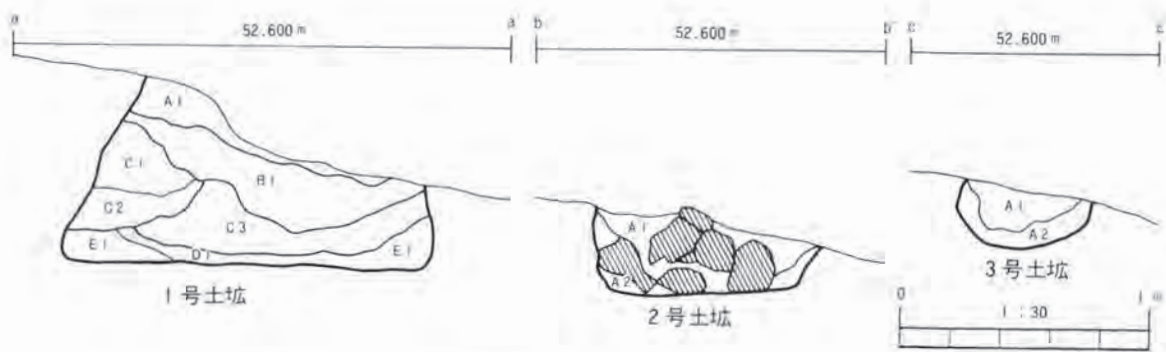
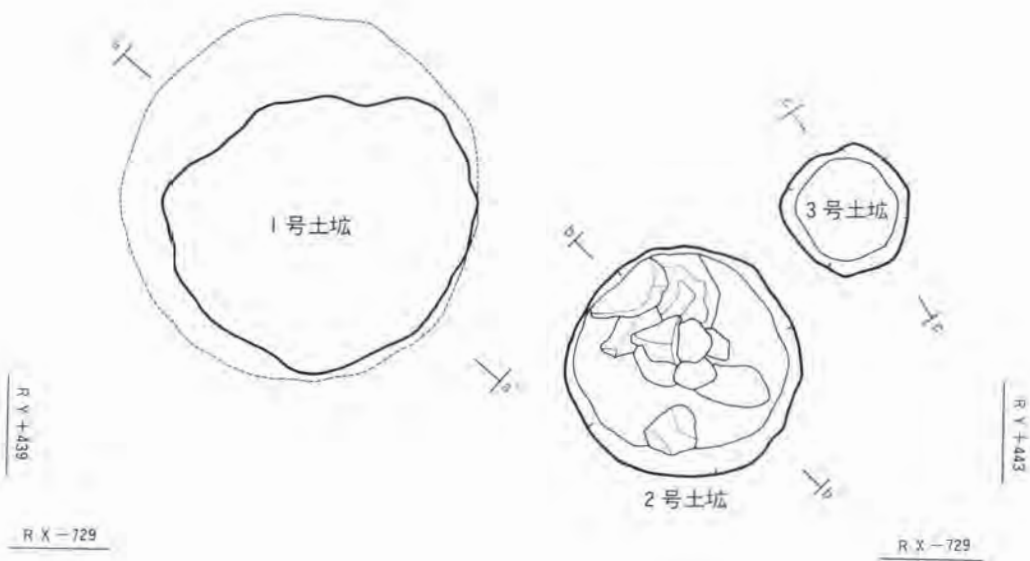
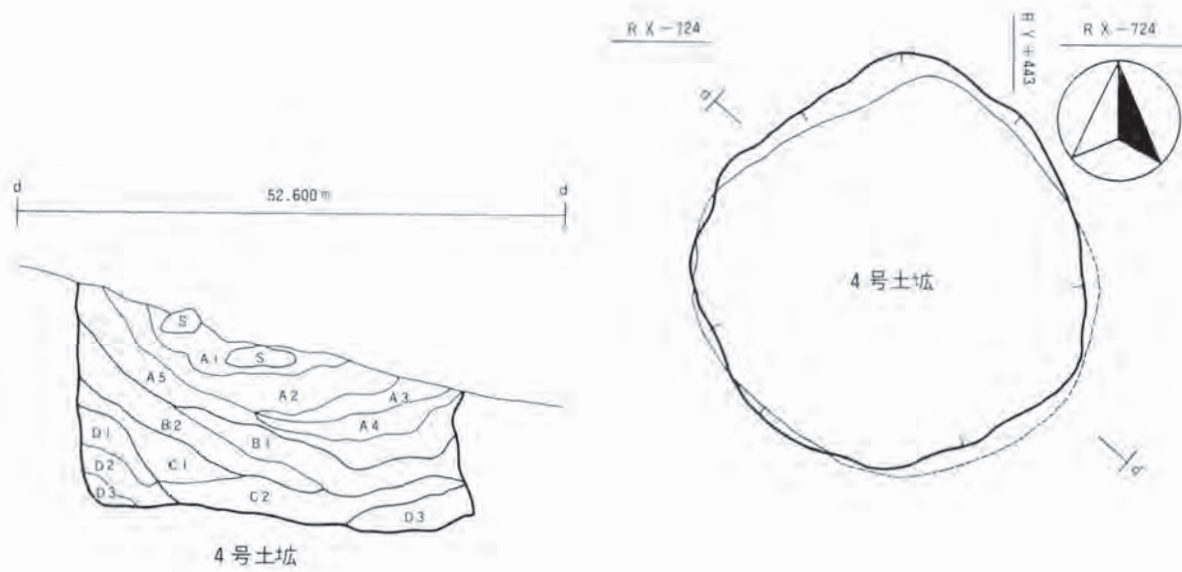
C層—褐色土主体。黄褐色土、黒褐色土を塊粒状に含む。比較的固くしまっている。

D層—黄褐色～明黄褐色土主体。暗褐色土を散発的に含む。比較的固くしまっている。

出土遺物 A層より少量の土器片出土（第13図）。15は口縁部上端に平行する隆沈線文を施すもので地文には縦回転の単節斜縄文を施文する。

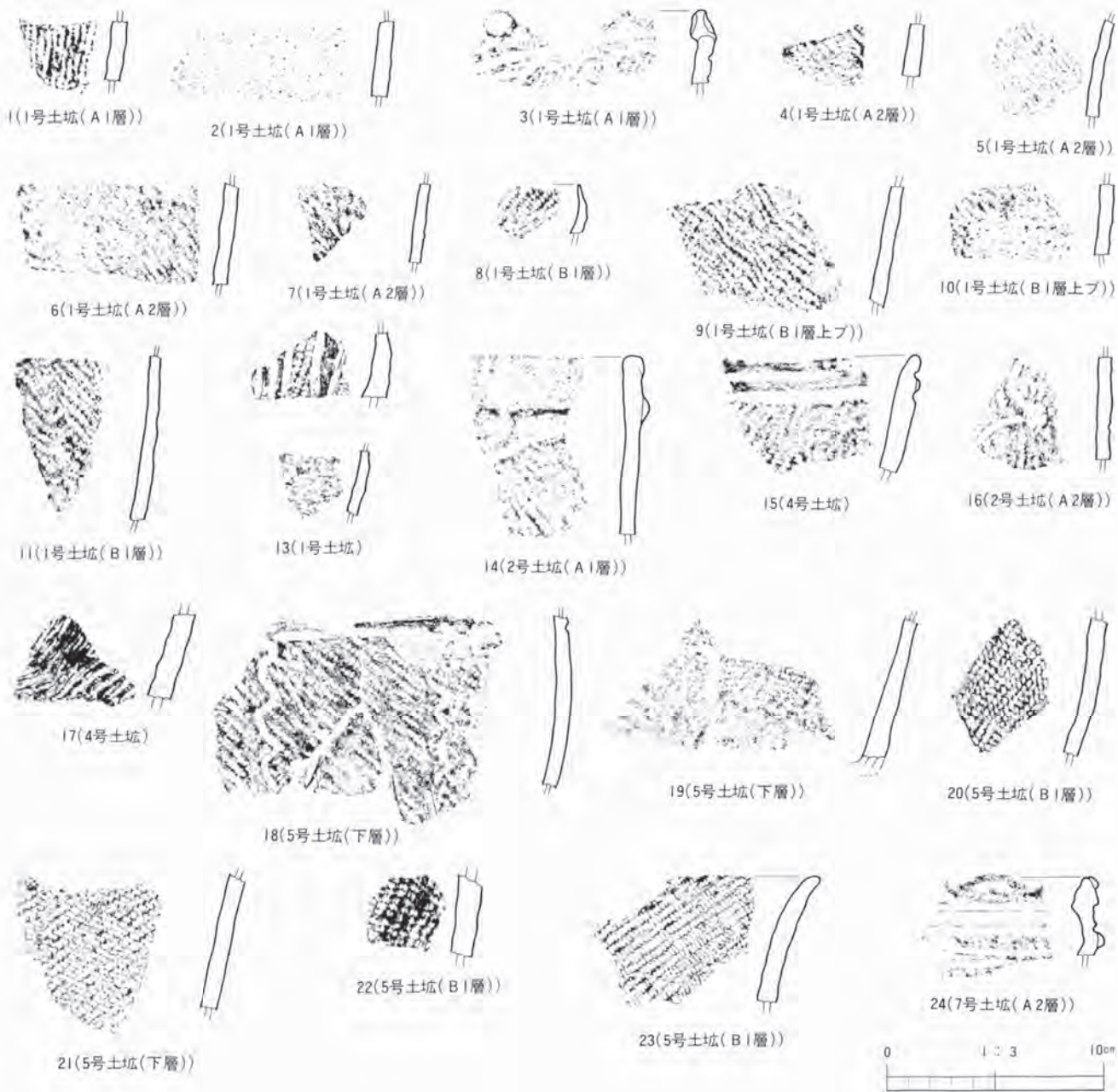
#### 5号土坑（第14図）

平面形 楕円形 規模2.05×1.7m 壁の状態 フラスコ状を呈す



第12图 1号~4号土坑





第13図 1号~7号土壇埋土出土土器

底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色砂質土の大塊を含む。しまりがなく比較的かたい。

B層—暗褐色～褐色土主体。明黄褐色土を粒状に含む。やわらかくしまりが無い。

A層、B層ともに花崗岩風化砂礫粒子をほぼ全体的に含む。

出土遺物 B層より少量の土器片出土（第13図）。23は口縁部上端から斜縄文を施文したもので口縁部は外反する。21、22は複節斜縄文を施文したものの。

#### 6号土坑（第14図）

平面形 円形 規模 直径1.05m 壁の状態 幾分傾斜しながら立ちあがる

底面の状態 東南側に傾斜する。凸凹も著しい。

埋土 A層—暗褐色土主体。明黄褐色土を塊粒状に含む。やわらかくしまりは無い。

出土遺物 検出されていない

#### 7号土坑（第15図）

平面形 上場、下場ともに楕円形 規模 上場で0.9×0.75m、下場で0.95m

壁の状態 フラスコ状を呈す 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土を塊状に含む。比較的固くしまっている。

B層—褐色砂質土主体。黄褐色土、黒褐色土塊を含む。比較的固くしまっている。

C層—やや粘性のある黄褐色土主体。黒褐色土を粒塊状に含む。やわらかくしまりなし。

出土遺物 A<sub>1</sub>、A<sub>2</sub>層中より少量の土器片出土。24はA<sub>2</sub>層より出土したもので、平行する隆沈線文を施文するもの。小波状口線を呈す。

#### 8号土坑（第15図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.7m 壁の状態 やや傾斜しながら立ちあがる

底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土を粒塊状に多く含む。固いがしまりがあまりない。

出土遺物 検出されていない

#### 9号土坑（第15図）

平面形 不整形楕円形 規模 0.6×0.5m 壁の状態 北～東～南壁は、やや傾斜しながら立ちあがるが、西壁はフラスコ状を呈す 底面の状態 凸凹が著しい。

埋土 A層—黒褐色～黒色土主体。黄褐色土塊多量に含む。全くやわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されていない

#### 10号土坑（第16図）

平面形 上場は円形、下場は楕円形 規模 上場直径0.9m、下場0.9×0.8m

壁の状態 フラスコ状を呈す 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土を粒状に少量含む。比較的固くしまっている。

B層—やや粘性のある黒色土主体。固く比較的しまっている。

C層—褐色土主体。黄褐色土塊多量に含む。やわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されていない

#### 11号土坑（第16図）

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁の状態 やや傾斜しながら立ちあがる

底面の状態 平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土を小塊～粒状に含む。比較的固くしまっている。

出土遺物 検出されていない

#### 12号土坑（第16図）

平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

埋土 A層 黒褐色砂質土主体。黄褐色土の小塊多量に含む。全くやわらかくしまりなし。

出土遺物 単節斜縄文を施文した小片が少量出土している

#### 13号土坑（第16図）

平面形 円形 規模 直径0.55m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層 黒褐色砂質土主体。明黄褐色～黄褐色土を塊状に含む。比較的かたくしまる。

B層 黄褐色土層。掘りすぎたもの。A層を以って底面となる。

#### 14号土坑（第16図）

平面形 円形 規模0.95×0.85m 壁、底面の状態 すり鉢状を呈す

埋土 A層—黒褐色土主体。A層には明黄褐色土塊及び焼土塊を多量に含む。比較的かたくしまっている。A、A層中には花崗岩が風化した砂礫粒子を含む。

出土遺物 A層から単節斜縄文を施文した極小片少量出土。

#### 15号土坑（第17図）

平面形 上場、下場とも円形 規模 上場直径1.25m、下場直径1.45m

壁の状態 フラスコ状を呈す 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層 暗褐色土主体。明黄褐色土を小塊状に混入する。

B層 黒色土主体。比較的固くしまっている。炭化物を多く含む。

C層 黒褐色土主体。黄褐色土を大～小塊状に多く混入する。やわらかくしまりなし。

D層 黒褐色土主体。炭化物粒少量含む。黄褐色土を粒塊状に混入する。

出土遺物 埋土中より土器片が出土したが、すべて地文（斜縄文）のみのもの。

#### 16号土坑（第17図）

平面形 円形 規模 直径0.45m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 暗褐色砂質土主体。黒色土塊少量含む。全くやわらかくしまりなし。

R X-720

R V-442

R X-720



6



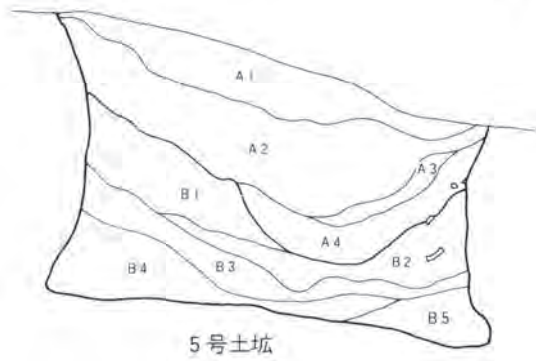
6号土坑

6



5号土坑迹

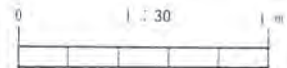
R V-442



5号土坑

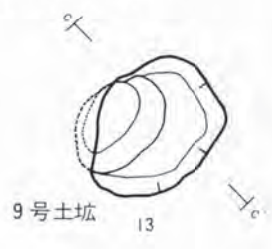


6号土坑



第14图 5号·6号土坑

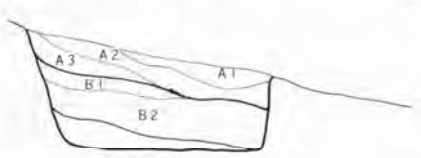
R X - 719



R X - 719  
R Y + 451



R Y + 451



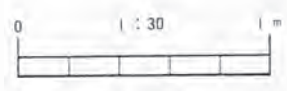
7号土坛



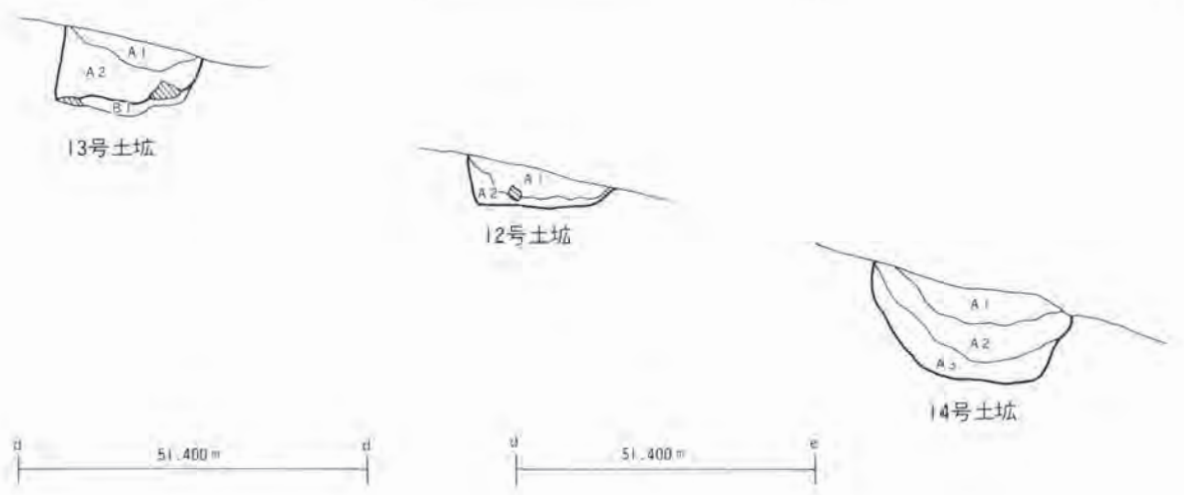
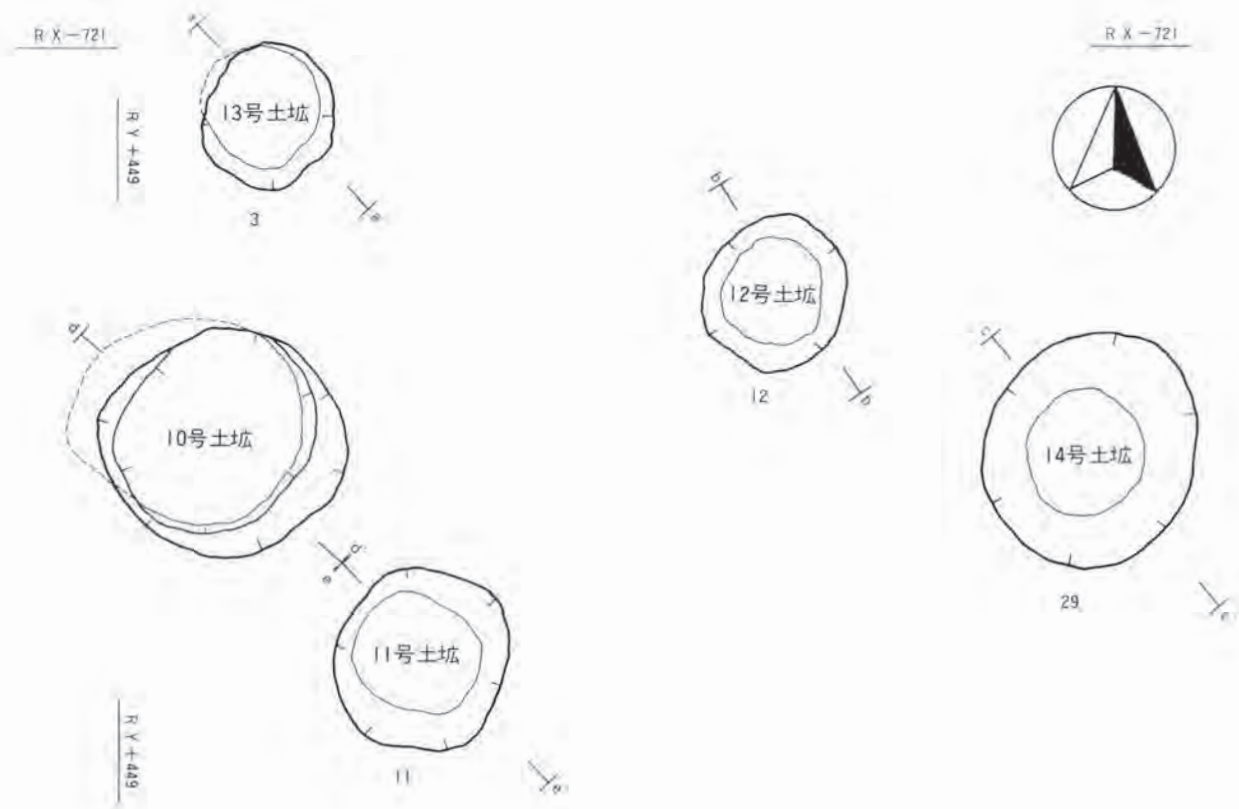
8号土坛



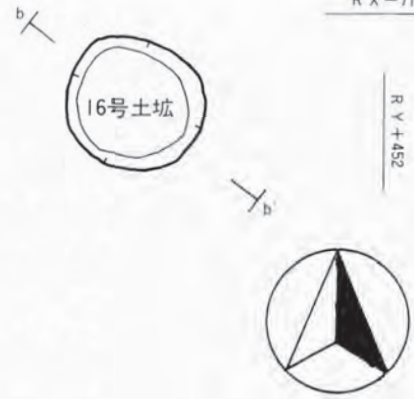
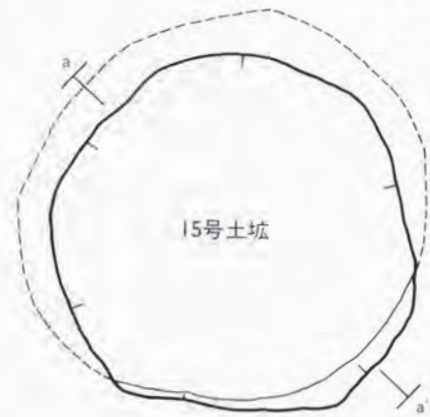
9号土坛



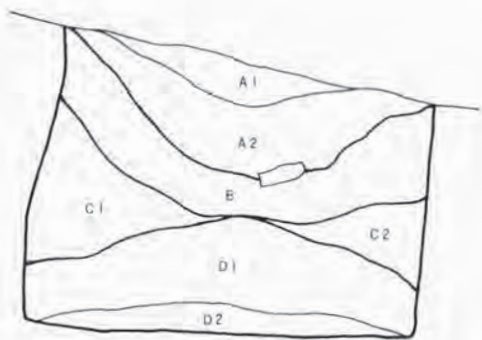
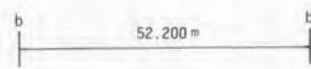
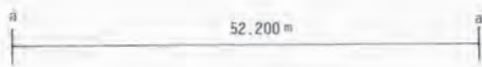
第15图 7号~9号土坛



第16图 10号~14号土坛



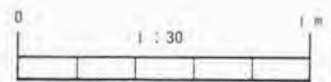
R Y+452



15号土坑



16号土坑



第17图 15号·16号土坑

出土遺物 検出されなかった

17号土坑 (第18図)

平面形 円形 規模 直径0.75m 壁、底面の状態 すりばち状を呈す

埋土 A層—暗褐色砂質土主体。黄褐色土を粒塊状に少量含む。全くやわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されなかった

18号土坑 (第18図)

平面形 円形 規模 直径0.55m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す

埋土 A層—やや粘性のある黒色土主体。黄褐色少量含む。比較的固いがしまっていない。

出土遺物 検出されなかった

20号土坑 (第18図)

平面形 楕円形 規模 0.95×0.85m 壁の状態 北壁はフラスコ状、東～南～西壁はほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層—黒色土主体。暗褐色土塊多量に含む。比較的固くしまっている。

B層—暗褐色土主体。焼土ブロック少量含む。比較的固いがしまっていない。

出土遺物 B層中より単節斜縄文を施文した小破片1点出土

21号土坑 (第18図)

平面形 円形 規模 直径0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層—明るい黒褐色土主体。黄褐色土塊粒状に含む。全くやわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されていない

22号土坑 (第18図)

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁の状態 幾分傾斜をもつ 底面の状態 平坦

埋土 A層—黄褐色土主体。黒褐色土、暗褐色土塊状に多く含む。比較的固いがしまりなし。

B層—黒褐色土主体。黄褐色土粒状に少量含む。炭化物粒少量。比較的固くしまる。

C層—暗褐色土主体。黄褐色土塊多量に含む。やわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されていない

23号土坑 (第19図)

平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土粒状に少量含む。比較的固くしまっている。

出土遺物 検出されていない

24号土坑 (第19図)

平面形 楕円形 規模0.8×0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦



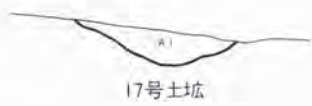
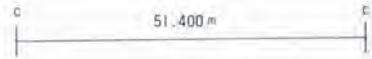
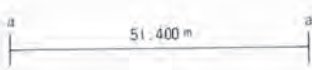
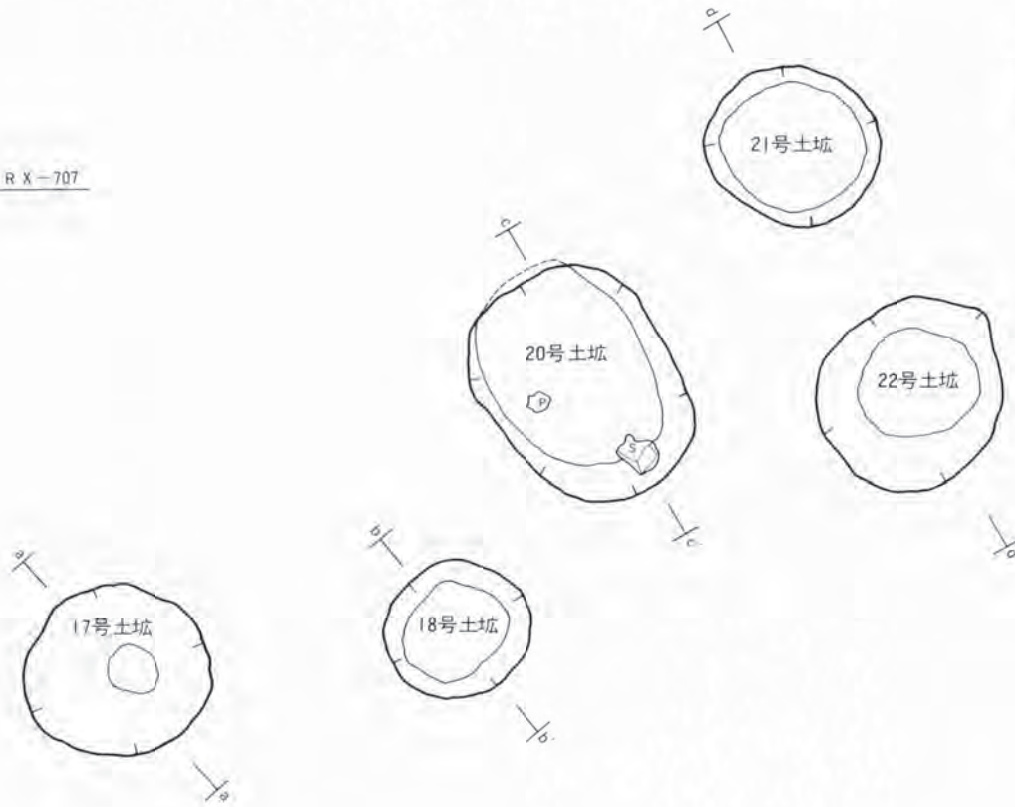
R X - 707



R X - 707

R Y + 454

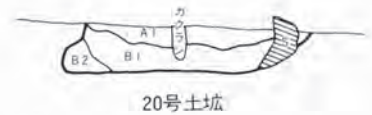
R Y + 454



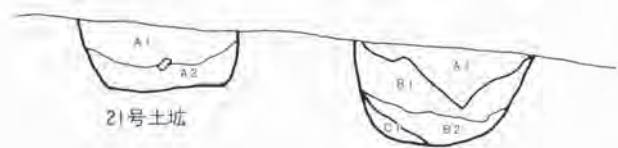
17号土坛



18号土坛

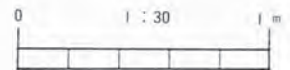


20号土坛

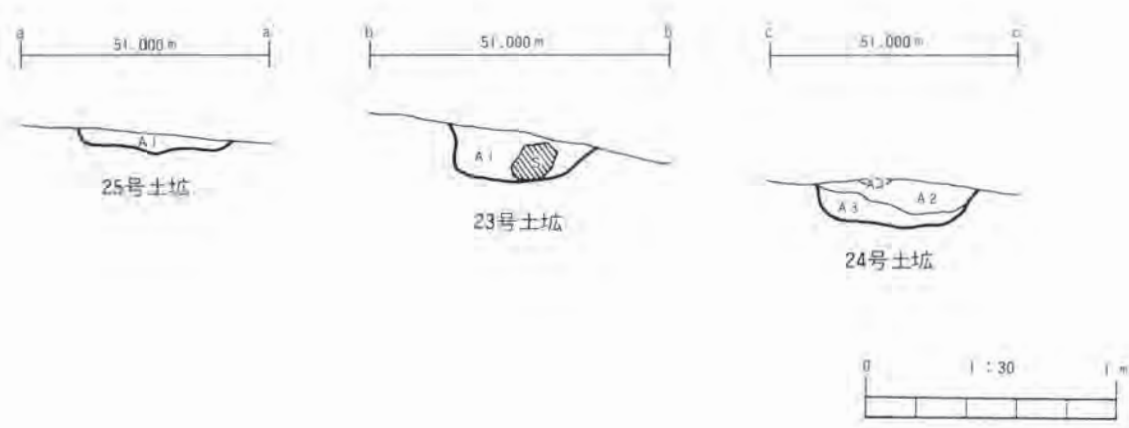
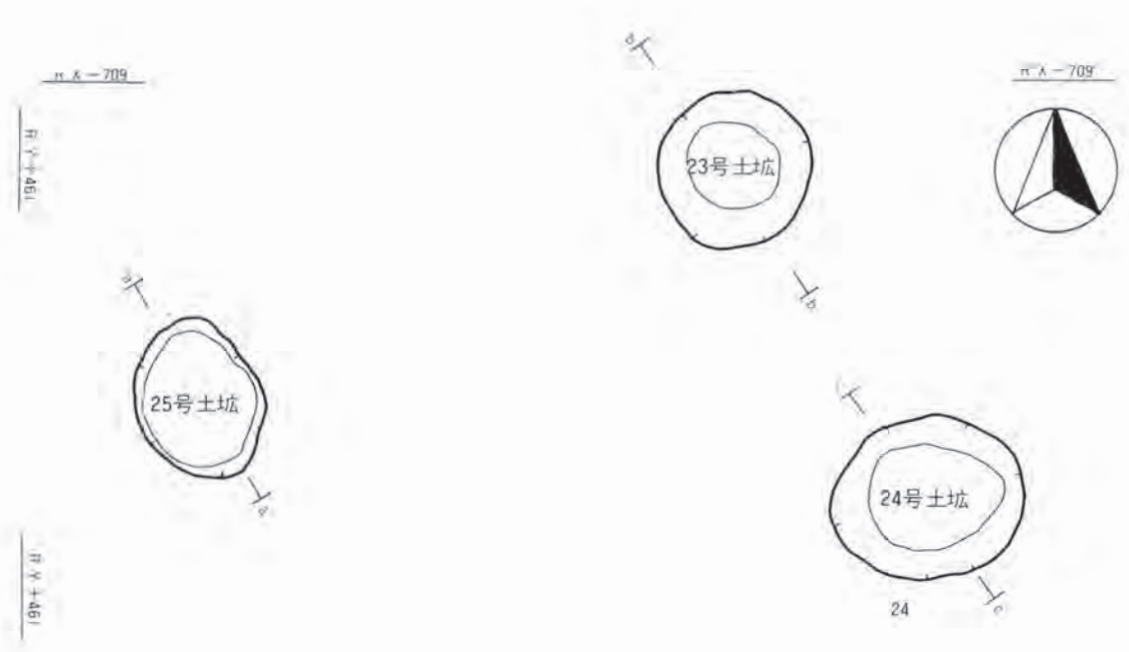


21号土坛

22号土坛



第18图 17号~22号土坛



第19图 23号~25号土坛

埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土はほとんど含まない。比較的固くしまっている。A層は焼土の塊。出土遺物 検出されていない

25号土坑（第19図）

平面形 楕円形 規模 0.65×0.55m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 凸凹有り

埋土 A層—黒色土主体。黄褐色土粒状に少量含む。比較的固いがしまっていない。

出土遺物 検出されていない

26号土坑（第20図）

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。壁際に花崗岩礫含む。全くやわらかくしまっていない。

出土遺物 検出されていない

27号土坑（第21図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.9m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層 黒褐色土主体。やや粘性有り。比較的固くしまっている。

出土遺物 検出されていない

28号土坑（第21図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.65m 壁の状態 やや傾斜する 底面の状態 平坦

埋土 A層—粘性のある黒色土主体。比較的固いがほとんどしまりなし。

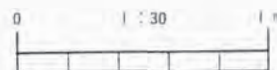
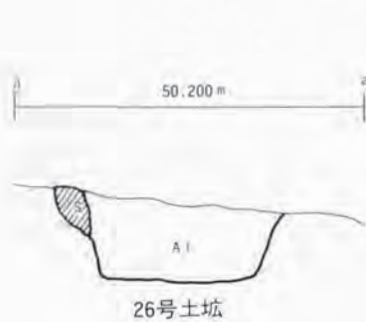
出土遺物 検出されていない

R X-714

R X-714



R Y+467



R Y+467

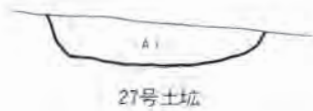
第20図 26号土坑

R X - 733

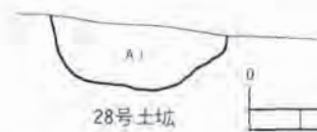
R X - 733



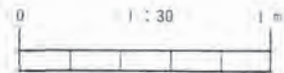
R X - 457



27号土坑



28号土坑



第21图 27号·28号土坑

30号土坑 (第22図)

平面形 円形 規模 直径1.0m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 東側へ傾斜  
集石の状態 ほぼ中央部に集中 出土遺物 検出されていない  
埋土 A層—黒褐色砂質土主体。比較的固いがしまりはない。

31号土坑 (第23図)

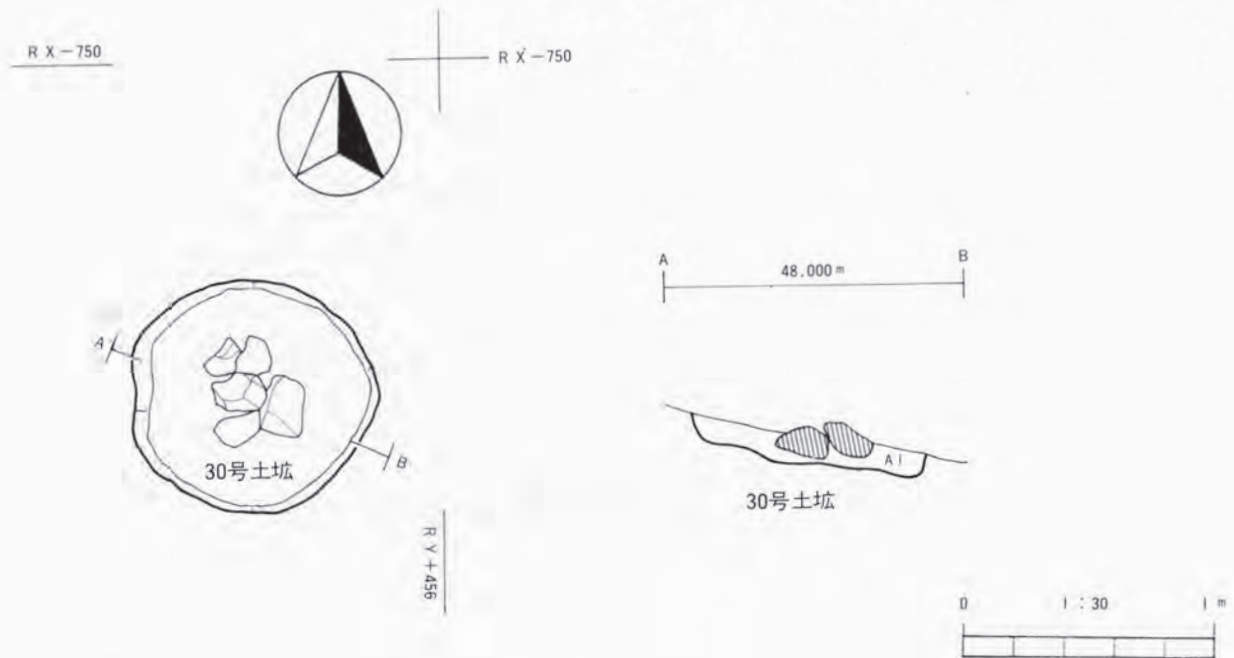
平面形 楕円形 規模 1.0×0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に扁平な礫が重なる。底面近くで壁際に小円礫が巡る。  
埋土 A層—黒褐色砂質土主体。炭化物少量含む。やわらかくしまりなし。  
出土遺物 検出されていない

32号土坑 (第23図)

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 南壁際に細長い礫が認められるが大礫はほとんど集石しない。  
埋土 A層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土を粒状にわずかに含む。やわらかくしてしまりなし。  
出土遺物 埋土中より単節斜縄文施文の極小片少量出土。

33号土坑 (第23図)

平面形 円形 規模 直径0.9m 壁の状態 幾分傾斜 底面の状態 ほぼ平坦



第22図 30号土坑

集石の状態 北壁側に大礫が集中する

埋土 A層一黒褐色砂質土主体。全くやわらかくてしまりなし。出土遺物 検出していない

34号土坑（第23図）

平面形 円形 規模 0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

集石の状態 ほぼ中央部に0.55×0.3×0.15mの半円状の扁平石が覆いかぶさるようにある

埋土 A層一黒褐色砂質土主体。黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 検出されていない

35号土坑（第24図）

平面形 不整円形 規模 直径0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層一黒褐色砂質土主体。全くやわらかくてしまりなし。

出土遺物 埋土中より極小の土器片数個出土。すべて地文の単節斜縄文施文のもの。

36号土坑（第24図）

平面形 円形 規模 直径1.0m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 北東側に集中。角礫状のものも混じっている。

埋土 A層一黒褐色砂質土主体。やわらかくてしまりなし。出土遺物 検出していない

37号土坑（第24図）

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 中央部から東寄りにややバラツキをもつ。

埋土 A層一黒褐色土主体。全くやわらかくてしまりなし。出土遺物 検出されていない

38号土坑（第24図）

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁及び底面の状態 すり鉢状を呈す

埋土 A層一黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 地文（単節斜縄文）だけの極小片数点出土している

39号土坑（第25図）

平面形 楕円形 規模0.85×0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 ほぼ中央部に扁平な石が2ヶ重なるように集石。

埋土 A層一暗褐色土主体。比較的かたくしまっている。黄褐色土を粒状にわずかに含む。

出土遺物 中央部の大礫に押しつぶされるように横倒しの状態で出土したもの（第51図）。25号土坑口縁部を欠く深鉢土器で、縦回転の複節縄文を施文している。

40号土坑（第25図）

平面形 楕円形 規模0.95×0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 中央～北東寄に組んだように集石し、南西側には棒状の礫が存在する。  
埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし 出土遺物 検出していない

41号土坑（第25図）

平面形 楕円形 規模1.05×0.95m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 ほぼ中央部の球状礫を中心に集石

埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし 出土遺物 検出していない

42号土坑（第26図）

平面形 円形 規模 直径0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 0.45×0.25×0.10mの板状などが中央部に倒れかかるように集石。

埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかいが比較的しまっている。出土遺物 検出していない

43号土坑（第26図）

平面形 楕円形 規模0.95×0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 長軸方向の両端部に礫が集石

埋土 A層—暗褐色土主体。黄褐色土粒状に少量。炭化物粒を含む。比較的固くしまる。

出土遺物 検出していない

43号土坑（第26図）

平面形 楕円形 規模0.95×0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 中央部から北寄りに集石。北壁側に棒状の角礫が存在する

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。比較的固いがしまりは全くなし

出土遺物 検出していない

44号土坑（第27図）

平面形 円形 規模 直径0.75m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 中央部から東西に崩れた様に集石

埋土 A層—黒褐色砂質土主体。比較的固くしまっている

出土遺物 第51図44は埋土中から出された体部片。単節斜縄文施文後に隆沈線文、沈線文を施文したもの。

45号土坑（第27図）

平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 中央部南寄りに角礫状の大礫を配すが、その他のものは小礫が散在する

埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土を粒状にわずかに含む。やわらかくてしまりなし

出土遺物 地文のみの極小破片が少量出土。

JK-752



31号土坑



32号土坑

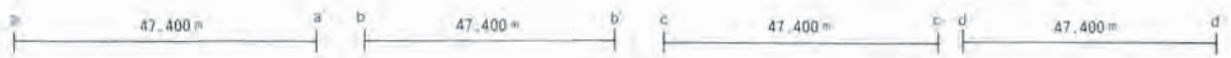


33号土坑



34号土坑

R.Y. + 459



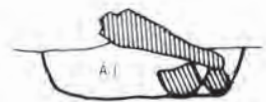
31号土坑



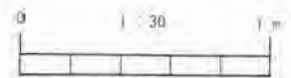
32号土坑



33号土坑



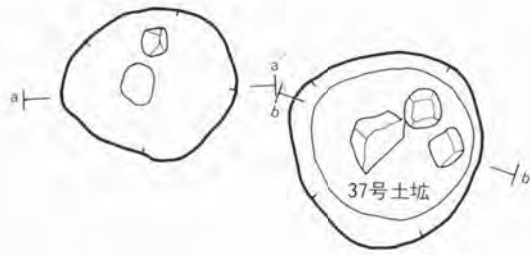
34号土坑



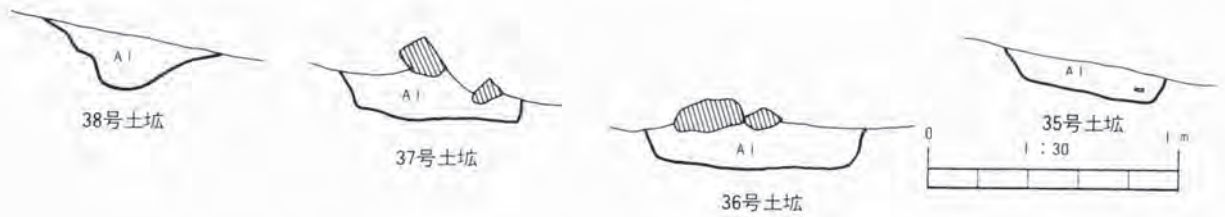
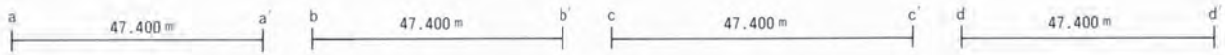
第23图 31号~34号土坑



R Y + 456



R Y + 456



第24图 35号~38号土坑

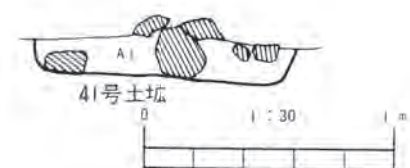
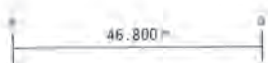
R X-750

R X-750

R Y+454



R Y+454



第25图 39号-41号土坑

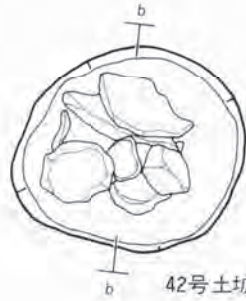
R X - 748

R Y + 459

R X - 748



43号土坑



42号土坑

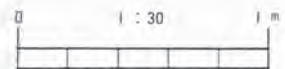
R Y + 459



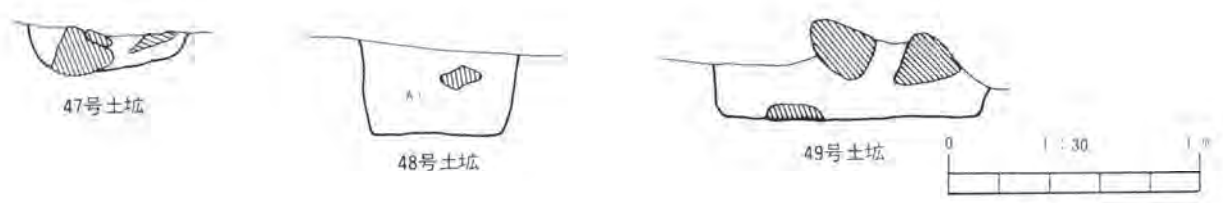
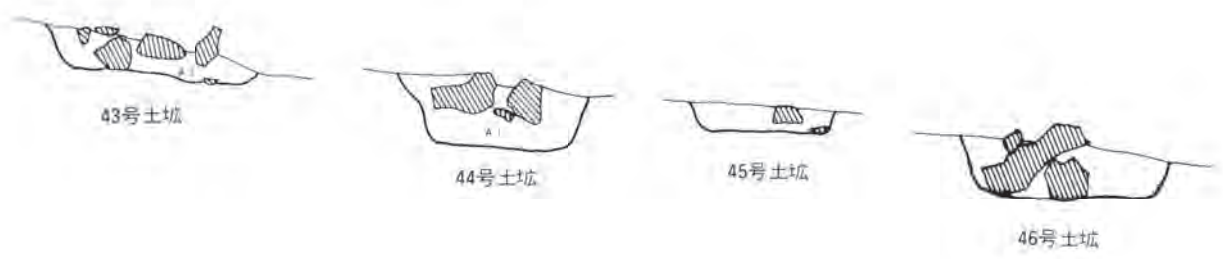
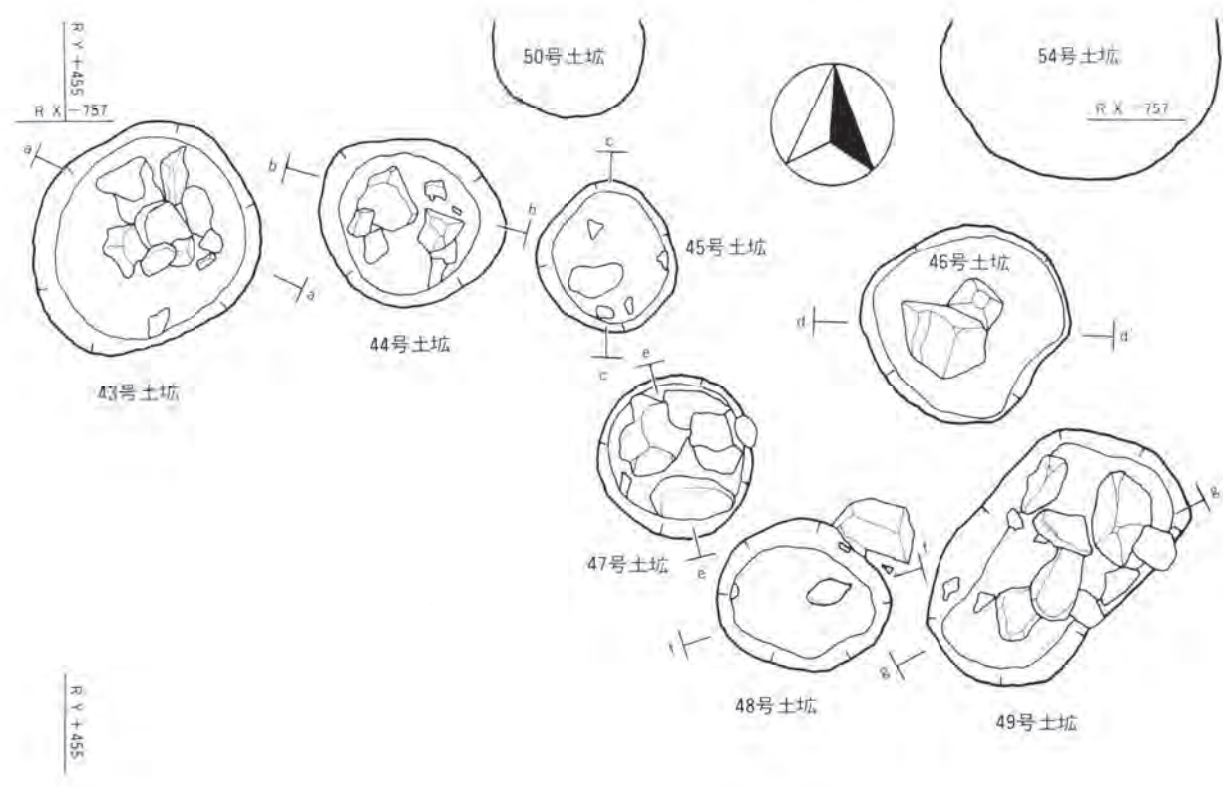
43号土坑



42号土坑



第26图 42号·43号土坑



第27图 43号~49号土坛

46号土坑（第27図）

平面形 不整形 規模 0.9m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 中央部に0.45×0.25×0.15mの扁平石と0.15m角状の礫が集石する  
埋土 A層 暗褐色土主体。明黄褐色土の小塊を少量含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 地文のみの土器片が若干量出土している

47号土坑（第27図）

平面形 円形 規模 直径0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 中央部から崩れた様に壁際を中心に集石する  
埋土 A層 黒褐色土主体。やわらかくしまりなし。 出土遺物 検出されていない

48号土坑（第27図）

平面形 楕円形 規模0.7×0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 礫はほとんどみあたらないが、土坑外の北東際に比較的大きな角礫が存在する  
埋土 A層 黒褐色土主体。明黄褐色土粒を少量含む。やわらかくしまりがない。  
出土遺物 検出されていない

49号土坑（第27図）

平面形 長楕円形 規模 1.15×0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 中央から北東側に集石し東西の両壁際に散らばる。  
埋土 A層 黒褐色土主体。明黄褐色土粒少量含む。やわらかくしまりなし  
出土遺物 検出されていない

50号土坑（第28図）

平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に比較的扁平な礫が集中する  
埋土 A層 褐色土主体。やや粘性有り。比較的固くしまっている。  
出土遺物 埋土中より少量の土器片出土。すべて地文のみのもの。

51号土坑（第28図）

平面形 楕円形 規模 0.95×0.75m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 南東、北西壁際の両端に分れる。  
埋土 A層 黒褐色土主体。やわらかく全くしまりなし 出土遺物 検出されていない

52号土坑（第28図）

平面形 不整形 規模 直径0.75m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
埋土 A層 黒褐色土主体。比較的固いがほとんどしまりなし  
出土遺物 横転し土圧により押しつぶれた状態で出土した。体部下半～底部を欠く大形深鉢

土器（第52図）。口縁に4個の大突起を有すキャリバー形土器。口縁部文様帯は隆帯と原体圧痕文で構成され、体部には縦回転の単節斜縄文を施文するもの。

53号土坑（第28図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.5m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

集石の状態 ほぼ全域を覆う様なかたちの1個の大礫が存在する

埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。比較的固いがほとんどしまりなし。

出土遺物 地文のみの極小破片が少量出土している

54号土坑（第28図）

平面形 不整形円形 規模 直径1.05m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 北西壁際に比較的大きな礫が集中。ほぼ中央部には小礫が集中している

埋土 褐色土主体。明黄褐色土粒少量含む。比較的固くしまっている

出土遺物 東壁寄りにはほぼ倒立状態で小形深鉢土器等が出土した（第52図）。器形的には、底部から口縁部にかけてゆるやかに内湾するもので、口縁部上端に3条の平行沈線文を巡す。地文は縦位に単節斜縄文を施文する。外に地文の縄文施文後に沈線文を施文するものや、ぜんまい状の凹みを施す口縁突起部片などが出土している。

55号土坑（第29図）

平面形 円形 規模 直径0.85m 壁、底面の状態 壁と底面の区別なく半円状を呈す

埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。比較的固いがほとんどしまりなし。

出土遺物 埋土中より小片を少量出土したが、ほとんどが地文のみのものである。

56号土坑（第29図）

平面形 楕円形 規模 1.0×0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 凸凹有り

集石の状態 北西隅に比較的大きな礫が存在するが個数的には少ない

埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。固さはなくしまりもない。

出土遺物 検出されていない

57号土坑（第29図）

平面形 不整形楕円形 規模 1.65×1.0m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

集石の状態 北側と南側の両方に集石するが、本土坑に伴うものかは不明である

埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくしまりなし。

出土遺物 検出されていない

58号土坑（第29図）

平面形 円形 規模 0.9m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 集石している状態ではなく散在しているだけ

埋土 A層一褐色土主体。明黄褐色土を小塊状に少量含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 検出されていない

59号土坑（第30図）

平面形 円形 規模 0.85×0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に大礫を中心に小塊が集石するが、埋土の底面近くである。  
埋土 A層一褐色土主体。黄褐色土を塊状に少量含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 検出されていない。

60号土坑（第30図）

平面形 楕円形 規模 0.95×0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 数的には少ないが、ほぼ中央部に短かい棒状の角礫などが集石する。  
埋土 A層一褐色土主体。炭化物粒子が少量認められる。比較的固くしまっている  
出土遺物 検出されていない

61号土坑（第30図）

平面形 楕円形 規模 0.75×0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 埋土上部から底面に流れ込む状態で北壁側に集石する  
埋土 A層一黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし  
出土遺物 検出されていない

62号土坑（第30図）

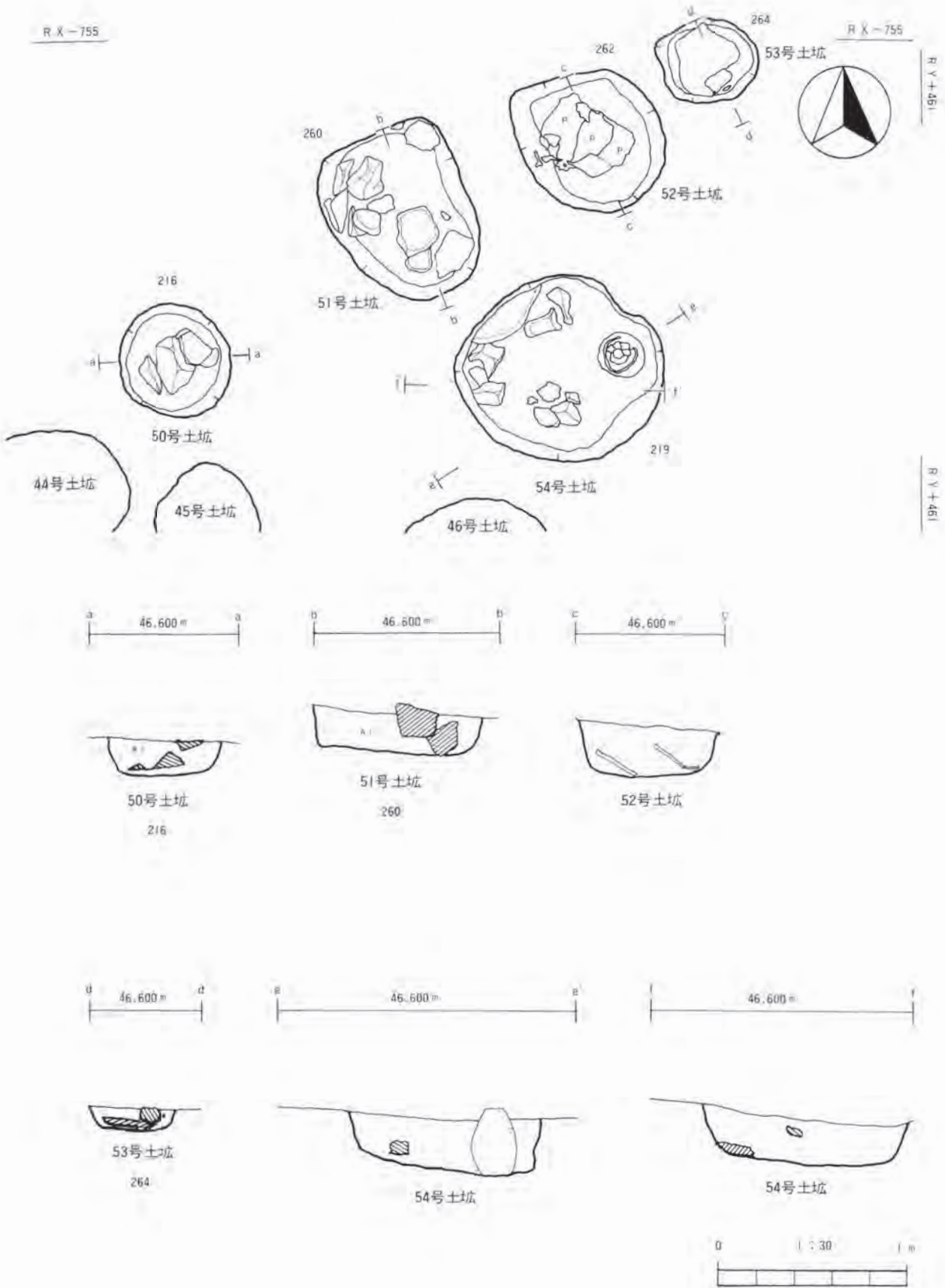
平面形 楕円形 規模 1.0×0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 凸凹有り  
埋土 A層一黒褐色土主体。明黄褐色土粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし  
出土遺物 検出されていない

63号土坑（第30図）

平面形 円形 規模 直径0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 中央部から南西側に比較的大きな礫が集石する  
埋土 A層一褐色土主体。明黄褐色土塊、炭化物粒を含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 埋土中より土器片少量出土。すべて地文のみの小片。

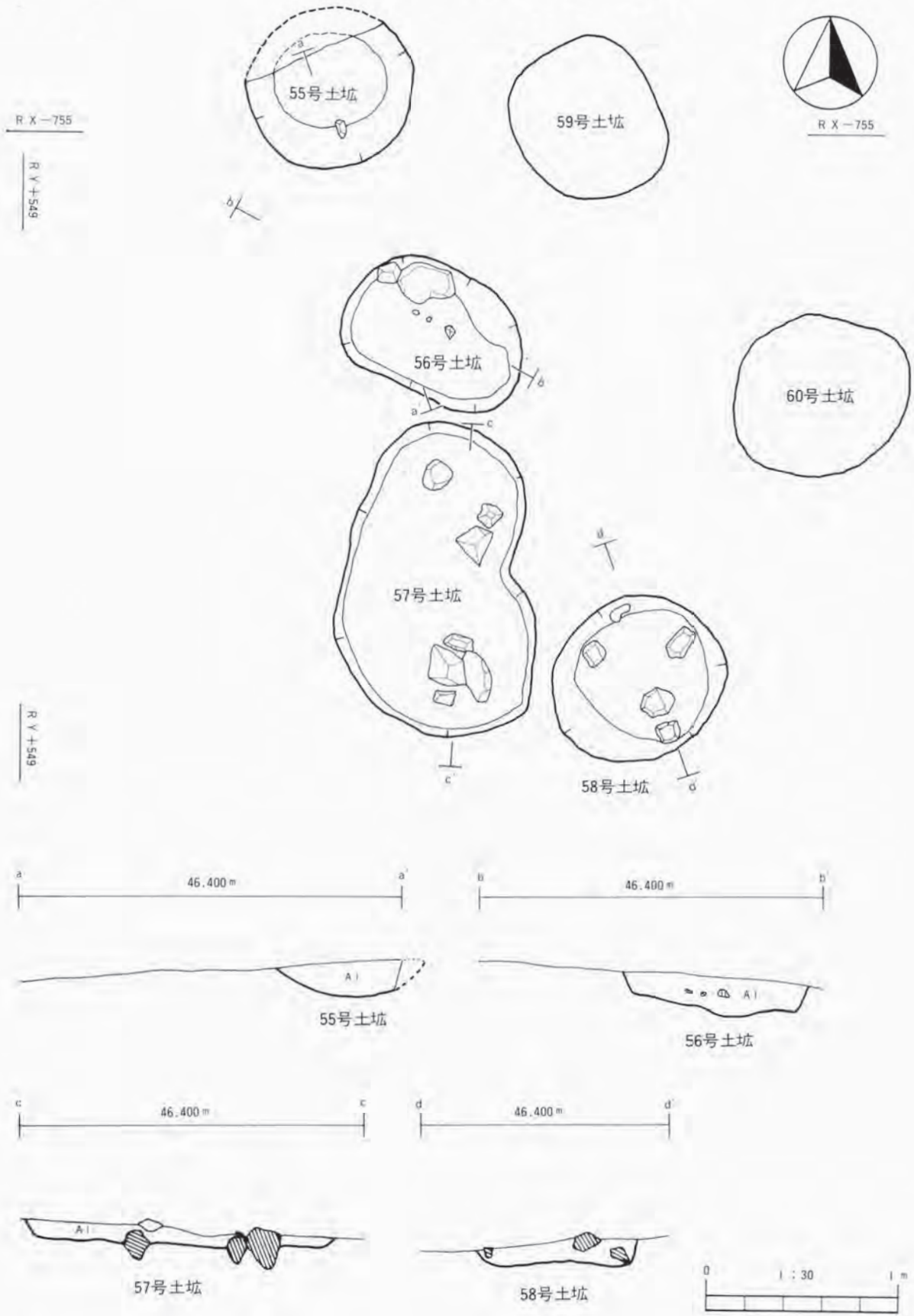
64号土坑（第30図）

平面形 楕円形 規模 1.0×0.9m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
埋土 A層一黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出されていない。

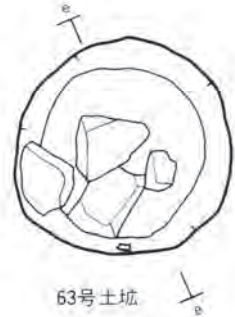


第28图 50号-54号土坛



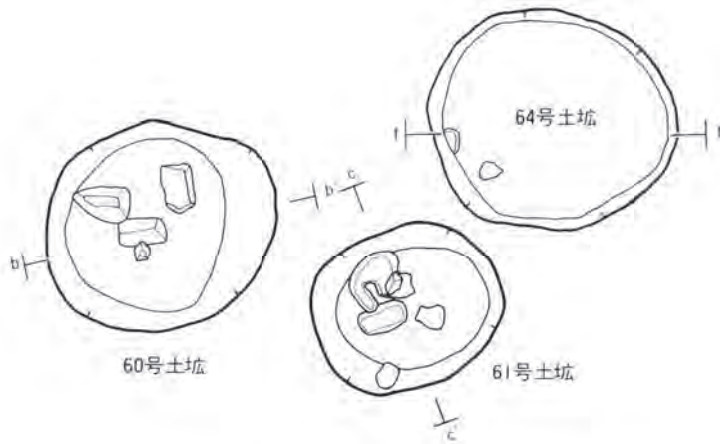


第29图 55号~58号土坛



56号土坑

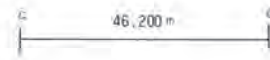
57号土坑



59号土坑



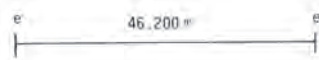
60号土坑



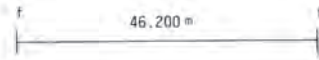
61号土坑



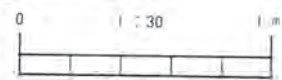
62号土坑



63号土坑



64号土坑



第30图 59号~64号土坑

65号土坑（第31図）

平面形 円形 規模 0.75×0.65m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に大礫が集石。立石状のものが認められる。  
埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色砂質土主体。比較的固くしまっている  
出土遺物 検出されていない

66号土坑（第31図）

平面形 円形 規模 直径0.55m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出されていない

67号土坑（第31図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.7m 壁の状態 垂直 底面の状態 凸凹有り  
集石の状態 中央から北西側に集石。比較的重なり合う様である。  
埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出されていない

68号土坑（第31図）

平面形 円形 規模 直径0.85m 壁の状態 垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に扁平な礫が覆いかぶさる様に認められる  
埋土 A<sub>1</sub>層—褐色土主体。炭化物粒少量含む。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 扁平な礫に押しつぶされた様な状態で深鉢土器（第51図）が出土している。29は口縁部を欠くが、底部から口縁部にかけて直線的に立上るもので口縁部が外反（外傾）するものと考えられる。縦位の斜縄文を施文するもので内面は丁寧にミガキ調整が施されている。

69号土坑（第32図）

平面形 楕円形 規模 0.8×0.65m 壁、底面の状態 半球状を呈す  
集石の状態 崩れた様に壁付近に集石。西壁側に0.4×0.15×0.08mの棒状の角礫を認める。  
埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色土主体。明黄褐色土塊を少量含む。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出されていない

70号土坑（第32図）

平面形 不整形 規模 1.65×0.85m 壁の状態 垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ全体的に大きな礫が集石する。  
埋土 A<sub>1</sub>層—黒褐色砂質土主体。黄褐色土塊含む。比較的に固くしまっている。  
出土遺物 礫に押しつぶされた状態ではほぼ中央部から深鉢土器（第53図）が出土した。32はキャリバー形の深鉢で口縁部文様帯の狭いもの。体部の地文は縦位の斜縄文。

71号土坑（第32図）

平面形 円形 規模 直径0.9m 壁の状態 やや傾斜 底面の状態 平坦  
集石の状態 壁際に散らばった状況で集石。大きなものはなく中～小礫が中心  
埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくしてしまひなし。  
出土遺物 検出されていない

72号土坑（第33図）

平面形 楕円形 規模 0.75×0.55m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 中央部から北壁側に大礫が集石。比較的扁平な礫が多い。  
埋土 A層—黒褐色土主体。砂っぽい。比較的かたくしまっている。  
出土遺物 検出されていない。

73号土坑（第34図）

平面形 円形 規模 直径0.4m 壁の序浮いた 垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
埋土 A層—黒褐色砂質土主体。やわらかくしてしまっていない。  
出土遺物 地文のみの小片が若干量出土している。

74号土坑（第34図）

平面形 楕円形 規模 1.0×0.75m 壁の状態 やや傾斜 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 北壁際の底面近くに大礫が認められるほかは、小礫が散在する  
埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかく、全くしまりが無い。  
B層—暗褐色土主体。黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくしまひなし。  
出土遺物 地文のみの小片少量出土している。

75号土坑（第34図）

平面形 円形 規模 直径0.55m 壁の状態 やや傾斜 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 中央部から南東側に集石する。棒状の角礫が多い。  
埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土粒状に少量含む。ほとんどやわらかくしまひなし。  
出土遺物 検出されていない

76号土坑（第34図）

平面形 不整楕円形 規模 1.4×0.65m 壁の状態 垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 東壁側に集石する。かなり大きな扁平礫が認められる。  
埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくしてしまひなし。  
出土遺物 検出されていない

77号土坑（第34図）

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 やや傾斜 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ中央部に集石 埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくしまりなし。  
出土遺物 埋土中より少量出土

78号土坑（第34図）

平面形 不整形円形 規模 直径0.8m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す  
埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし。出土遺物 検出されていない

79号土坑（第35図）

平面形 楕円形 規模 1.1×0.85m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 比較的大きな礫が散在するだけで集石という状態ではない  
埋土 A層—黒褐色土主体。A層には黄色褐色土塊少量含む。比較的固いがしまりはしない  
出土遺物 A層より土器小片が数点出土している

80号土坑（第35図）

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 中央部から散らばった様に壁際に集石する。出土遺物 検出されていない  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土を粒塊状に含む。やわらかくてしまりはしない。

81号土坑（第36図）

平面形 楕円形 規模 0.85×0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 比較的大きな礫が中央部に認められる  
埋土 A層—褐色土主体。炭化物粒子を含む。かたさはないが、比較的しまっている  
出土遺物 出土していない

82号土坑（第36図）

平面形 楕円形 規模 0.7×0.55m 壁、底面の状態 半円状を呈す  
集石の状態 かなり大きな礫が立つ様な恰好で数個集石している  
埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土塊を少量含む。固さはないが比較的しまっている  
出土遺物 検出されていない

83号土坑（第36図）

平面形 円形 規模 直径0.45m 壁、底面の状態 半円状を呈す  
集石の状態 中央部から南壁側に数個集石する程度だが棒状の細長い角礫が認められる  
埋土 A層—褐色土主体。固さはないが比較的しまっている。  
出土遺物 検出されていない

84号土坑（第36図）

重複関係 85号土坑よりも新しい 平面形 円形 規模 直径0.6m

壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—褐色土主体。明褐色土粒状に少量含む。固さはないが比較的しまっている

出土遺物 埋土中より小片がまとまって出土している。同一個体で体部～底部にかけてのもの。

85号土坑（第36図）

重複関係 84号土坑より古く86号土坑より新しい 平面形 円形 規模 直径0.8m

壁の状態 東壁側はほぼ直になるが、西壁側はなだらかに立ちあがる。

埋土 A層—褐色土主体。明黄褐色土を小塊～粒状に含む。

出土遺物 埋土中より少量の土器片が出土。いずれも地文のみの体部片。

86号土坑（第36図）

重複関係 85号土坑に切られ古い。平面形 円形 規模0.75m

壁の状態 西壁側はほぼ直となるが、東壁側はゆるやかな傾斜で立ち上がる。

埋土 A層—褐色土主体。85号土坑の埋土よりも明黄褐色土の混入が多い。やや粘性あり。

出土遺物 検出されていない。

87号土坑（第37図）

平面形 楕円形 規模 1.0×0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

集石の状態 ほぼ中央部から東壁側に集石する

埋土 A層—褐色土主体。比較的固くしまっている

出土遺物 埋土中より少量の土器片出土しているが、いずれも地文のみのもの

88号土坑（第37図）

平面形 楕円形 規模 0.85×0.75m 壁の状態 垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。比較的固くしまっている 出土遺物 検出されていない

89号土坑（第38図）

平面形 楕円形 規模 0.95×0.75m 壁の状態 垂直 底面の状態 多少凸凹有り

埋土 A層—黒褐色土主体。やや粘性有り。比較的固くしまっている

出土遺物 検出されていない

90号土坑（第38図）

平面形 不整円形 規模 1.6×1.45m 壁の状態 垂直 底面の状態 凸凹有り

埋土 A層—やや粘性のある黒褐色土主体。固さはないが比較的しまっている。

出土遺物 検出されていない

91号土坑（第39図）

平面形 円形 規模 直径0.95m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す

埋土 A層—褐色土主体、明黄褐色土粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 検出されていない

92号土坑（第39図）

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層—褐色土主体。明黄褐色土粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 検出されていない

93号土坑（第39図）

重複関係 83号土坑より古い 平面形 楕円形 規模 1.2×0.9m

壁の状態 垂直 底面の状態 ほぼ平坦 集石の状態 扁平な大礫が土坑に覆いかぶさる様に集石 埋土 A層—黒褐色土主体。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 極小片が少量出土している。

94号土坑（第40図）

重複関係 55号土坑に切られる 平面形 楕円形 規模 0.6×0.5m

壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—褐色土主体。比較的固くしまっている。 出土遺物 検出されていない

95号土坑（第41図）

重複関係 56号土坑に切られる 平面形 楕円形 0.95×0.7m

壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 検出されていない

96号土坑（第42図）

平面形 円形 規模 直径0.65m 壁の状態 垂直 底面の状態 平坦

集石の状態 0.35×0.30×0.1mの扁平石を中心に細かい礫が数個集石する

埋土 A層—褐色土主体。炭化物粒を少量含む。比較的固くしまっている。

出土遺物 扁平右下より土器片を検出した

97号土坑（第42図）

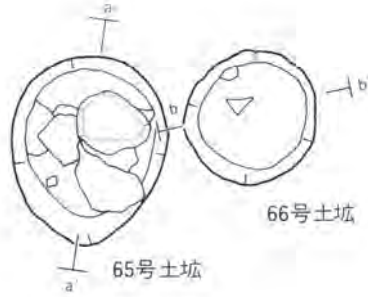
平面形 円形 規模 直径0.42m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦

埋土 A層—褐色土主体。やや粘性があり炭化物粒を少量含む。やわらかくてしまりなし。

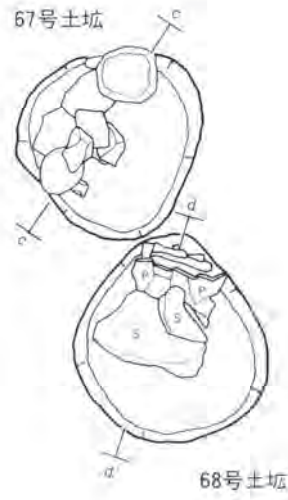
出土遺物 土器の底部を検出している。

R X-759

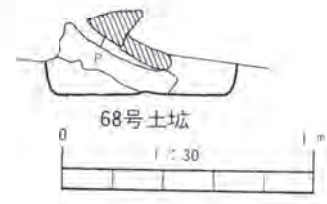
R Y+456



R Y+456



R X-759



第31图 65号~68号土坑

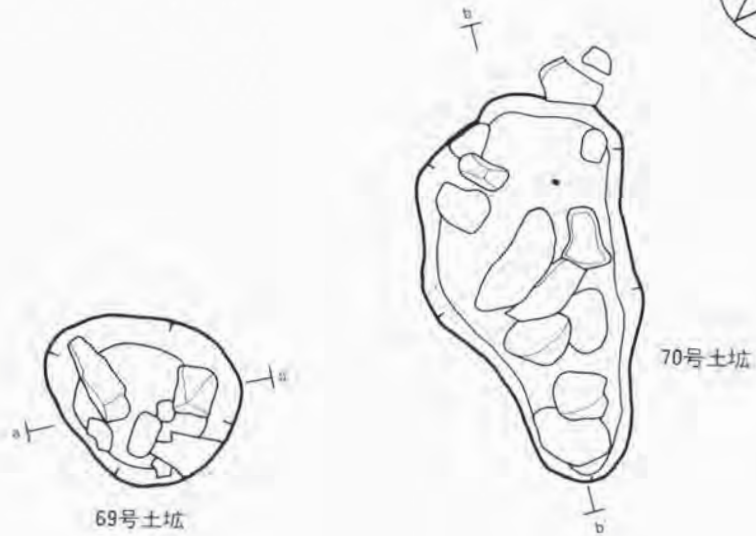


—

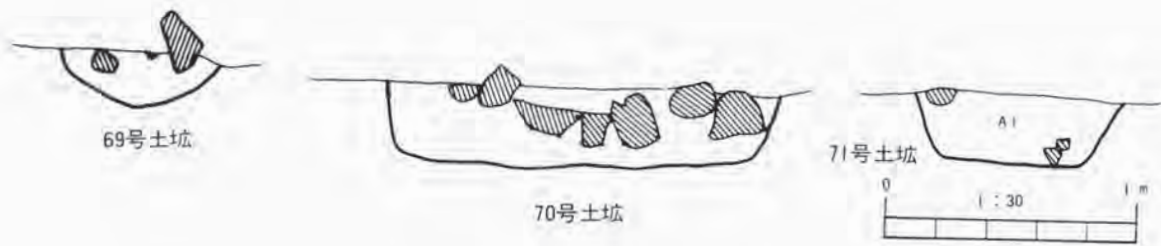
R X - 761



R Y + 460



R Y + 460



第32图 69号~71号土坛



R X - 766



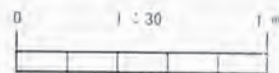
R X - 766

R Y + 459

R Y + 459



72号土坑



第33图 72号土坑

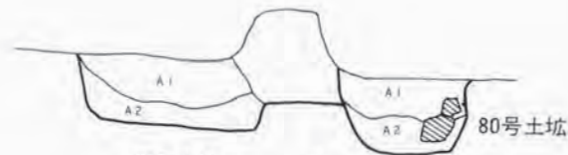
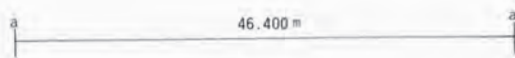
R X - 761



R X - 761

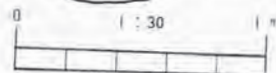
R Y + 459

R Y + 459



80号土坑

79号土坑



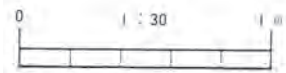
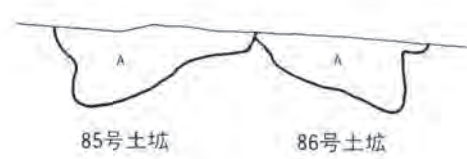
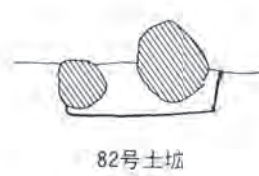
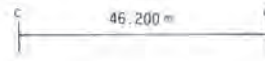
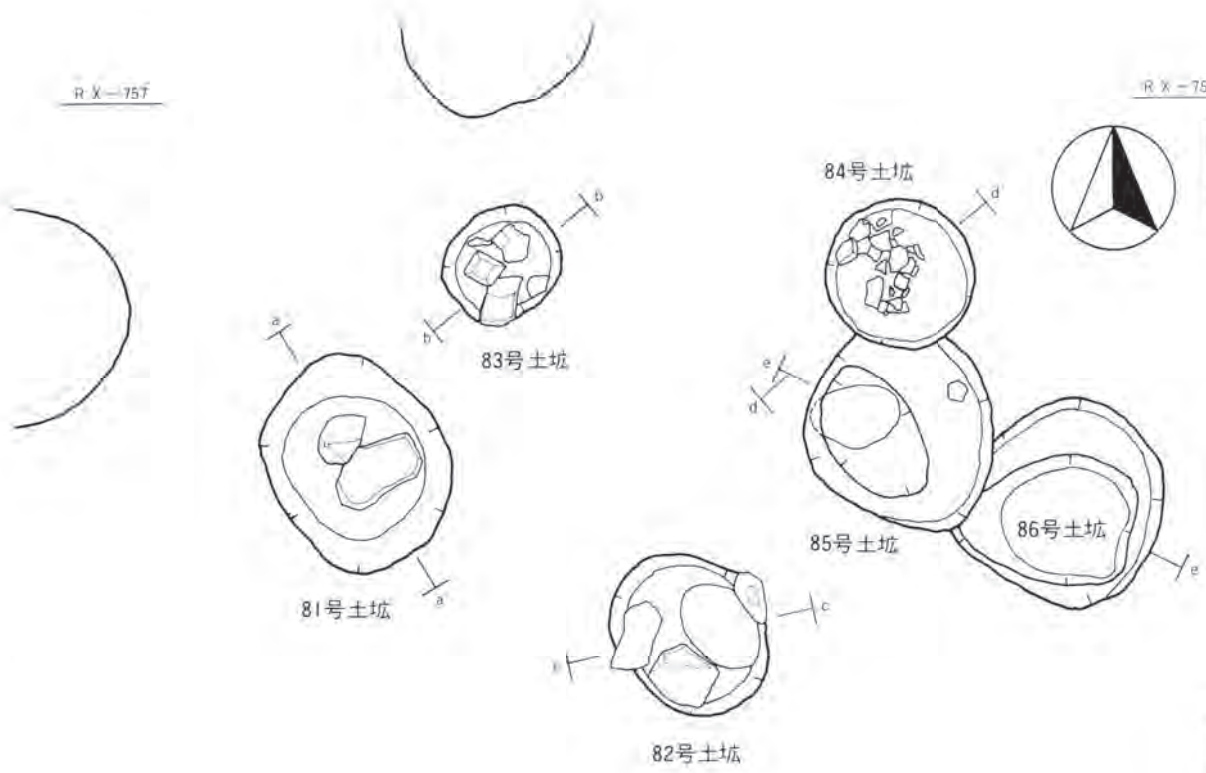
第35图 79号·80号土坑

R X-757

R X-757

R V+467

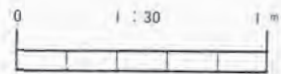
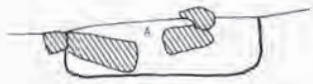
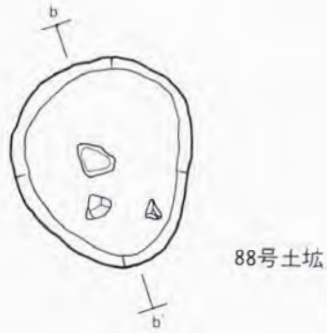
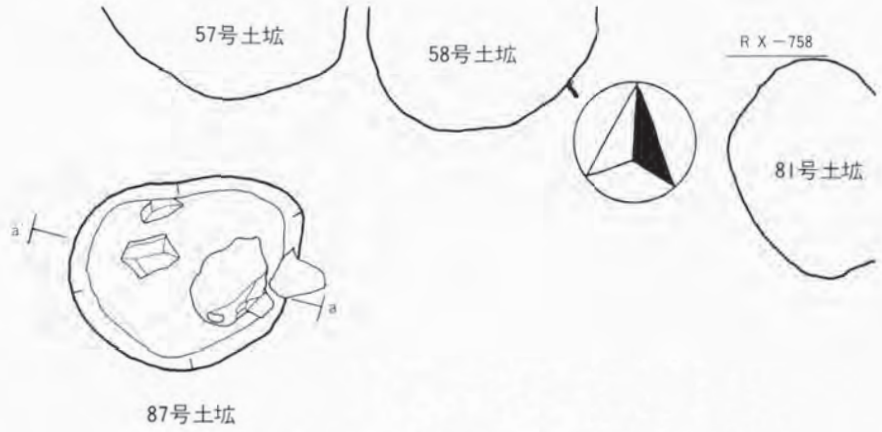
R V+467



第36图 81号~86号土坛

R X - 758

R Y + 459



第37图 87号·88号土坑

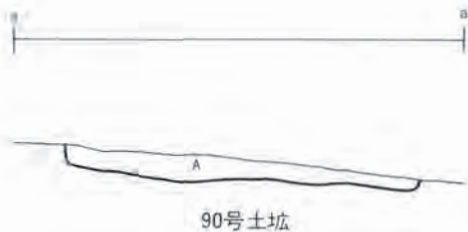
R Y + 463



R Y + 463

R X - 767

R X - 767



90号土坛



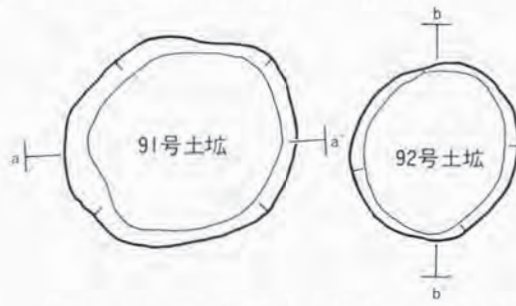
89号土坛

第38图 89号·90号土坛

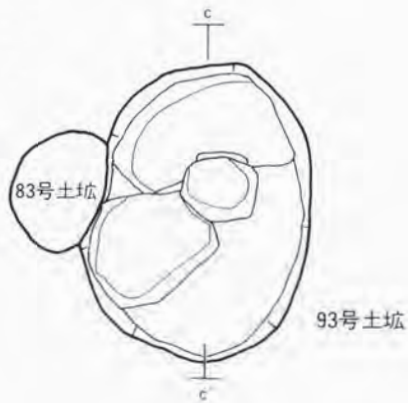
R X - 754

R Y + 462

R X - 754



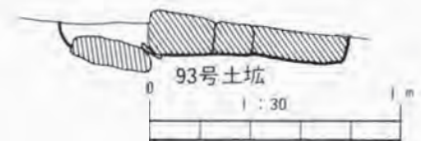
R Y + 462



91号土坛

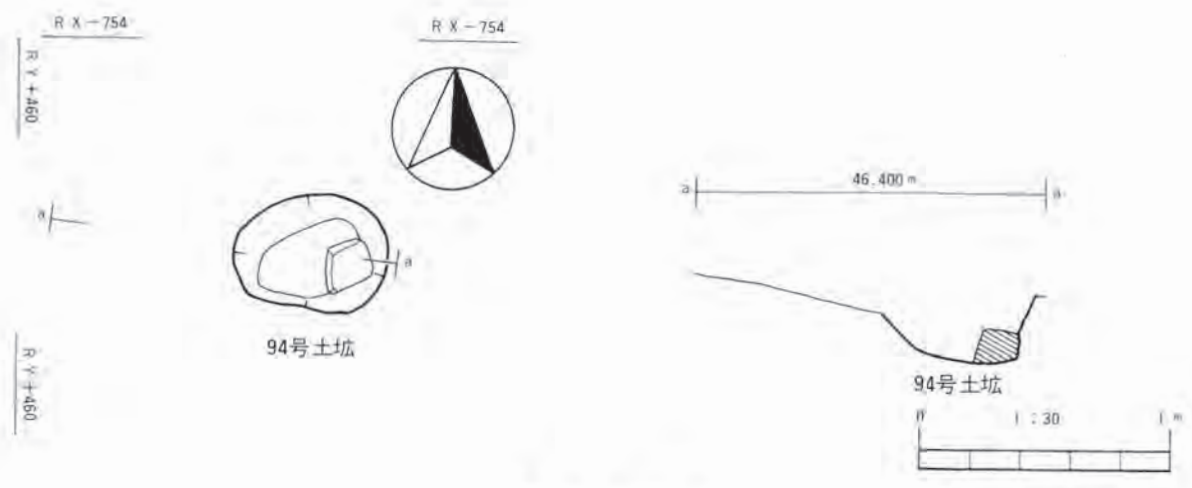


92号土坛

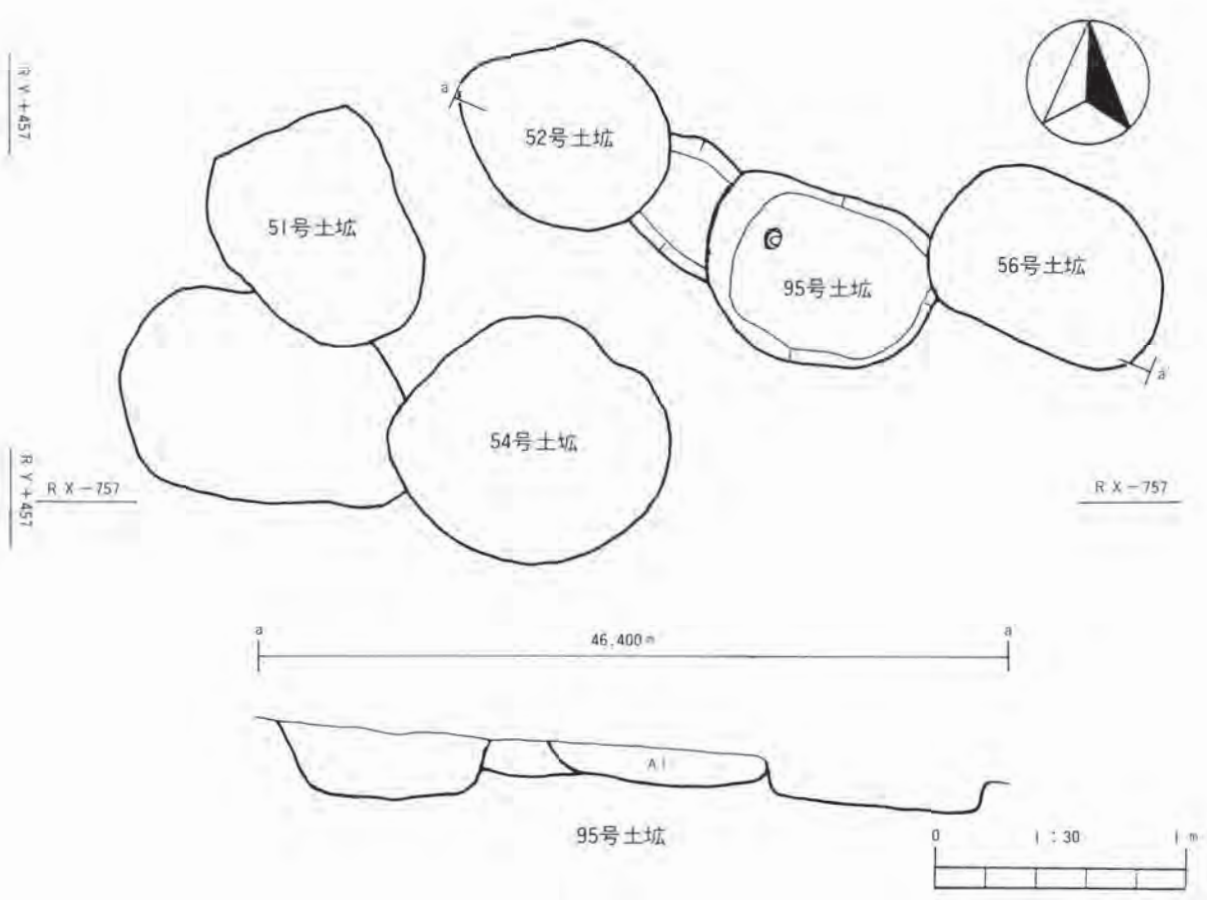


93号土坛

第39图 91号~93号土坛



第40图 94号土坑



第41图 95号土坑



99号土坑（第43図）

重複関係 51号、54号土坑に切られる 平面形 楕円形 規模 推定1.2×0.85m

壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦 集石の状態 底面中央部に2個存在

埋土 A層—褐色土主体。やや粘性有り。やわらかくてしまりなし。

出土遺物 検出していない

100号土坑（第43図）

重複関係 49号土坑に切られる 平面形 楕円形 規模 1.7×1.1m

壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 北東側が若干傾斜する

集石の状態 中央部から北東側に集石する

埋土 A層—褐色土主体。A層には明黄褐色土塊少量含む。やわらかくてしまりなし。

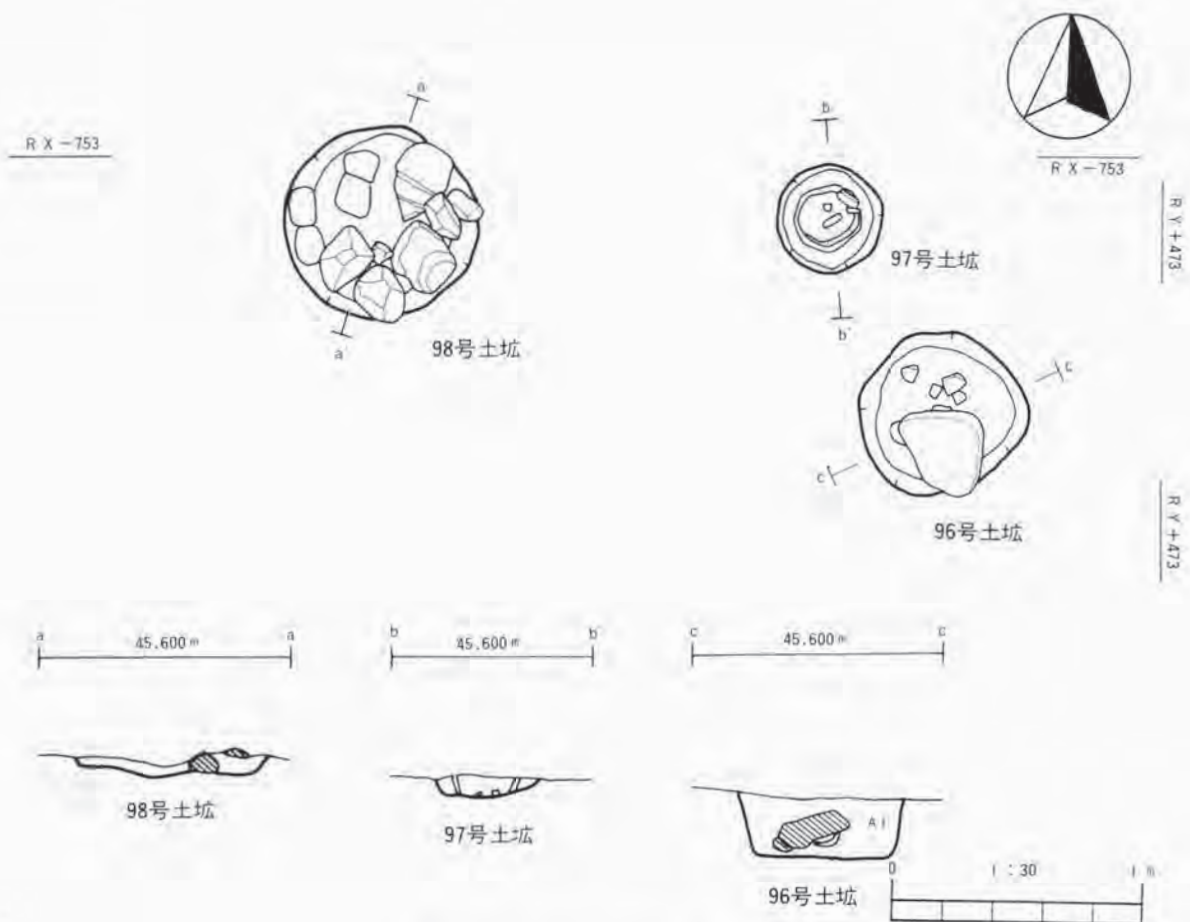
出土遺物 埋土中より土器片少量出土

101号土坑（第44図）

平面形 円形 規模 直径0.75m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦

埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土を塊粒状に少量含む。比較的固くしまっている。

出土遺物 検出していない



第42図 96号～98号土坑

102号土坑（第44図）

平面形 円形 規模 直径0.5m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土粒を少量含む。比較的固くよくしまっている。  
出土遺物 検出されていない

103号土坑（第44図）

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土を塊粒状に少量含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 埋土中央部より扁平な礫が検出したが、土器、石器類は検出していない。

104号土坑（第44図）

平面形 円形 規模 直径0.75m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土塊を比較的多く含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 検出していない

105号土坑（第45図）

平面形 円形 規模 直径0.7m 壁の状態 垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 底面直上に比較的大きな細長い礫を中心に数個集石する  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土塊を少量含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 検出していない

106号土坑（第45図）

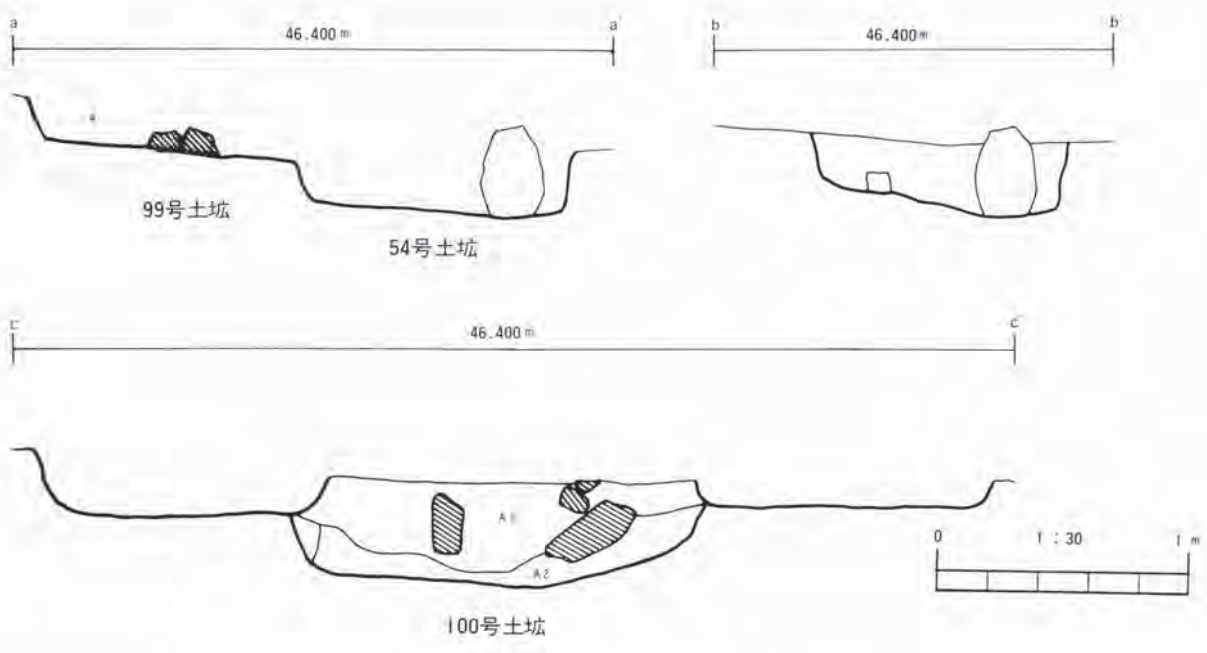
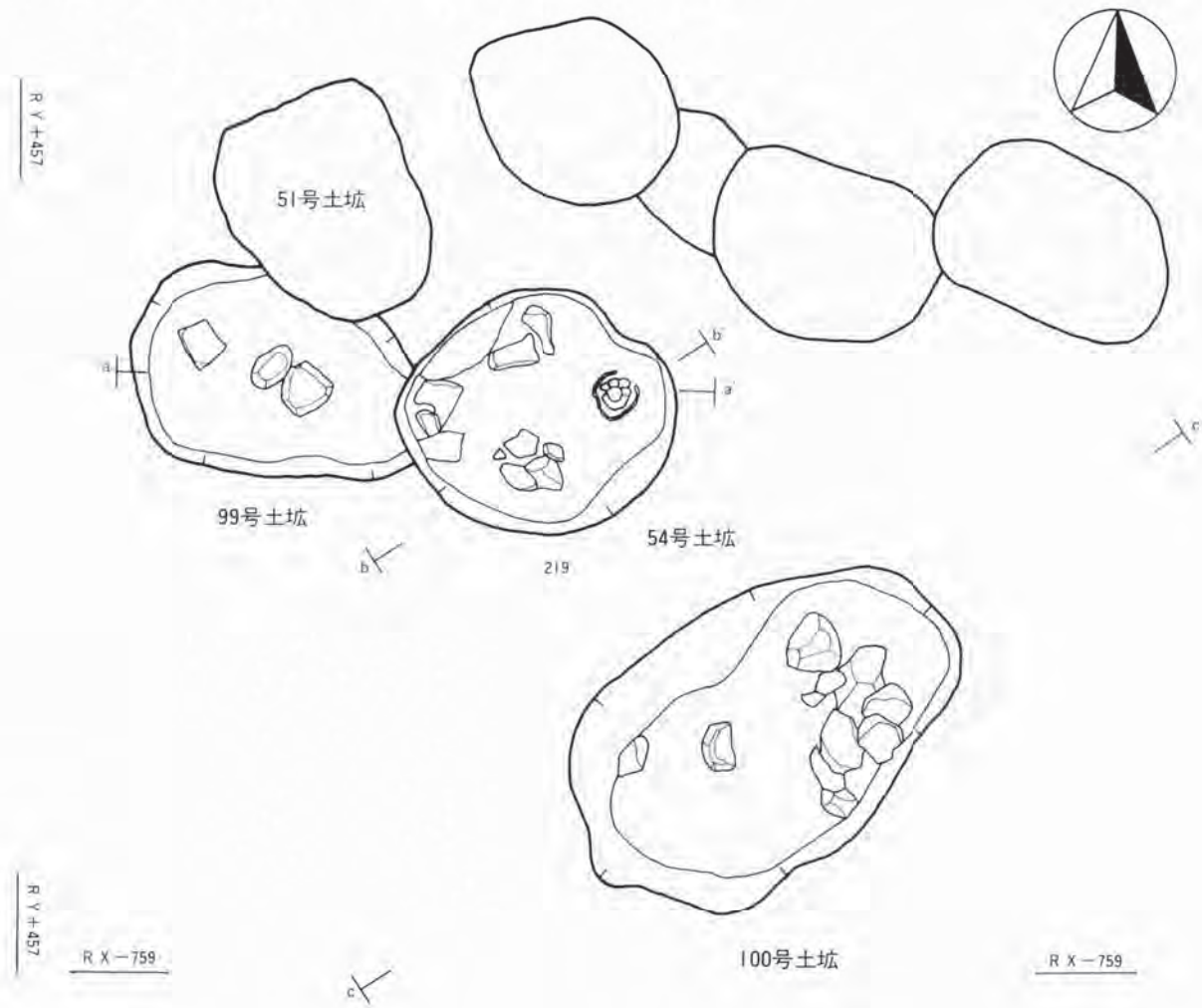
平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 垂直 底面の状態 平坦  
集石の状態 中央部から散らばった様な状態で集石する  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土塊を少量含む。比較的固くしまっている。  
B層—黒色土主体。やや粘性を有す。やわらかいが比較的しまっている。  
出土遺物 検出していない

107号土坑（第46図）

平面形 円形 規模 直径0.6m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒塊状にわずかに含む。比較的固くしまっている。  
出土遺物 検出されていない

108号土坑（第46図）

平面形 楕円形 規模 1.0×0.9m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 ほぼ平坦  
集石の状態 ほぼ底面に全域にわたり中～小礫が集石する  
埋土 A層—黒色土主体。やや粘性有り。A<sub>2</sub>層中に黄褐色土粒含。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出していない



第43图 99号·100号土坛

109号土坑（第46図）

平面形 円形 規模 直径0.65m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す  
埋土 A層—黒色土主体。やや粘性有り。やわらかくてしまりなし。  
出土遺物 検出していない

110号土坑（第46図）

平面形 円形 規模 直径0.75m 壁の状態 やや傾斜 底面の状態 凸凹有り  
埋土 A層—黒色土主体。黄褐色土粒状に少量含む。やわらかくてしまりなし。

111号土坑（第47図）

平面形 円形 規模 直径0.8m 壁の状態 ほぼ垂直 底面の状態 平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。黄褐色土塊少量含む。やわらかいが比較的しまっている  
出土遺物 検出されていない

112号土坑（第48図）

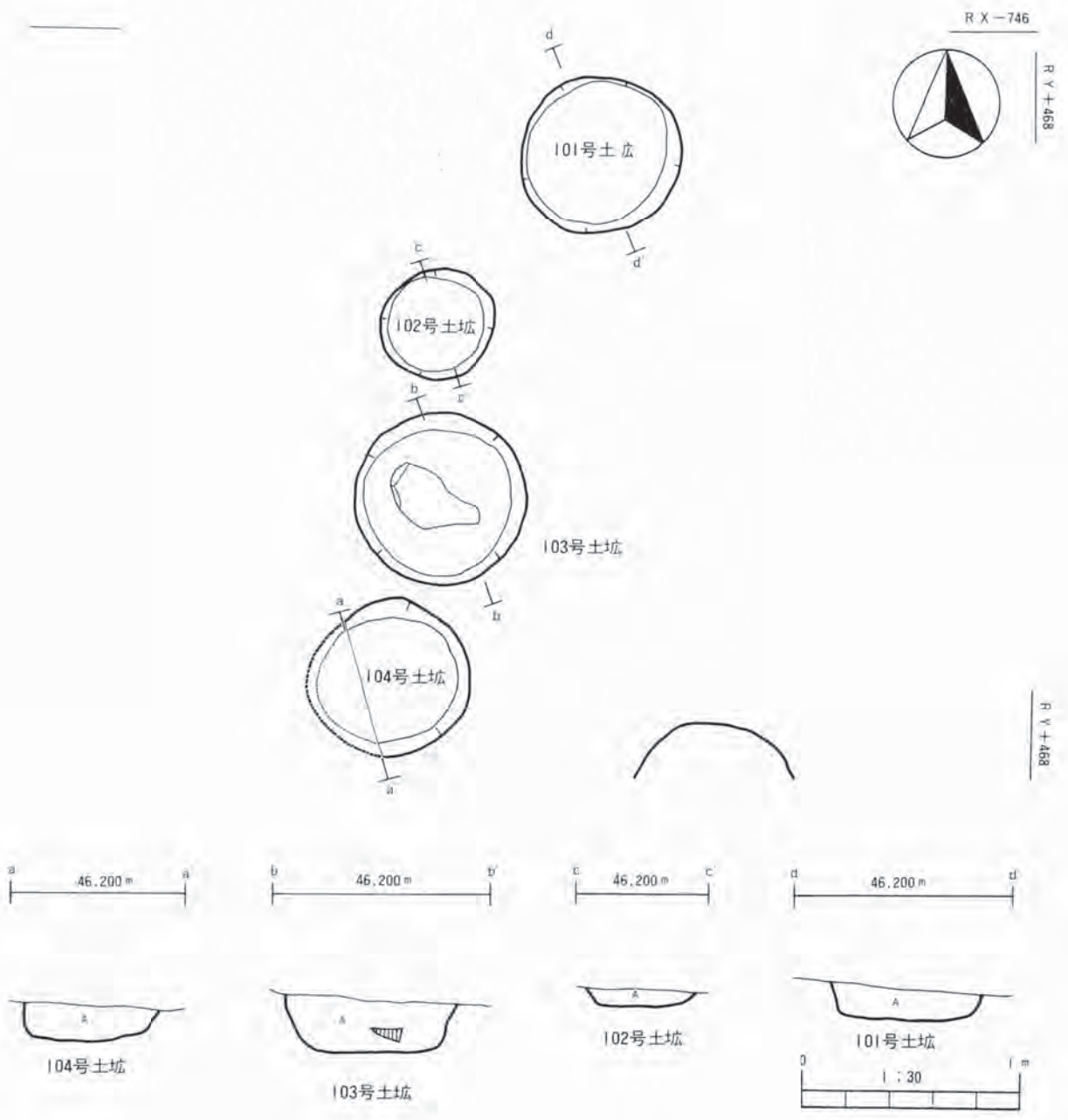
平面形 円形 規模 直径0.55m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す  
埋土 A層—黒色土主体。やや粘性有す。やわらかくてしまりなし  
出土遺物 検出していない

113号土坑（第48図）

平面形 楕円形 規模 0.6×0.5m 壁、底面の状態 浅い皿状を呈す  
埋土 A層—黒色土主体。やや粘性有す。やわらかくてしまっていない。  
出土遺物 検出していない

114号土坑（第49図）

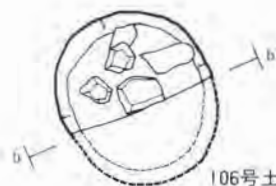
平面形 楕円形 規模 0.75×0.7m 壁の状態 垂直 底面の状態 平坦  
埋土 A層—黒褐色土主体。明黄褐色土を粒塊状に少量含む。やわらかいが比較的しまる。  
出土遺物 埋土中より土器片少量出土。



第44图 101号~104号土坛



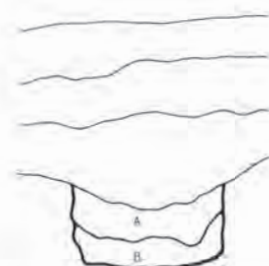
105号土坑



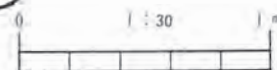
106号土坑



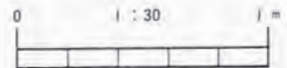
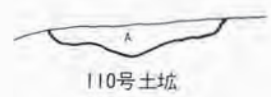
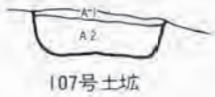
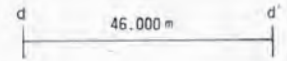
105号土坑



106号土坑



第45图 105号·106号土坑



第46图 107号~110号土坑

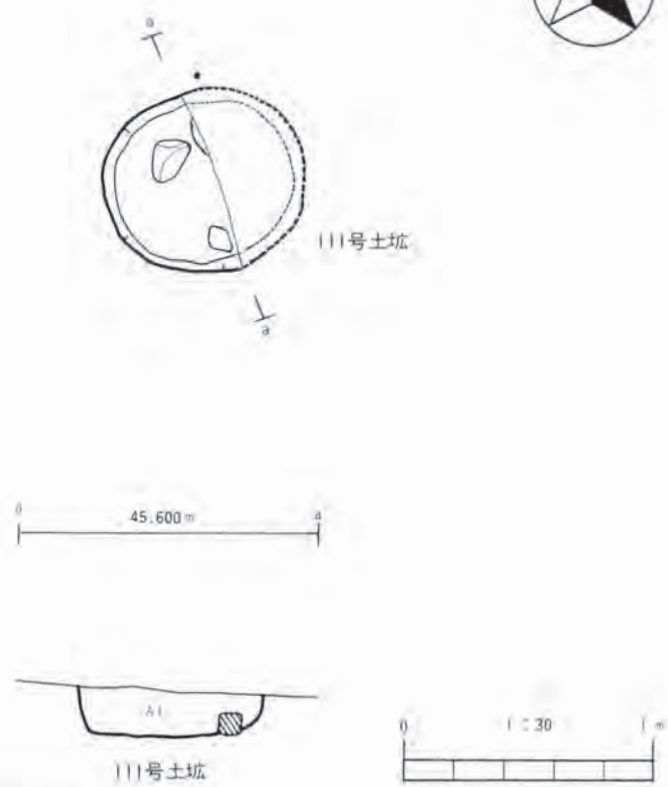
### 第1号炉 (第50図)

Ⅲ b層下面に検出した。黒褐色土と黄褐色土の混合する構築土層 (k層) を $0.55 \times 0.45$ mの浅く掘り込んだピットの周囲に、5個の自然礫からなる炉石を配す。 $0.5 \times 0.45$ mの正方形を呈する石囲炉だが、北西側に炉石を配せず開口する。炉床面はかなり固く焼きしまっている。埋土は、焼土や炭化物粒を多量に含むa層と焼土浸透層のb層から成る。出土遺物はない。

### 第2号炉 (第50図)

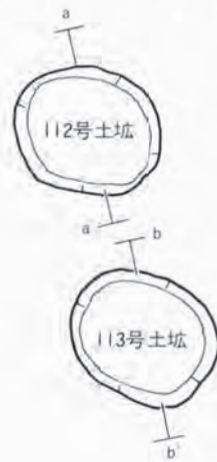
Ⅲ b層下面に検出したが、第1号炉の様な構築土面は確認できなかった。 $0.7 \times 0.65$ m掘り込んだピットに6個の自然礫からなる炉石が捉えられている。 $0.55 \times 0.5$ mの正方形を呈する石囲炉である。炉床面は、あまり焼けていない。埋土は、焼土や炭化物粒子を多量に含むa層と炉石を固定するために埋め戻された黒褐色土層b層から成る。遺物は、炉の周囲から3片の土器片を検出した (第54図)。33は口縁部の破片でキャリバー形を呈するものか。口縁に平行する隆沈線文を施文するもの。34は頸部の破片で頸部に無文部を配すもの。35は体部片で縦位に隆沈線が施文されたもの。

R X - 759  
R V + 446  
R V + 466



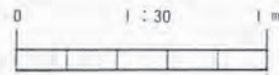
第47図 III号土坑





R Y + 466

R Y + 466



112号土坛

113号土坛

第48图 112号·113号土坛

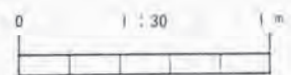


R Y + 468

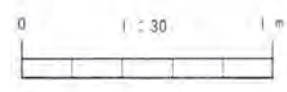
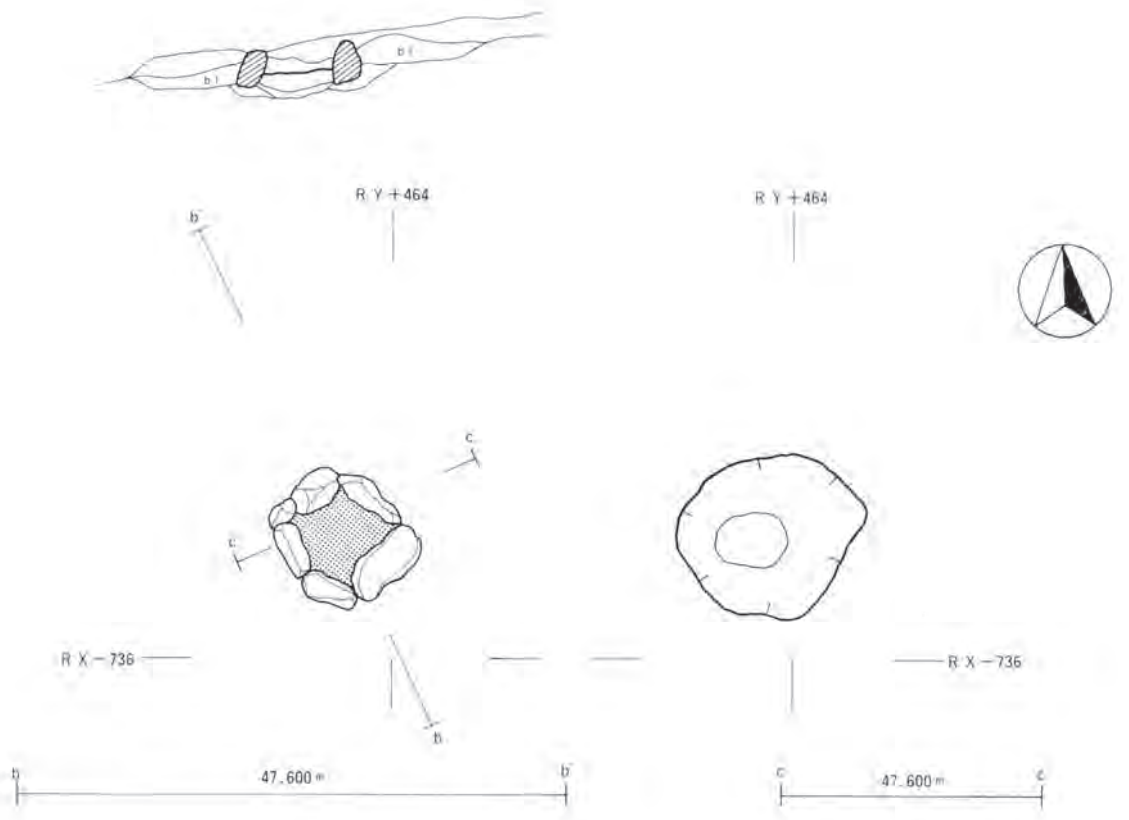
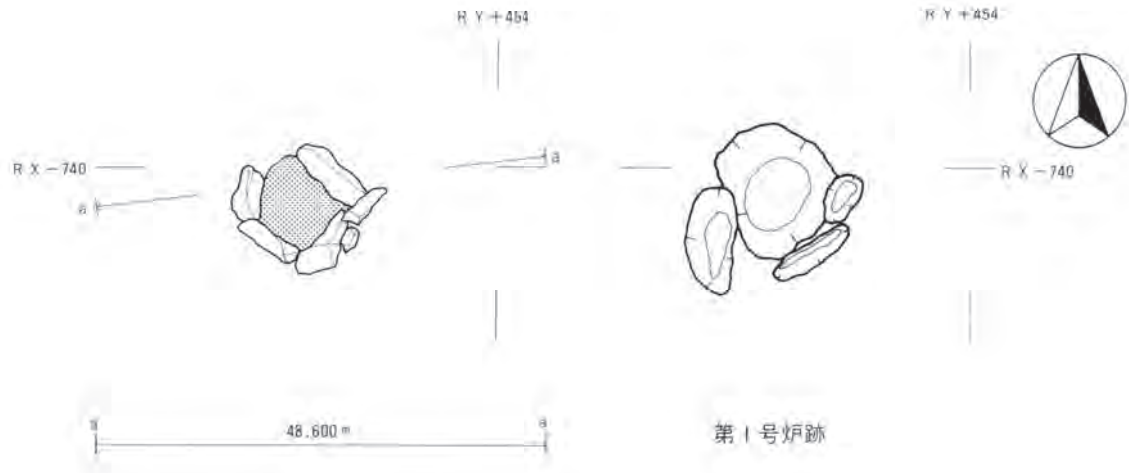
R Y + 468



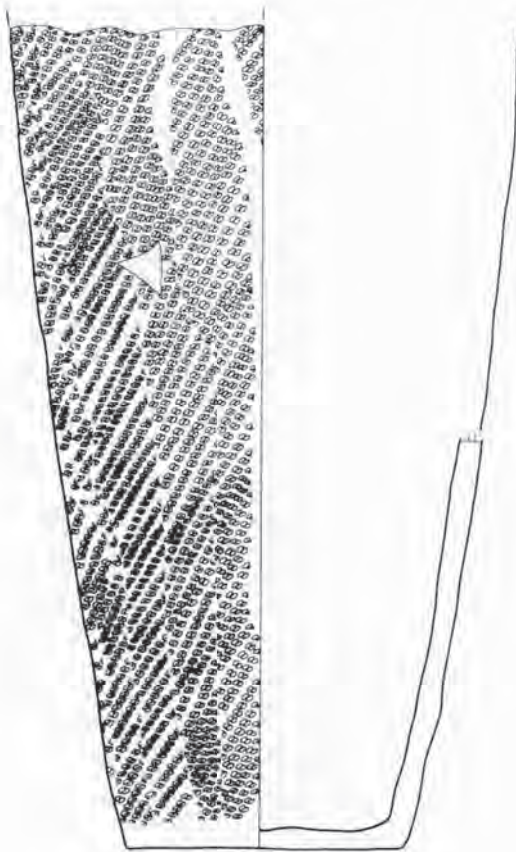
114号土坛



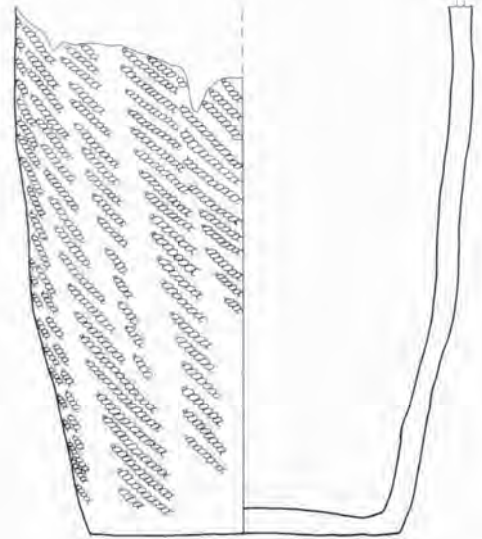
第49图 114号土坛



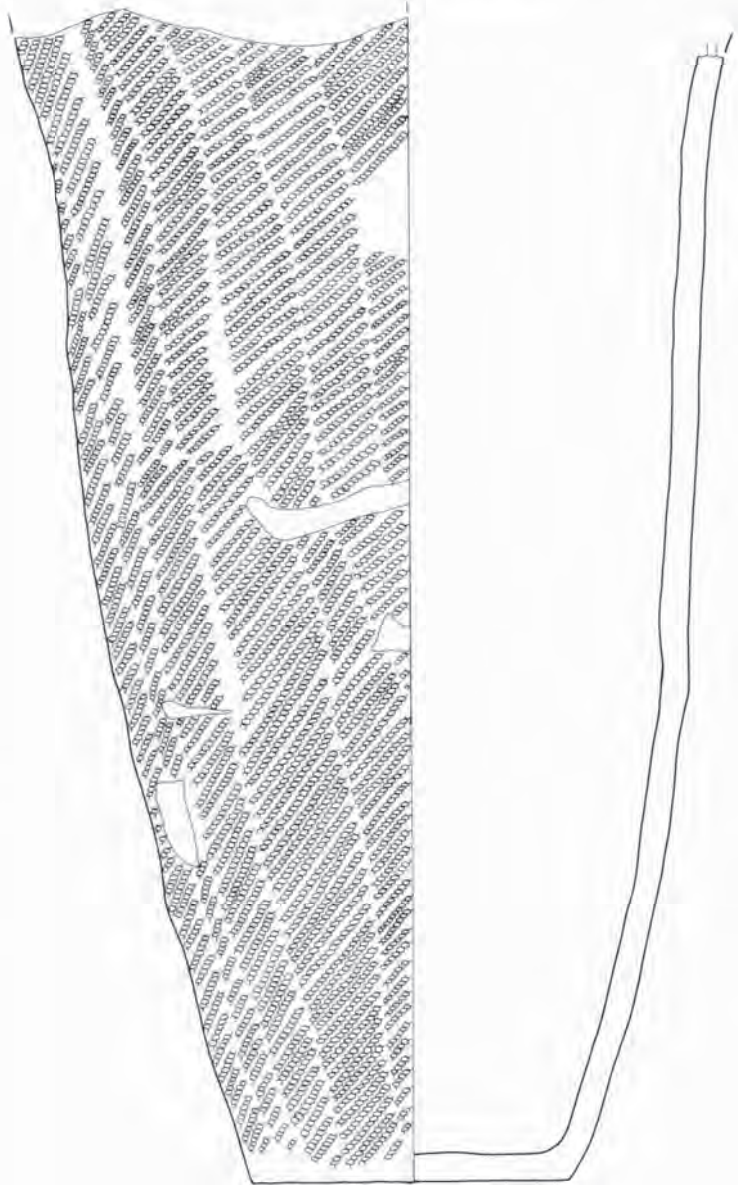
第50图 第1号·2号炉跡



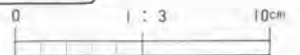
25(39号土坛)



26(84号土坛)



29(68号土坛)

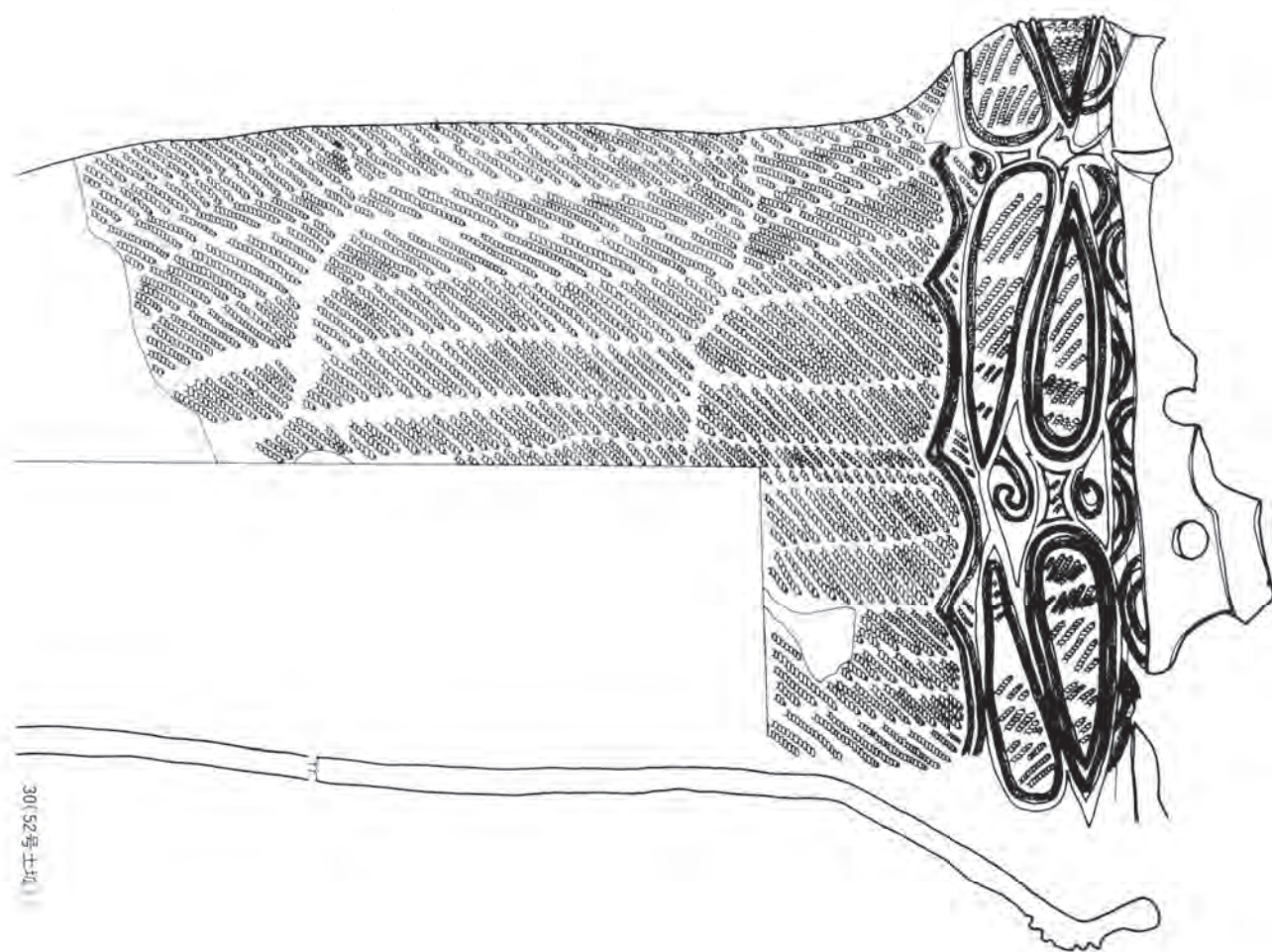


27(44号土坛)

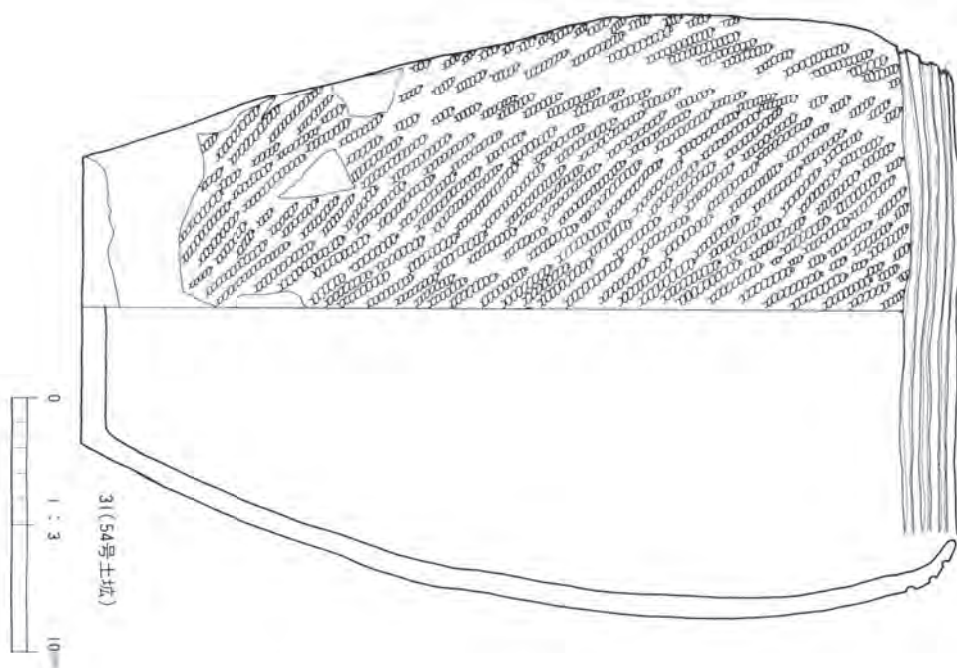


28(105号土坛)

第51图 土坛内出土土器①



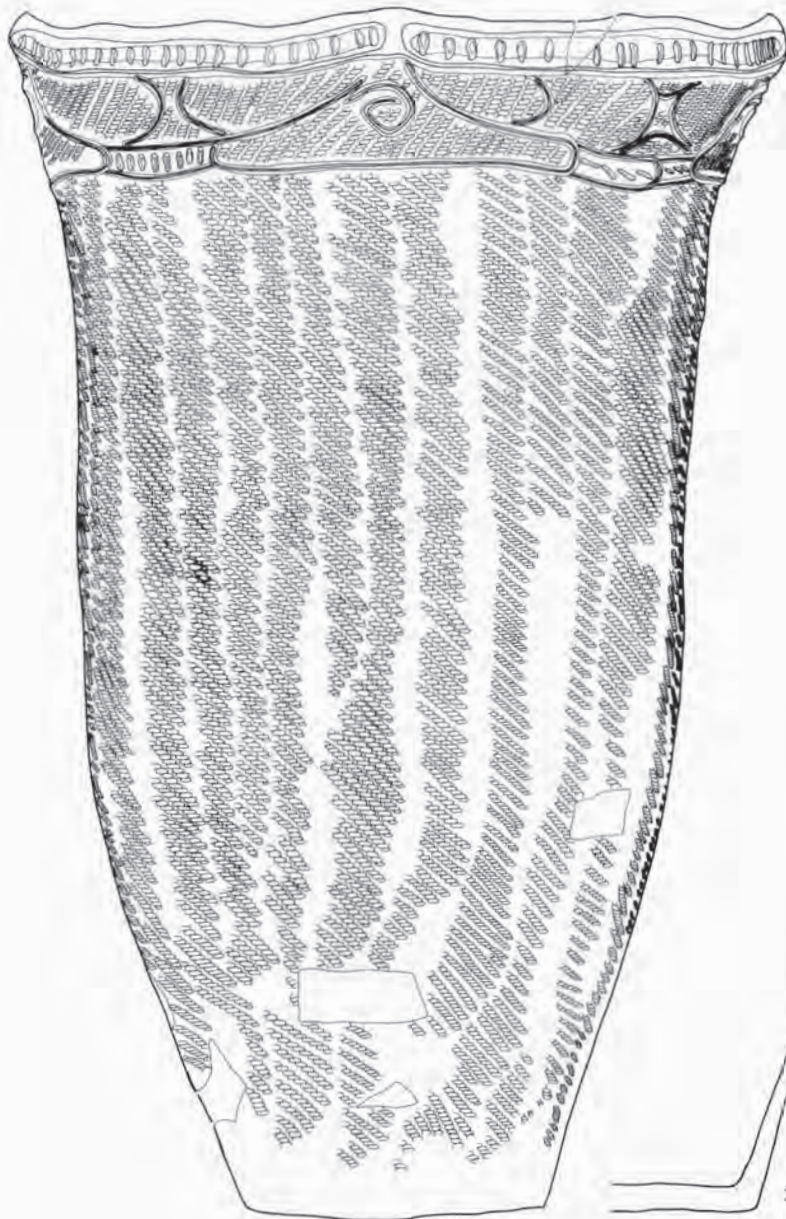
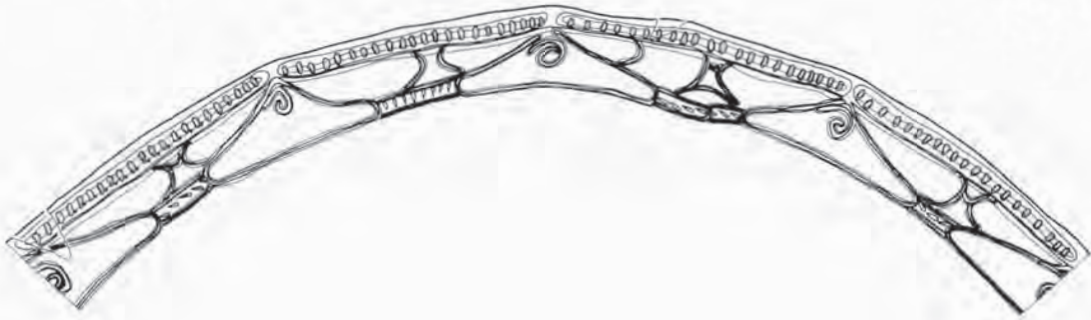
30(30号土坑)



31(31号土坑)

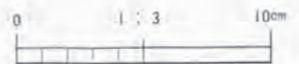


第52图 土坑内出土土器②



70号土坛

32



第53图 土坛内出土土器③

### 遺構外出土遺物

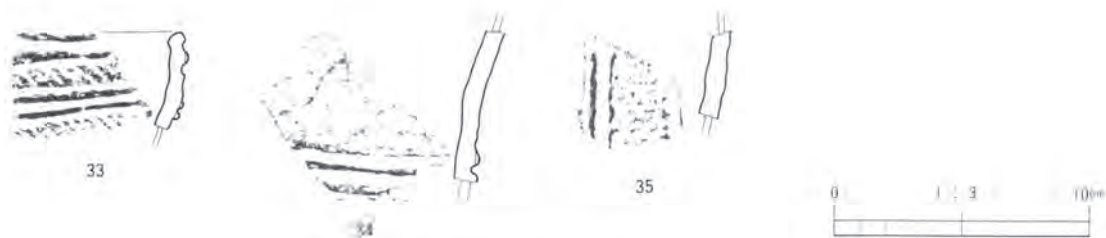
今回の調査により出土した土器は、縄文時代前期初頭から中期さらには後期中葉にわたるが、これらは前述したように層位的にまとまった出土状況を呈してはいない。また、実測した土器も文様を有するもの（精製土器）が少ないなどの理由により、本項での型式分類は大別に留めることとした。

**群** ここでの分類基準は上位より群類としている。“群”は従来から提唱されている型式（大別型式）に相当させたもので、器形の差異により“類”として細分した。更に、本来的には施文技法やモチーフにより、細分されるべきであるが大半が破片であることなどから、特徴的なもののみを記述することとした。

**1群** 縄文時代前期初頭に伴うもの。(200～204)

a類 いずれも破片であり器形が不明であるので一括した。

すべて胎土中に植物繊維を含むが、体部に結東のある羽状縄文を施すもの(200～202)と撚りの直前段多条の地文を施すもの(203、204)の2者がある。



第54図 第2号炉跡出土土器

II群 大木6式～大木7a式に伴うもの。(55、193～196、224、234～236)

a類 いずれも破片であり器形が不明であるので一括した。(同上)

竹管文により施文されるものが主体となる。193～196は、大木6式に伴うものであろうと思われる。55はモチーフが大木7b式に類似するもので、本群中最も新しいタイプのものであろう。また、224は口縁部に縦位の小波隆起線を貼り付けるものである。

III a群 大木7b式に伴うもの。(119～126、184～190、213、221、222)

a類、いずれも破片であり一括したが、口縁部の外反するものと内湾するものがある。

(119～126、184～190、221、222)

いずれも縄文原体圧痕文を指すもので、口縁部文様帯に横位に施すもの(119～124、189、213、222)と刻目や刺突状の施文をするもの(125、126、184～188、190、221)

III b群 大木7b式～大木8a式に伴うもの。(111～118、191、192)

a類 いずれも破片であり一括した。(111～118、191、192、217)

本群も縄文原体圧痕文を施文するもので、おそらくは大木7b式あるいは大木8a式前半期に伴うものであろうが、いずれも破片であるために分類を避けて一括した。

IV群 大木8a式に伴うものであるが、後半期が主体となる

a1類 平縁のキャリバー形深鉢を呈するもの。(49、50、65～67、70、100、101、165、166、168、214、215、216)

口縁部文様帯は単層であり、沈線により施文するものと隆沈線により施文するものの2者がある。モチーフは65～67のように波状に展開するものが基本となるが、49のように小渦巻文などを伴う横位楕円形区画文となるものや、50のように上下の区画線のみを施し、文様帯内には施文しないものなどがある。

a2類 口縁部に波頂や把手などを有するキャリバー形深鉢を呈するもの。(99、102～105、107～109、160～164、167、170、171)

口縁部文様帯は上下2層に重層化する。のように隆沈線による施文が中心となる。

b類 a類以外の深鉢を一括した。(68～78、106、110、169、172～183、223、231～233)  
口縁部は外反するものと内湾するものの2者があるが、破片であるために分類を避けた。

c類 浅鉢形を呈するもの。(43、44)

43は口縁部に無文帯を有するもので、44は口縁部～体部にかけて隆起線による施文がみられる。両者とも縄文原体圧痕文は伴わない。

V群 大木8b式に伴うもの。

a類 キャリバー形を呈するもの。(42、46、53、56～60、135～137、142、211、230)

いずれも平縁であるが42のように器高が低く、やや体部の膨らむものと、46のように器高の高いものの2者がみられる。口縁部文様帯は、隆沈線により横位に展開した施文がみられるものの、上下境界線との連結はあまりなされないために開放的となっている。頸部は無文帯とな

るものが多いようである。体部文様帯は沈線や隆沈線により、大渦巻文や懸垂文、区画文などを施すが、口縁部同様に開放的施文となる。

b類 口縁部の外反する深鉢形を呈するもの。(37、39、41、52、61～64、79～83、135～137、141、142～153、208、209、212、218、226～229)

39のように体部の強く膨らむものは少なく、41のように体部のゆるやかに膨らむものが主体となる。口縁部は無文帯となり、体部に隆沈線や沈線による渦巻文や懸垂文などを施す。

c類 口縁部の内湾する深鉢形を呈するもの。(38、134、138～140、219)

VI群 ほぼ大木8 a式～大木8 b式に伴うもので体部に主体的モチーフを持たないもの。(36、45～48、51、54、61、84～98、154～159、207、210)

a類 口縁部の外反する深鉢で口縁部に隆起線を貼り付けるもの。(54、84～89、91、92、155、156、158、159)

波状口縁を呈するものが多いようであるが84のように、波頂部に渦巻文を施すものと54のようにそうでないものの2者がある。

b類 口縁部の内湾する深鉢で口縁部に隆起線を貼り付けたもの。(45、90、93、94、154、157)

45のように器高がやや高く、やや大き目のものが主体となる。口縁部には隆起線を貼り付けるが、4単位の渦巻文が伴う。

c類 口縁部の外反する深鉢で地文のみを施すもの。(47、95、98)

95は口縁部を折り返すもので、他は単純口縁のものである。

d類 口縁部の内湾する深鉢で地文のみを施すもの。(36、46、96、97)

36、46などのように比較的大形のもの、96、97のようにやや小形のもの2者がある。

VII群 大木9式～大木10式に伴うもの。(69、129～133、210、225)

a類 いずれも破片であり一括した。(69、129～133、210)

磨消し技法により曲線的縄文区画文を施す。69、133は大木9式に伴う可能性も指摘される。

VIII群 縄文時代後期に伴うもの。(205、206)

a類 いずれも破片であり一括した。(205、206)

平行沈線により施文される土器である。

IX群 いずれの時期に伴うものか不明のもの。(127、128、196～198、219)



## 2 石器

今回の調査で検出した石器は、多量に出土した土器に対し極端に少ない。土壇跡の遺構内から出土したものはなく、すべて遺構外から散発的に出土した程度である。

### (2) 1 剥片石器 (第65図)

定形的な剥片石器のみならず、剥片自体の出土量も極めて少ない。実測できたものは、石鏃5点とサイドスクレイパー状の剥片1点の6点のみであった。

#### 石鏃

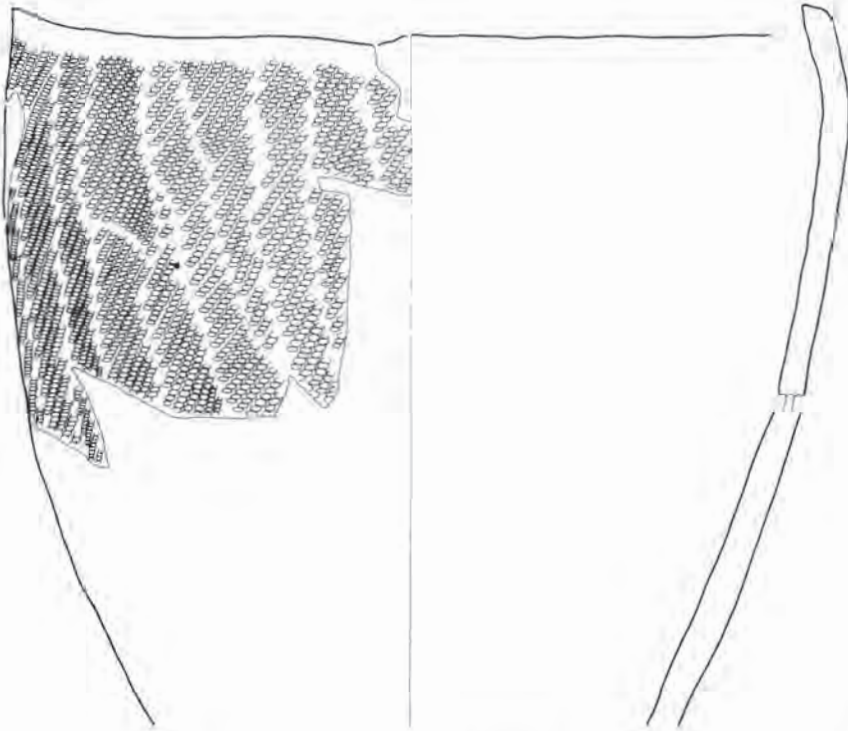
Ⅲ a層中から3点(1~3)、Ⅱ層中から2点(4、5)出土した。形態、基部の作り出しなどから2形態に分けられる。

形態1 二等辺三角形形状を呈し凹基となるもの(1~3)。いずれもⅢ a層中から出土したもの。1は背面中央部に大きく第1次剥離面を残すもの。2は両面とも比較的大まかな調整剥離で整形している。3は全長3.8cmをはかる比較的大形のもので、両面とも基部側に第1次剥離面を残す。基部の凹み具合も1、2よりは小さく平基に近い。

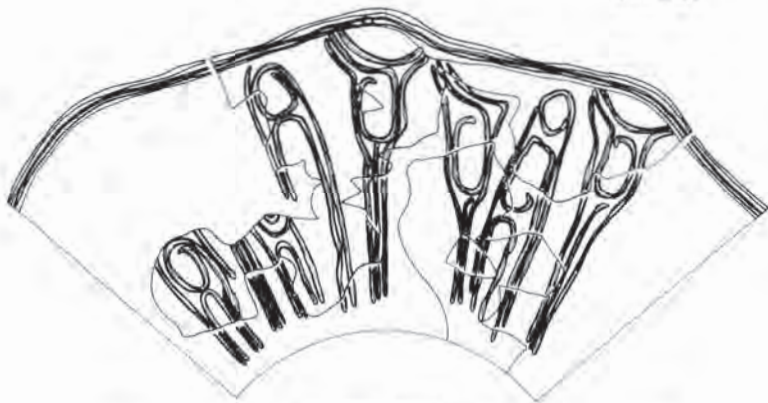
形態2 二等辺三角形形状を呈し平基となるもの(4、5)。いずれもⅡ層中から出土したもの。4は全体的に丸味を帯びるもので、基部の作り出しが粗い。5は全長2.7cmと小形のもので、縦長の三角形形状を呈すもの。

#### 不定形石器

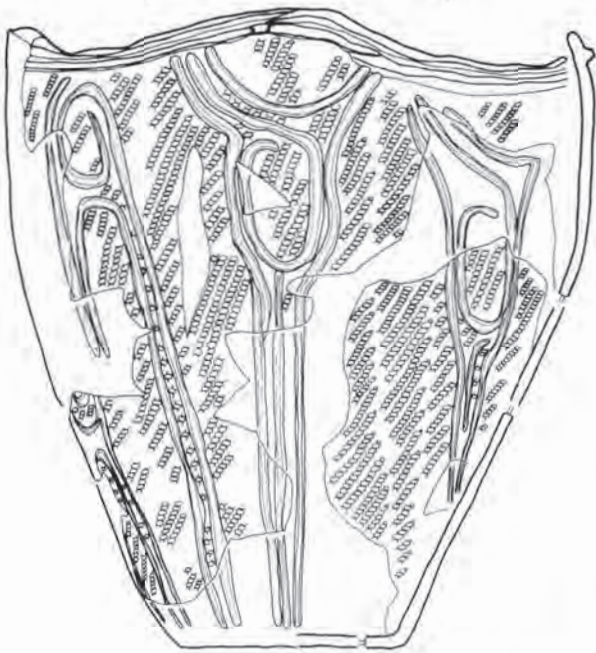
実測できたのは6の1点のみで、Ⅲ a層から出土したもの。縦長の剥片を利用したもので、両側縁部に使用によるものと考えられる細かい小剥離が認められる。



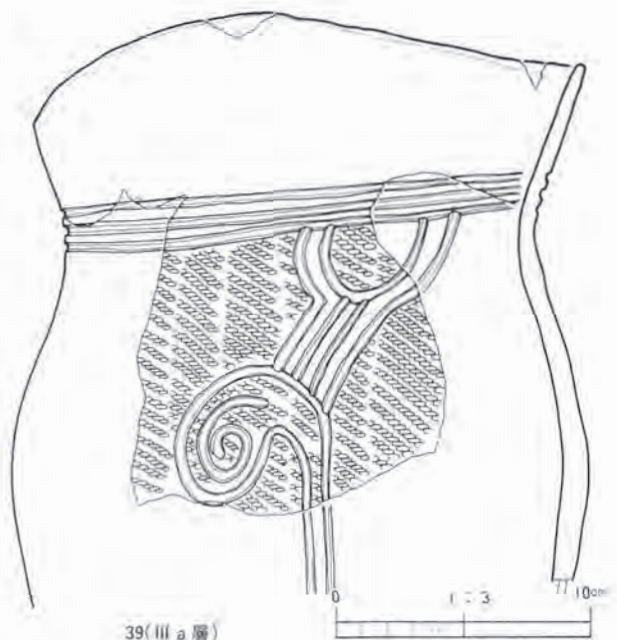
36(III b層)



37(III a層)

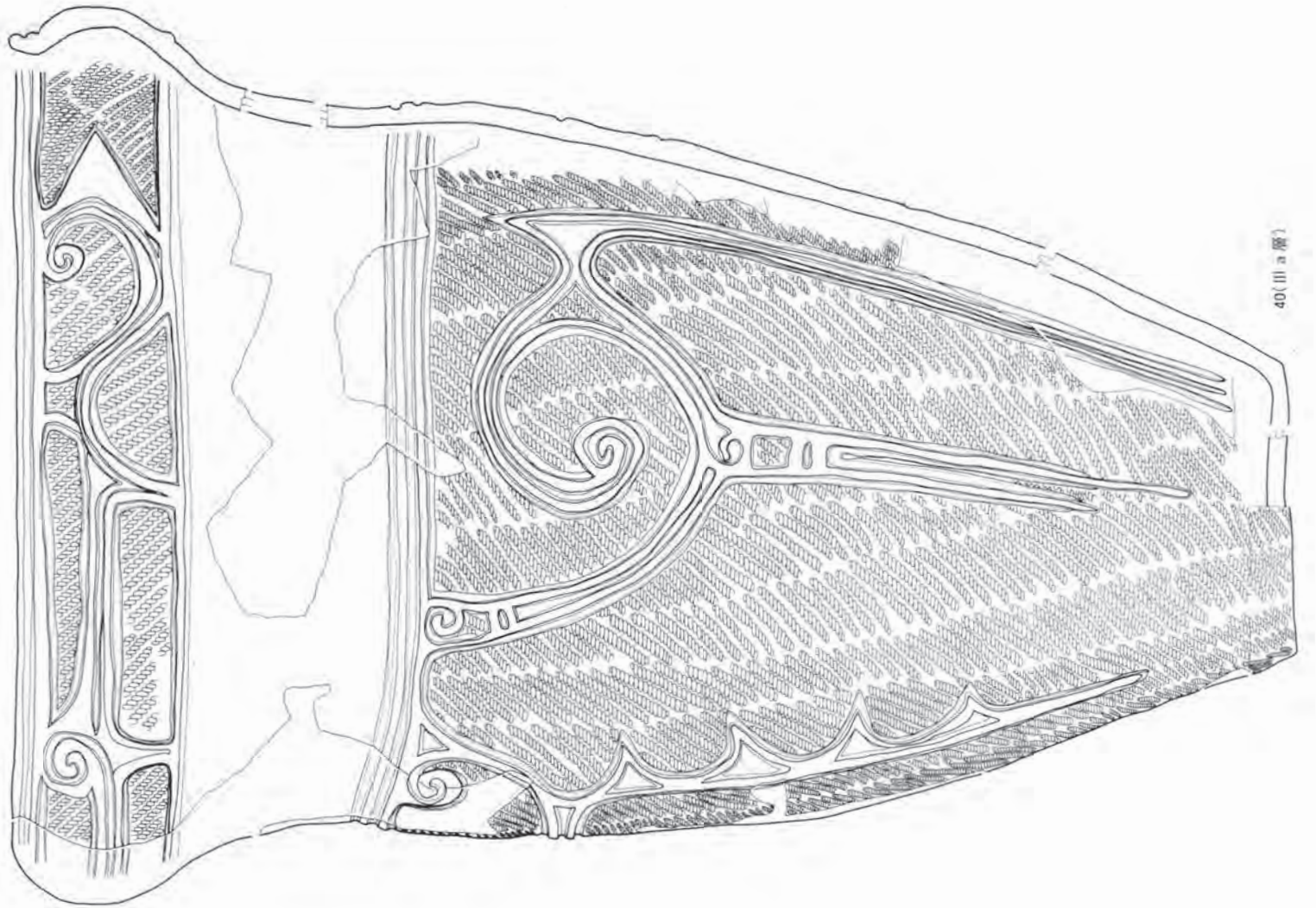
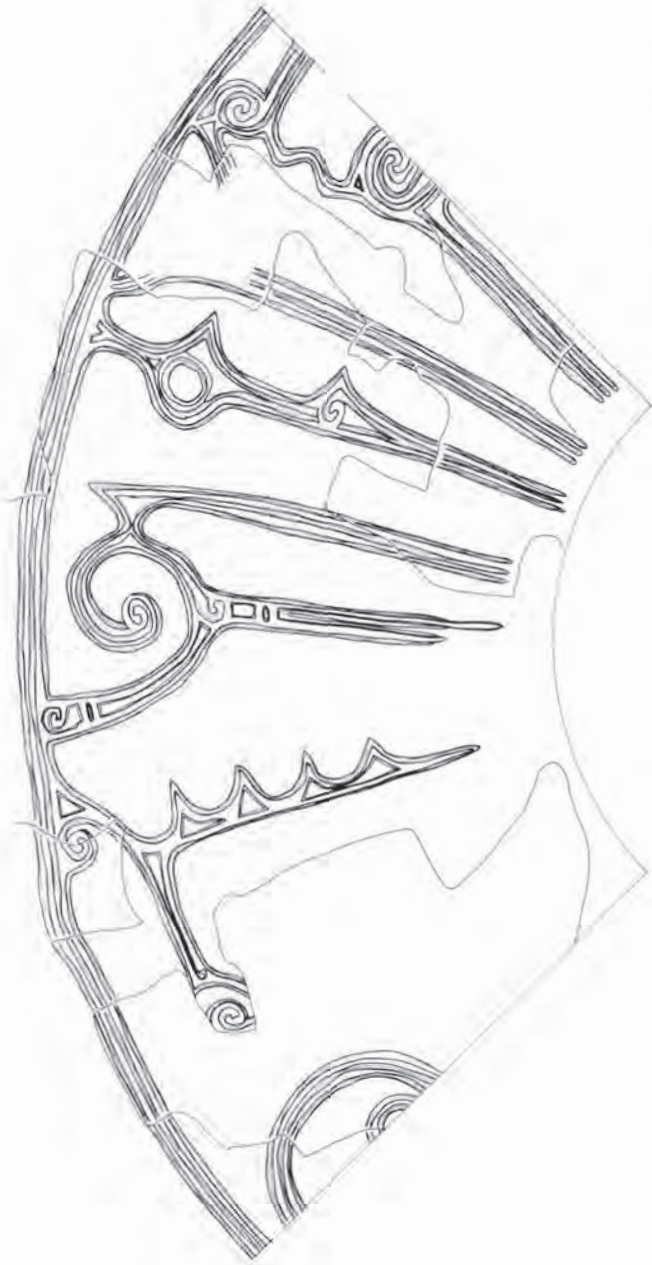


38(III a層)



39(III a層)

第55図 遺構外出土土器①



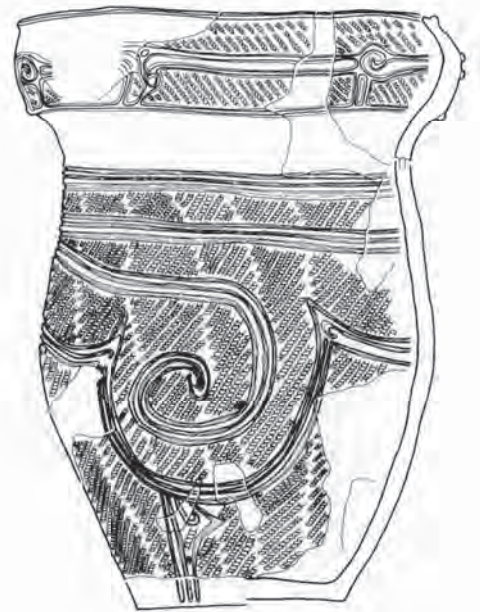
40(II a 層)

第56圖 遺構外出土土器②

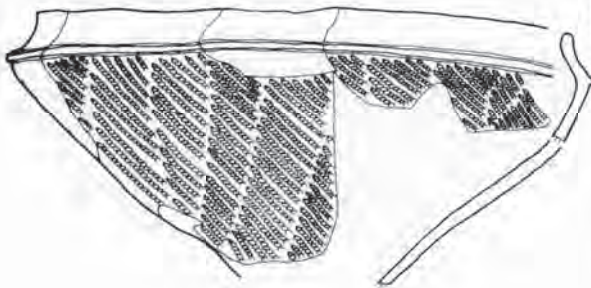




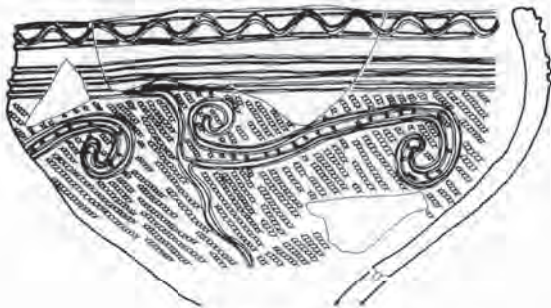
41(III a層)



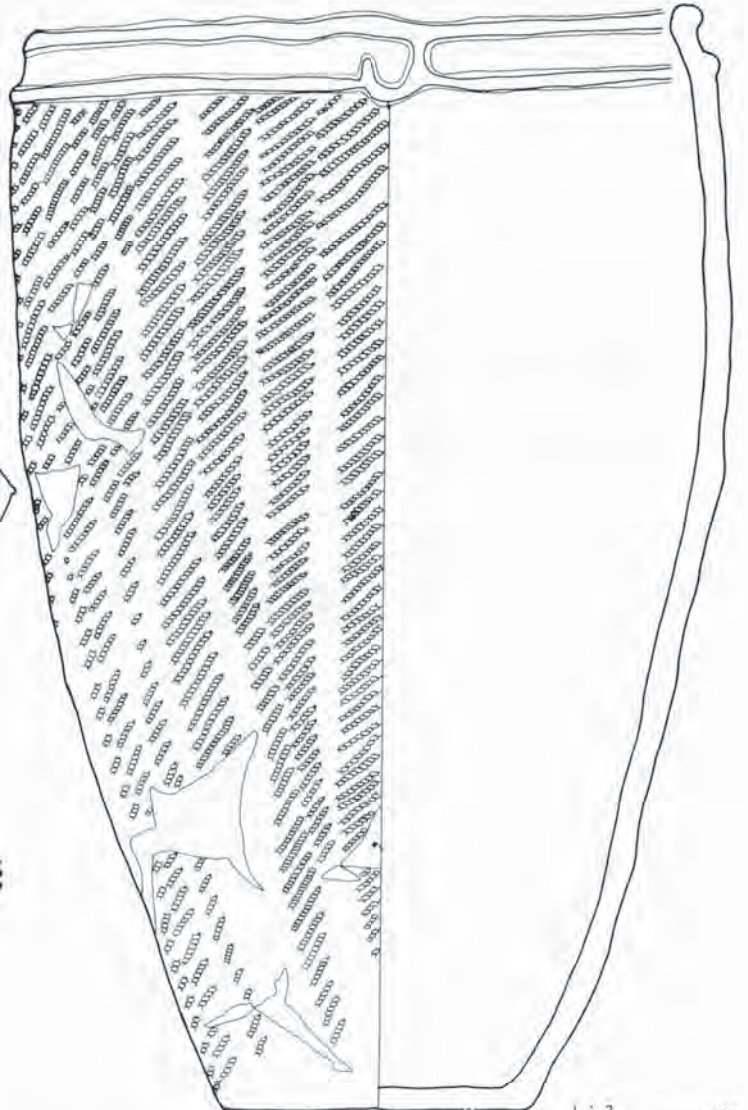
42(III a層)



43(III a層)

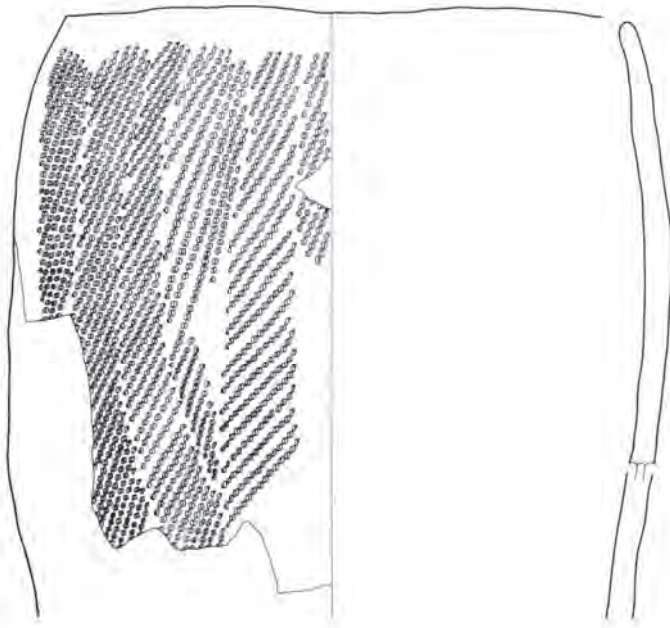


44(III a層)

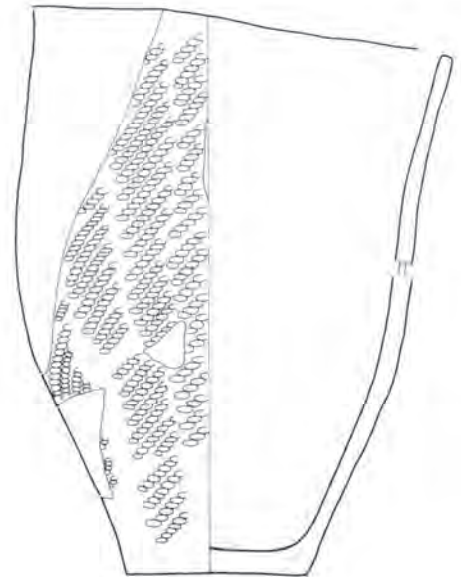


45(III a層)

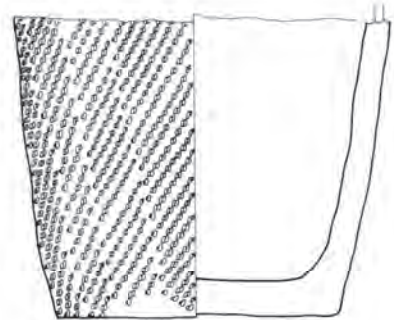
第57図 遺構外出土土器③



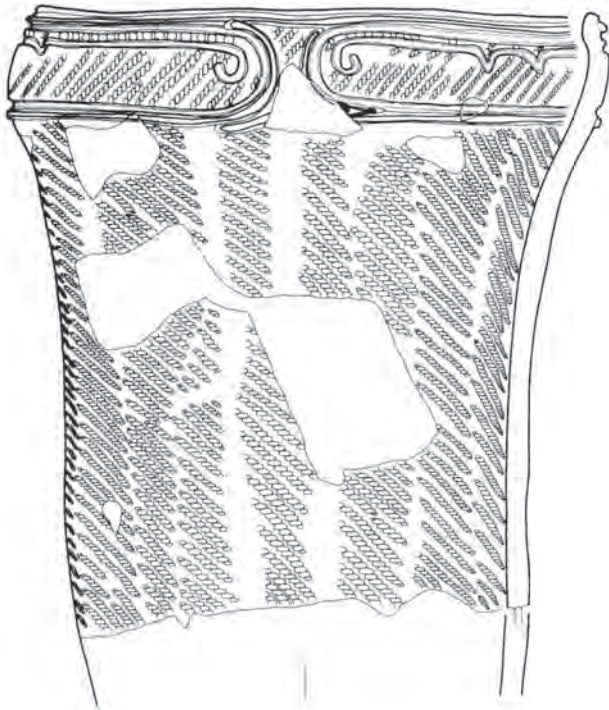
46(III a層)



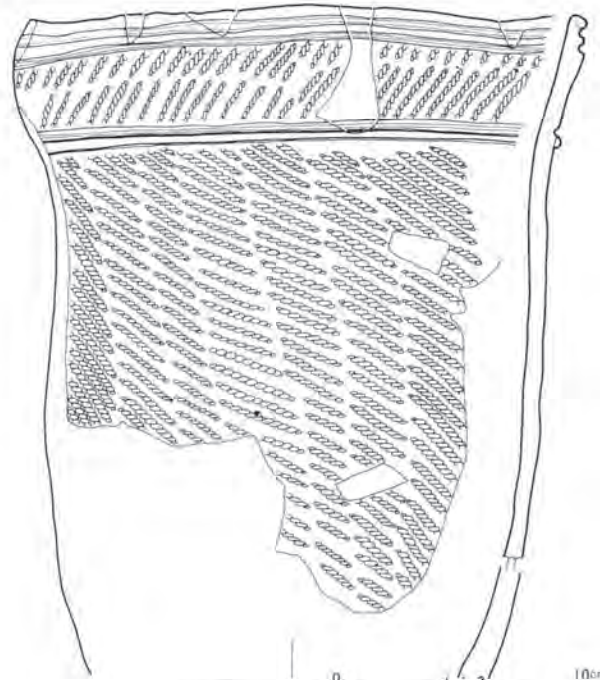
47(III a層)



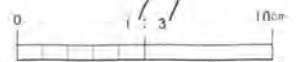
48(III a層)



49



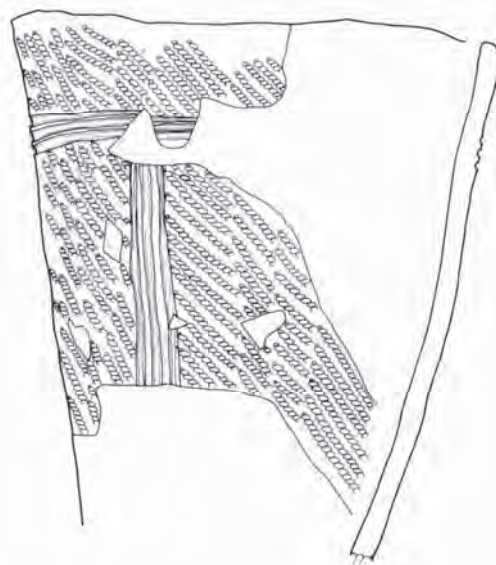
50(II層)



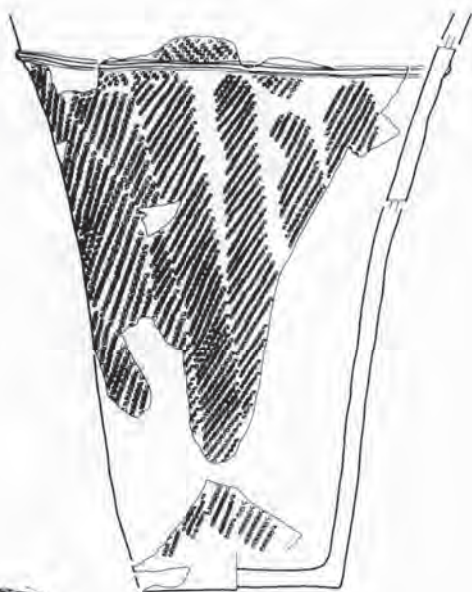
第58図 遺構外出土土器④



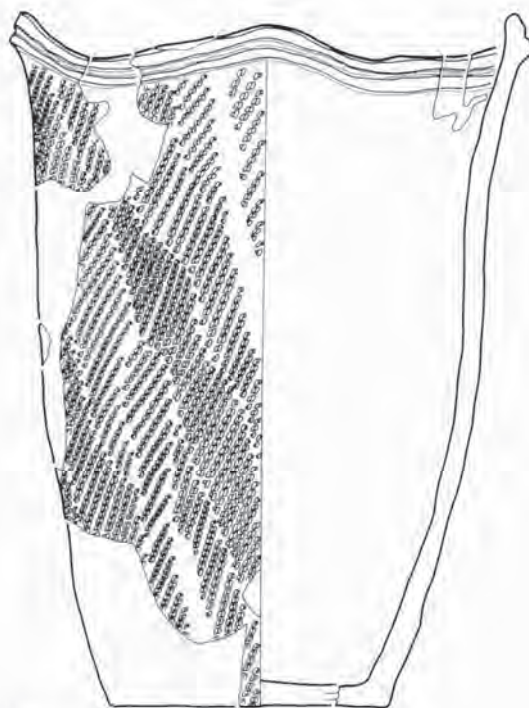
51(III層)



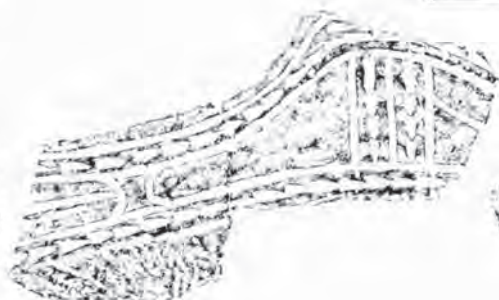
52(II下部層)



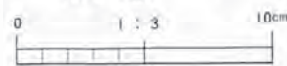
53(II層)



54(II層)



55(III b層)



第59圖 遺構外出土土器⑤



第60図 遺構外出土土器⑥

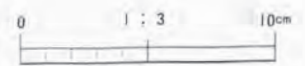




第61図 遺構外出土土器⑦



第62図 遺構外出土土器⑧



第63図 遺構外出土土器⑨



第64圖 遺構外出土器⑩

## 2—(2) 打製石器 (第66、67図)

打製石器自体の出土量も少ない。

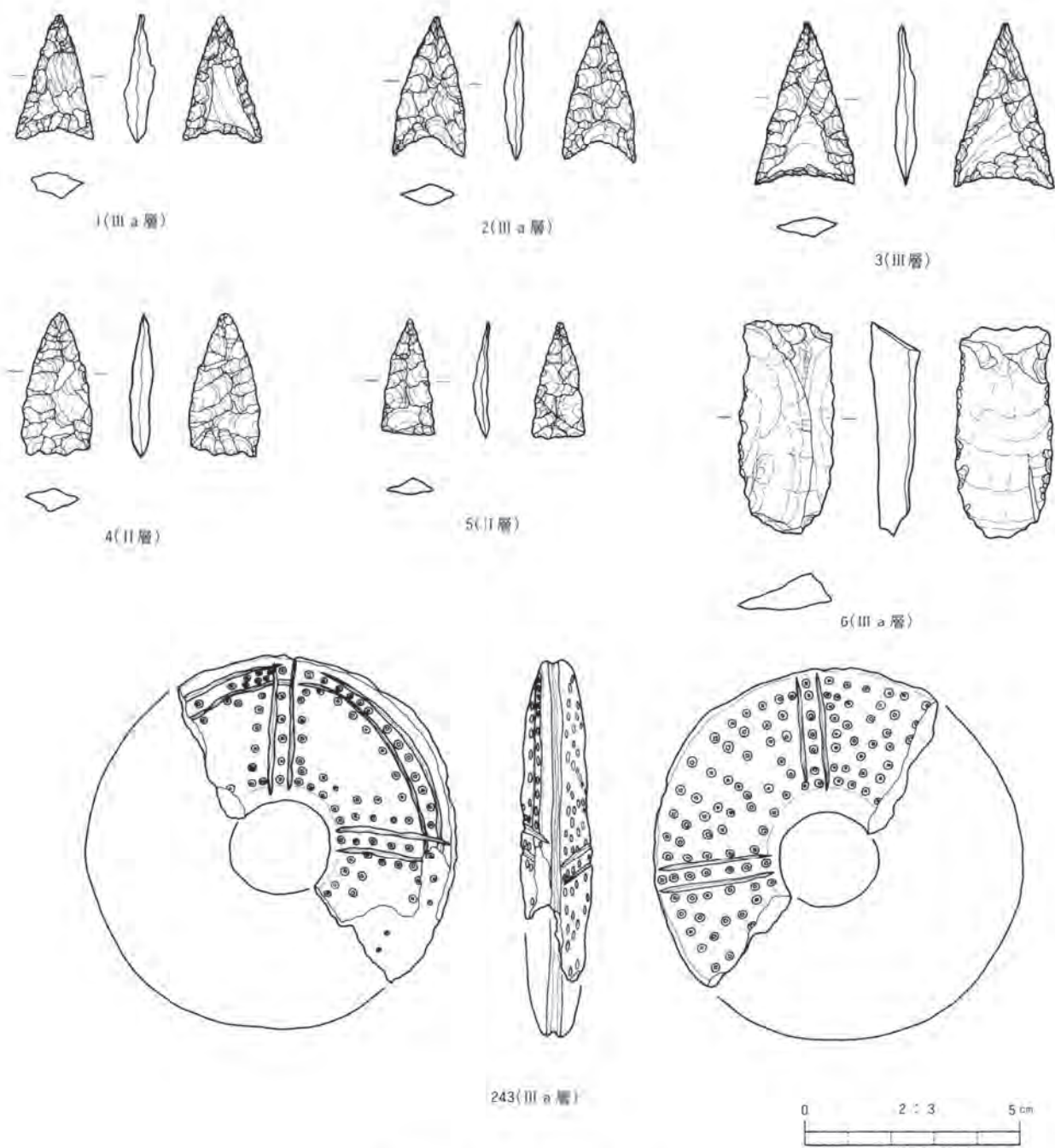
敲打磨石 扁平な半楕円形礫を使用し、下端部を機能磨面とするもの(7~16)。7~12はⅢa層、13~15はⅡ層、16はⅠ層から出土したものである。機能磨面に剥離の認められるもの(7~9、13~15)と認められないもの(10~12、16)がある。

7は下端部の機能磨面の外に半円状の端部に敲打痕が認められる。8は上端部を大きく剥離し整形したもの。9は半円状の端部に剥離が認められる。10~12は機能磨面以外には全く剥離も敲打痕も観察されないもの。14は断面が三角形を呈す。15は欠損時の大きな剥離が認められる。16は上端部を打ち欠き整形するものである。

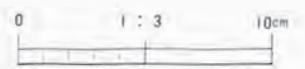
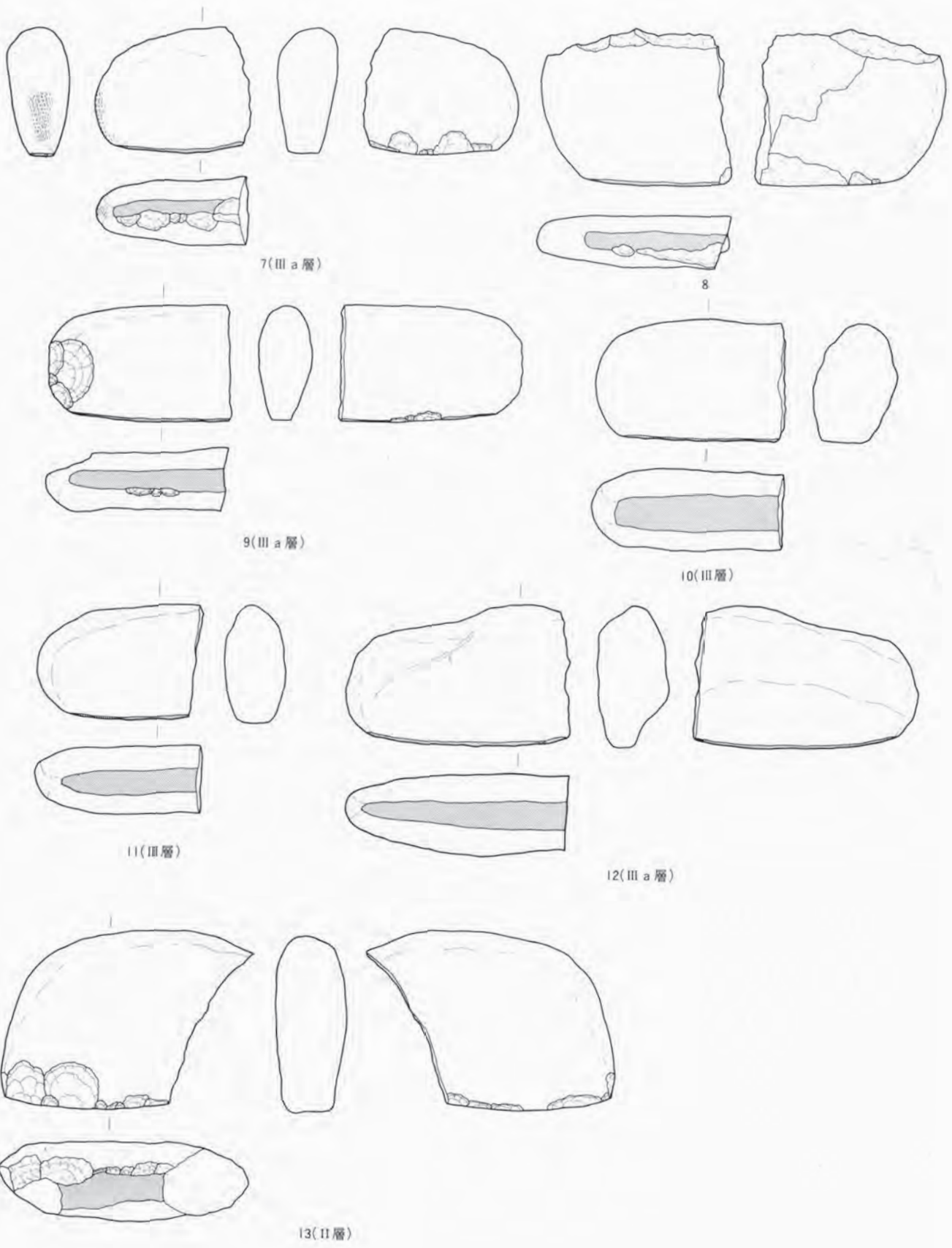
礫器 半円状の礫の一端を片刃状に打ち欠くもの(17)。刃部は比較的鋭く、その形態などからチャッパー的な機能を有すものと考えられる。

## 2—(3) 磨製石器 (第67図)

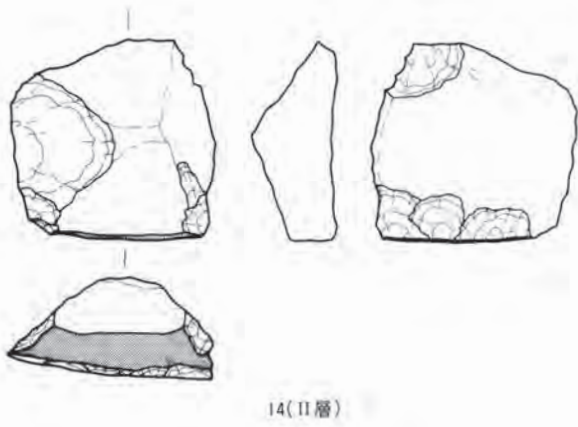
磨製石斧2点が出土している(18、19)。いずれもⅢ層中から出土したもの。19には刃部に使用によると思われる細かい剥離が認められる。また、側縁部には整形時の敲打痕が認められる。



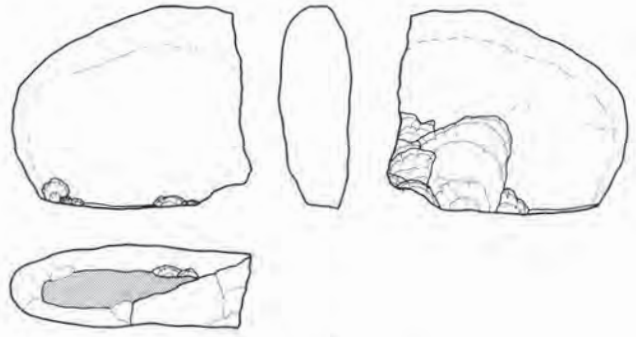
第65圖 遺構外出土石器・土製品



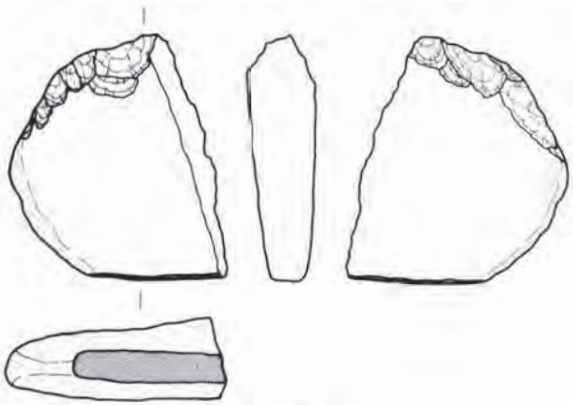
第66図 遺構外出土石器



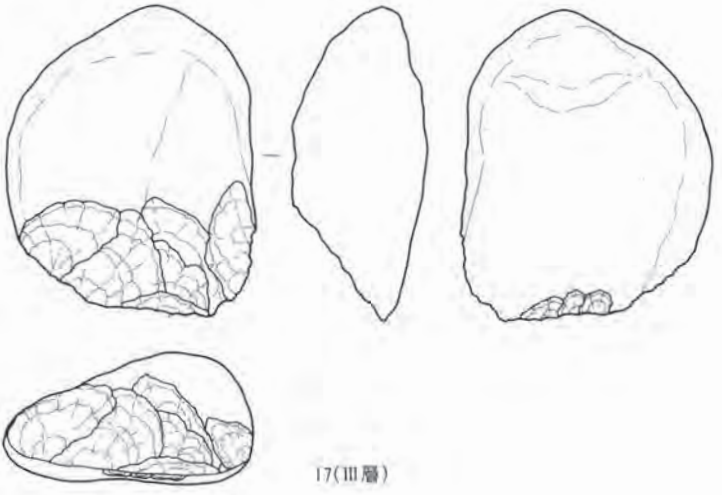
14(II層)



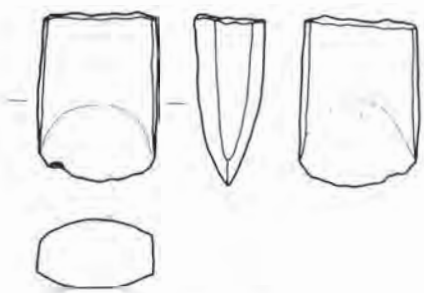
15(II下層)



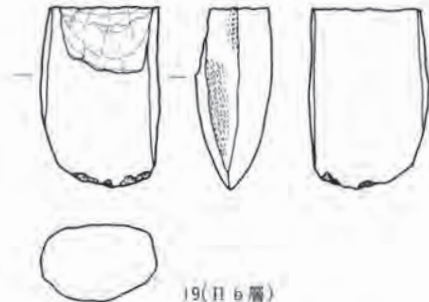
16(I層)



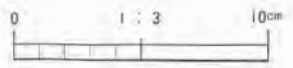
17(III層)



18(III a層)



19(II b層)



第67図 遺構外出土石器



## IV 調査のまとめ

高根遺跡は、黒森山山地帯の小起伏山地から続く緩斜面上に立地しており、今回発掘調査を実施したのは、この緩斜面の低い所である。遺跡全体の広がりの中では、中心部から若干はずれた南側部分にあたる。

検出した遺構は、そのほとんどが土坑跡であったが、フラスコピットやピーカー状を呈するものと直径1m前後のものに大別される。前者のものは、すべて調査区内の北側（斜面上部）に位置しており、その用途としては一般的に貼蔵穴と考えられているものである。遺物は、ほとんど含まれていないと言っても良いほど少量であった。

遺 構

後者の直径1m前後のものは、小規模な集石を伴うもの、土器を埋設しているもの、ほとんど何もないものなどに分けられるが、プラン的には円形～だ円形を基調としており統一性がみられる。概して、埋土中に土器などの遺物を包含するものは少ない。小規模な集石を伴うものは、更に幾つかのタイプに分けられるが、中には、立石状の角礫の存在するものや扁平な礫を伴うものなどがある。これらの土坑は、前出の貼蔵穴とは明らかに別の意図のもとにつくられたもので、その用途・性格も異なるものと考えられるが、他の類例・事例をあたるなどの十分な検討を加えることが出来ず、この問題については、後日機会を改めてということにする。

集 石

以上の土坑跡は、その出土遺物や層位的なことから縄文時代中期前～中葉（大木7～8式期）にかけて形成されたものと考えられるが、斜面上部が削平されており、斜面下部に位置する土坑群と斜面上部に位置する土坑群との層位的な関係は把握できず、両者が同時期に存在していたものかは不明である。また、斜面下部に位置する土坑群についても、検出時に掘り込み面をとばしてしまいすべてが同時期に存在していたものなのか、時期的に分けられたものかは不明である。

今回の調査区の北側の一段高い斜面部には、これらの土坑群を形成したと考えられる人々の住居跡が存在するものと考えられるが、表採資料をみる限りにおいては、今回の調査により出土した土器群と極めて類似した様相を呈しており、これらの土坑群とほぼ同時期の竪穴住居跡などの遺構が存在する可能性が高い。

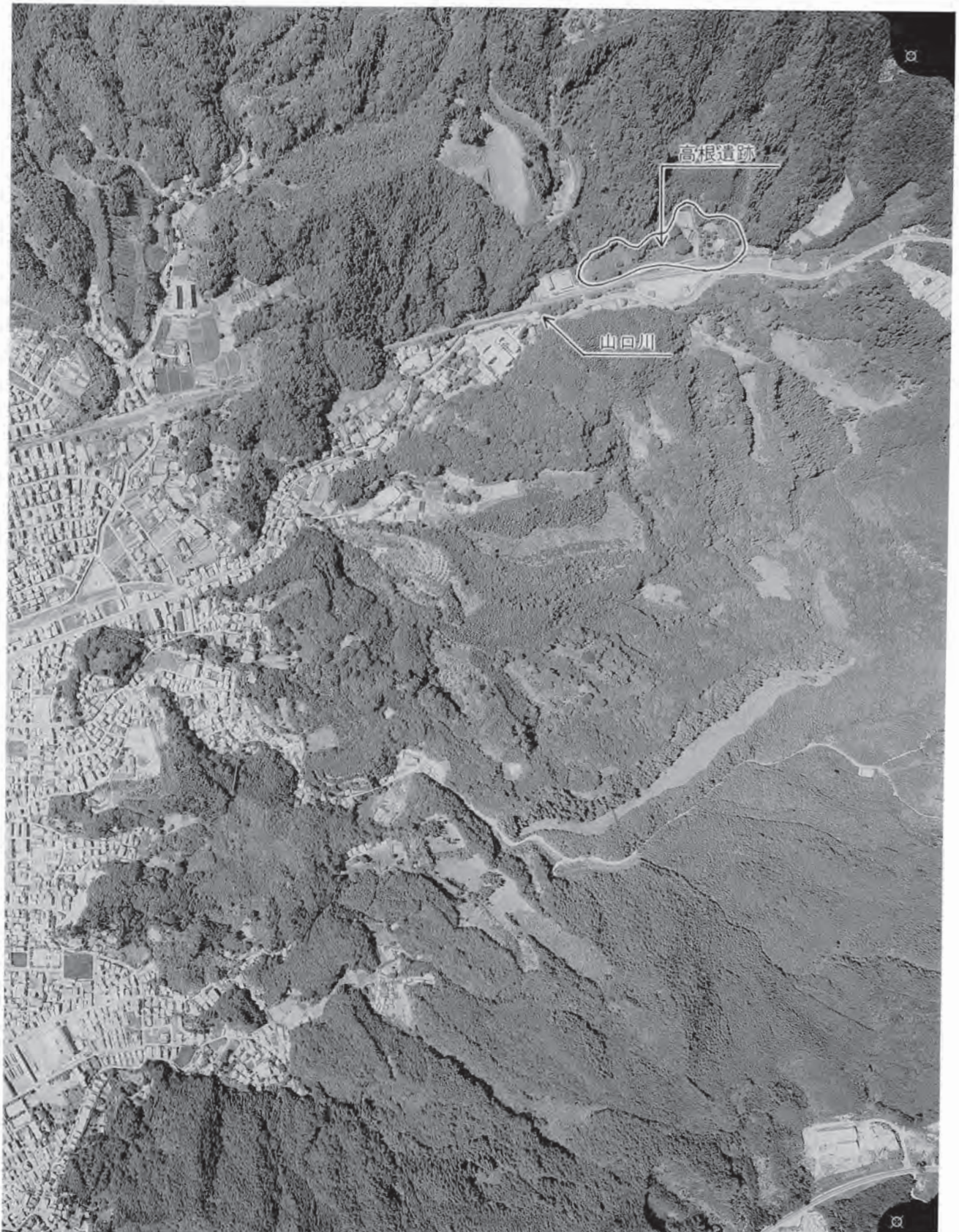
遺物は、その出土量が相当量にのぼり整理作業に追われ、十分な検討を加えることが出来なかった。土器の出土量に比べて石器などの他の遺物は極端に少ない。

遺 物

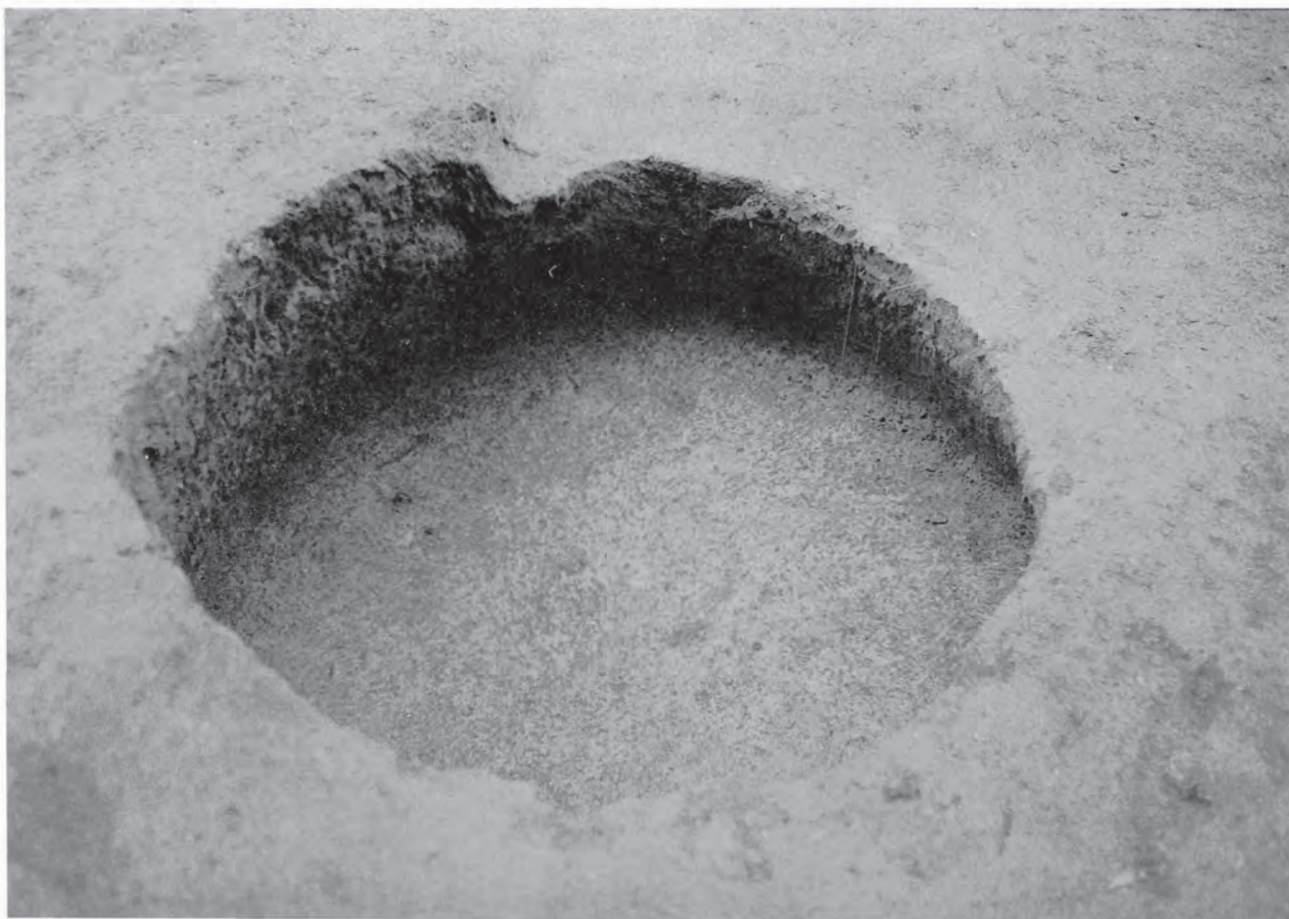
土器は、縄文時代前期初頭のI群土器から後期に伴うIX群土器の9つに分類したが、量的には縄文時代中期のものが大半を占める。特に、中期の土器に関する資料は、県内のみならず他県においても膨大なもので、その分類基準や研究も多く比較・検討を要するが、今回は、時間的な余裕が出来ず、分析などは後の機会に譲ることとした。

最後に、時間的な制約のため十分な分析・考察に至らなかったため、今後さまざまな機会を利用し分析・考察していきたいものと思っている。

写 真 图 版



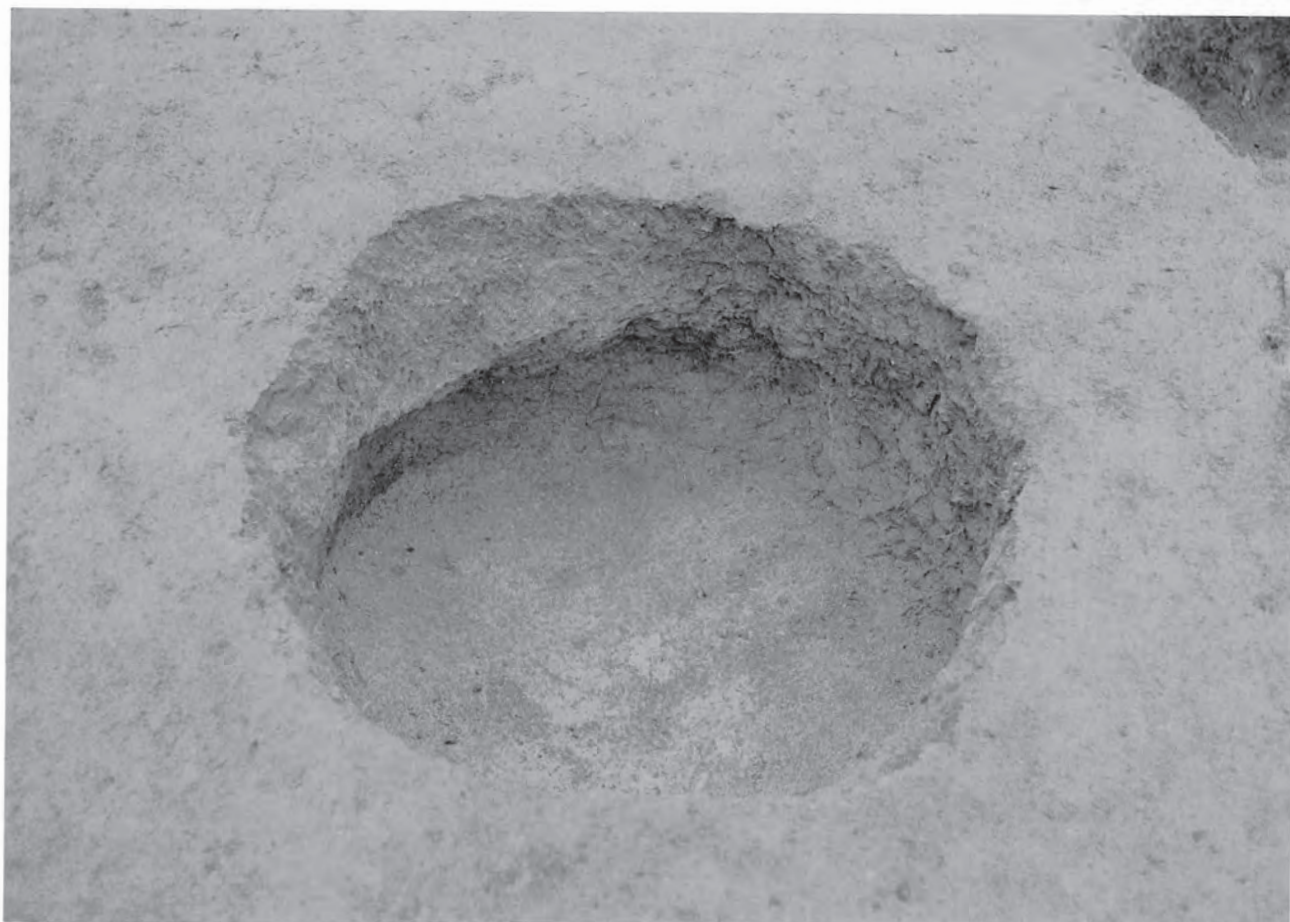
## 第2図版



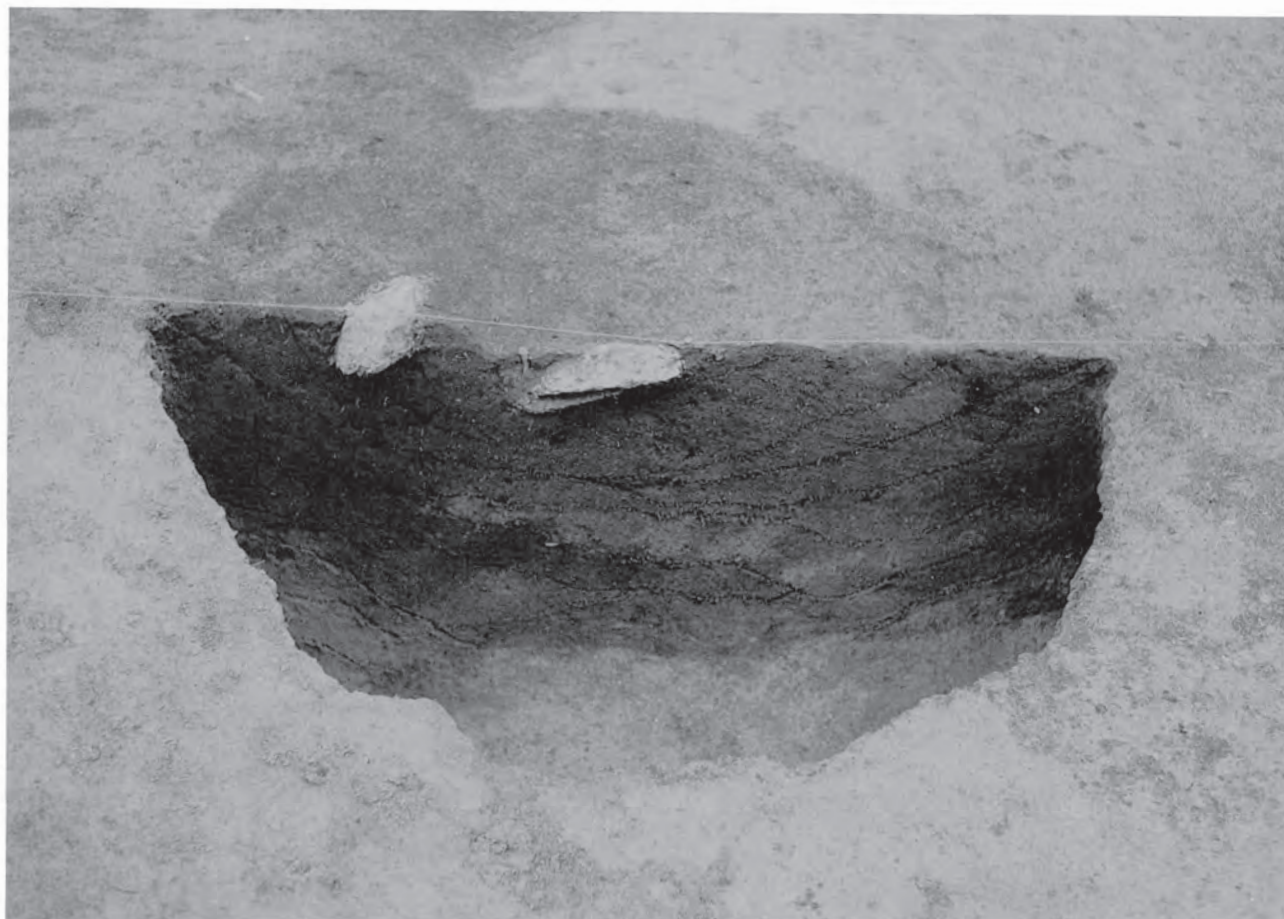
1号土坑完掘



1号土坑土層断面



4号土坑完掘



4号土坑土層断面

# 第4图版



5号土坛完掘



10号土坛完掘



43号土坑



76号土坑

# 第6図版



第2号炉跡



土坑群全景 I



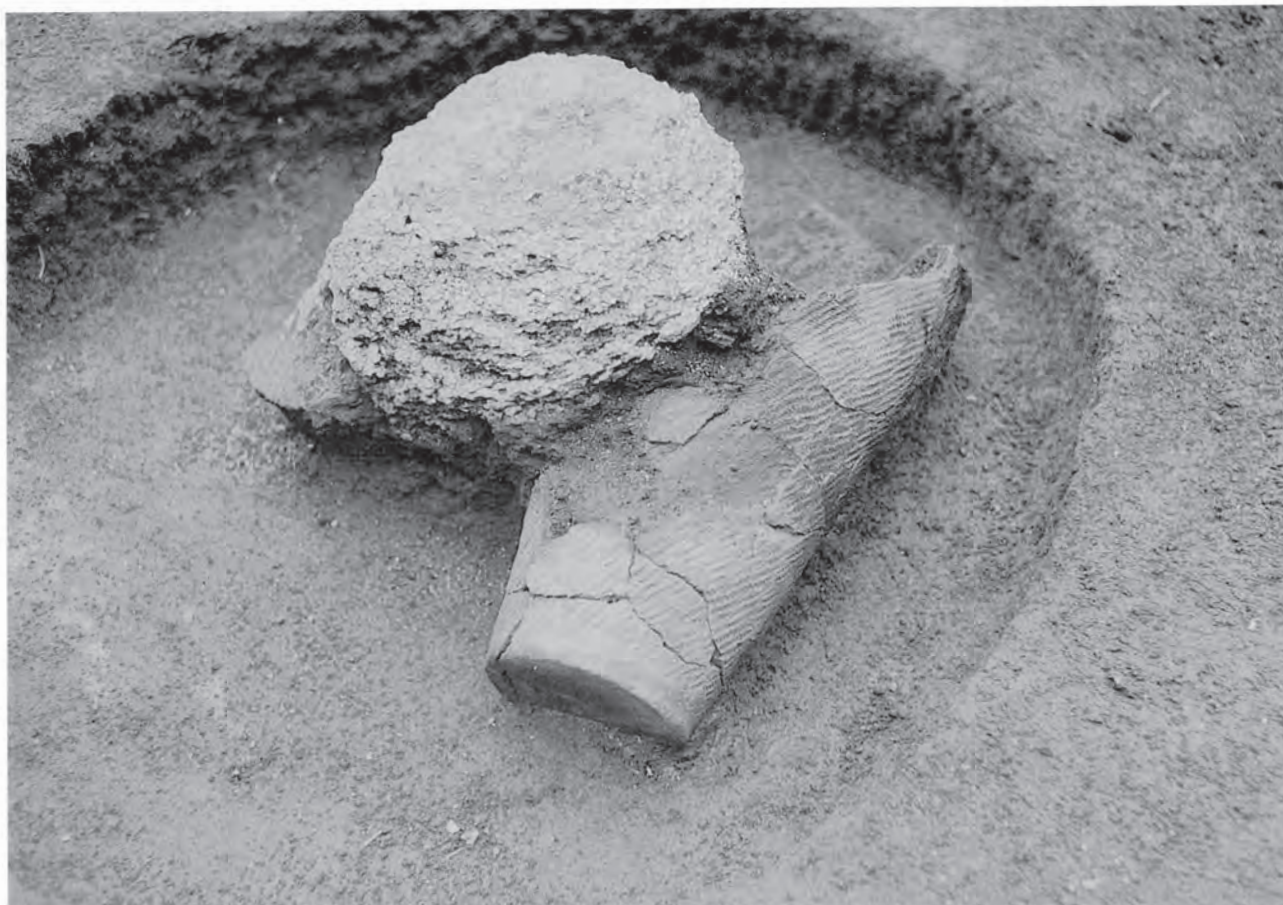


土壇群全景 2

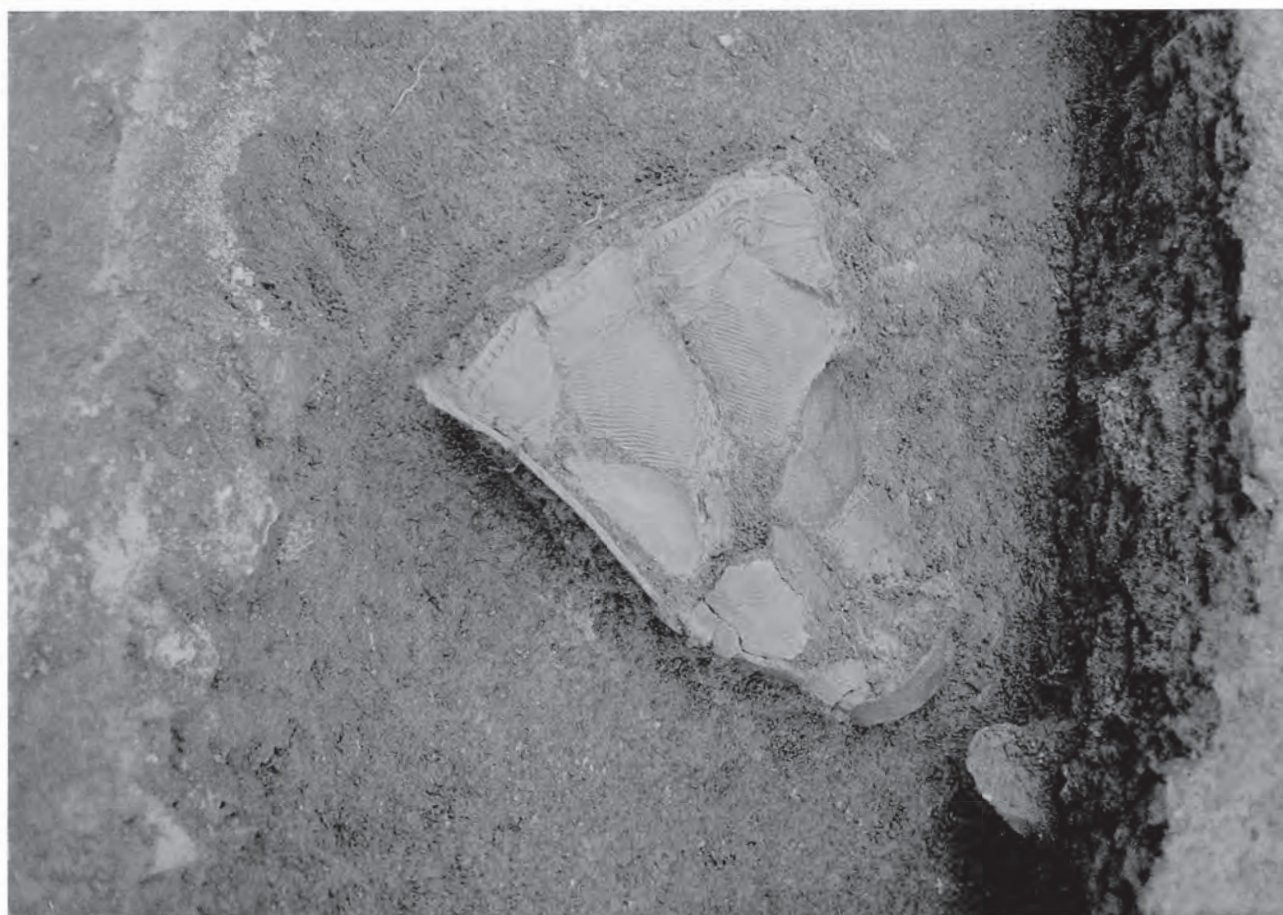


土壇群全景 3

# 第8図版



39号土坑（土器出土状況）



70号土坑（土器出土状況）



54号土坑（土器出土状況）



52号土坑（土器出土状況）

# 第10図版



遺構外土器出土状況（第56図40）



土製品出土状況（第65図243）

第11図版



25(39号土坛)



32(70号土坛)



26(77号土坛)



31(52号土坛)



29(69号土坛)



30(54号土坛)

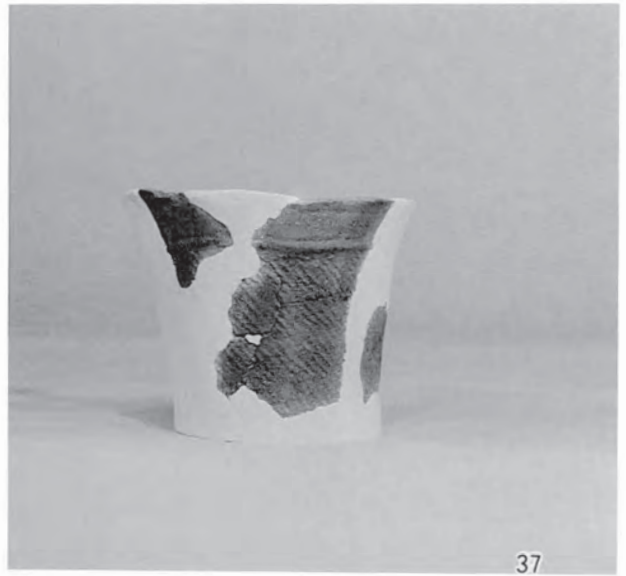
土坛内出土土器 (第50~52図)

第12図版

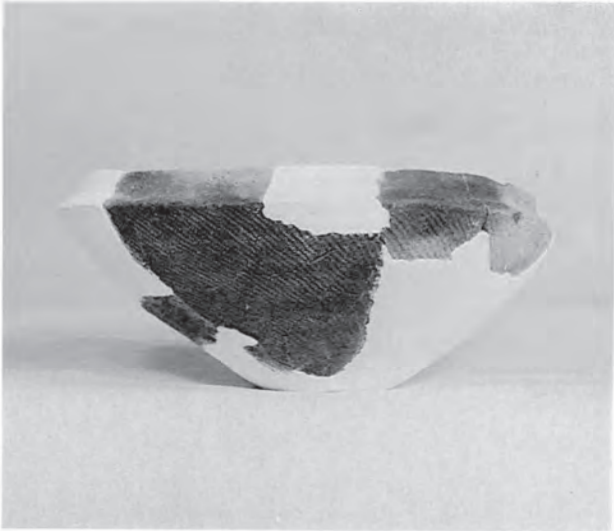


遺構外出土器Ⅰ

第13図版



# 第14図版



43



44



45



47



46



48

遺構外出土器 3





49



50



51



52

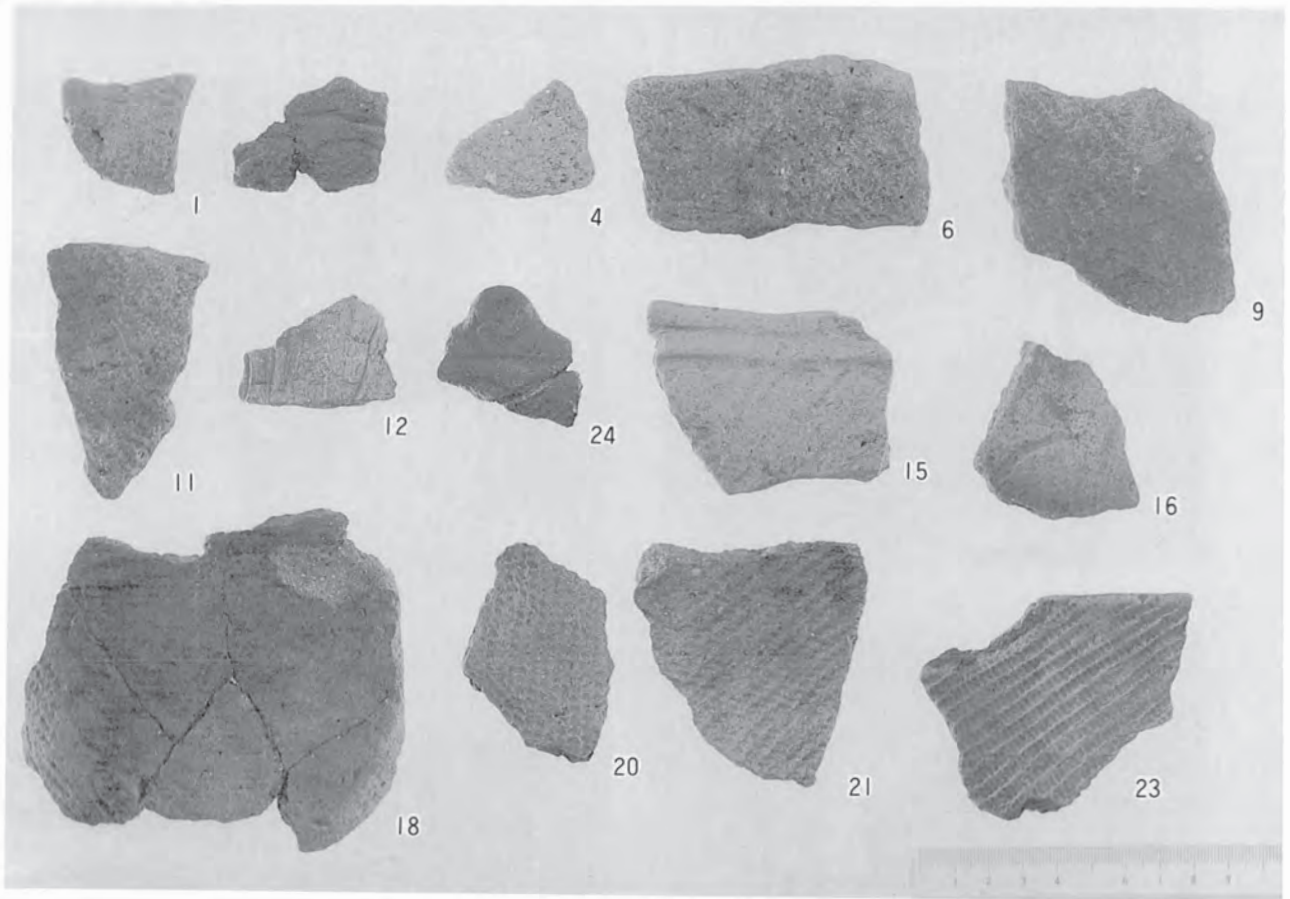


53

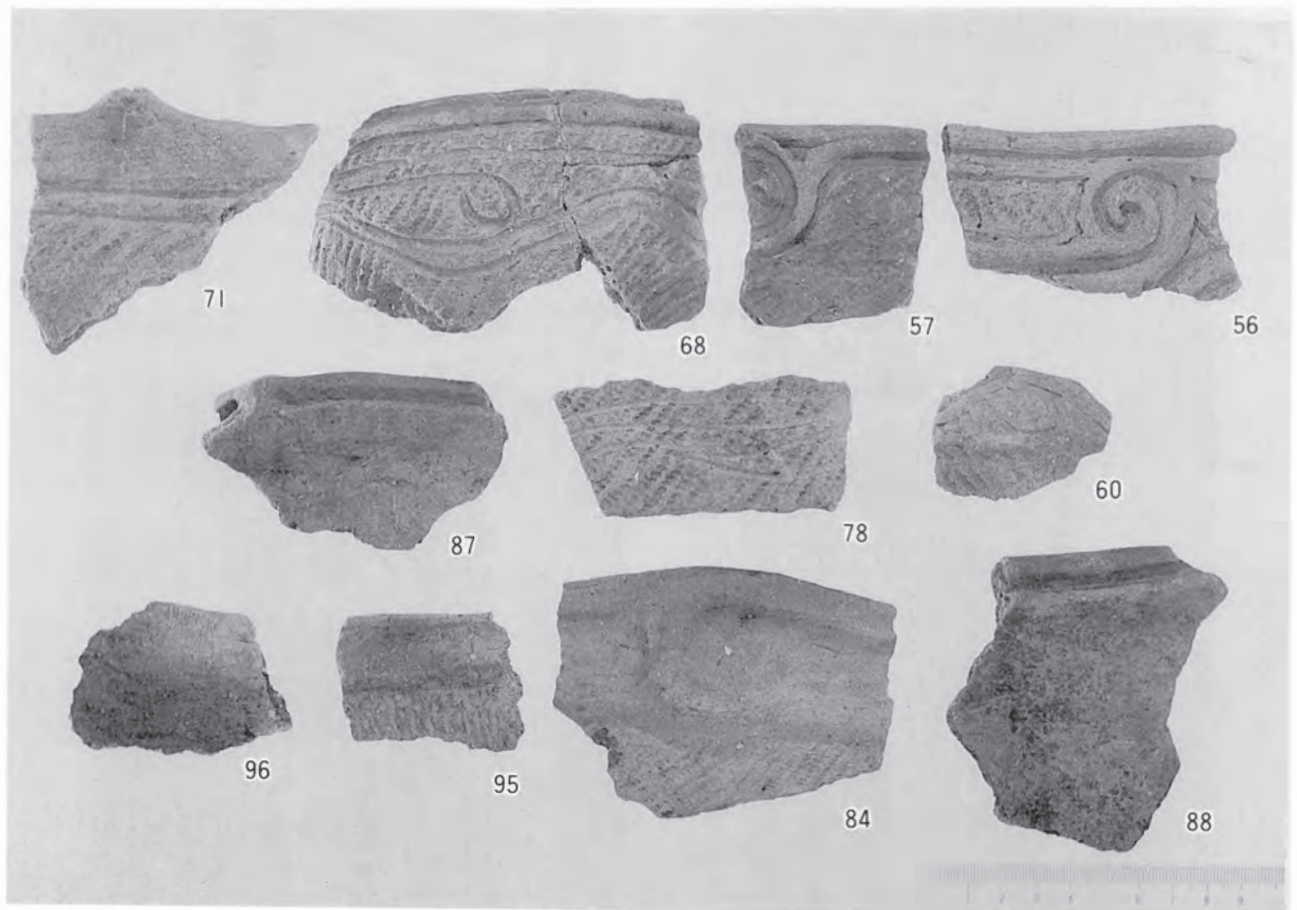


54

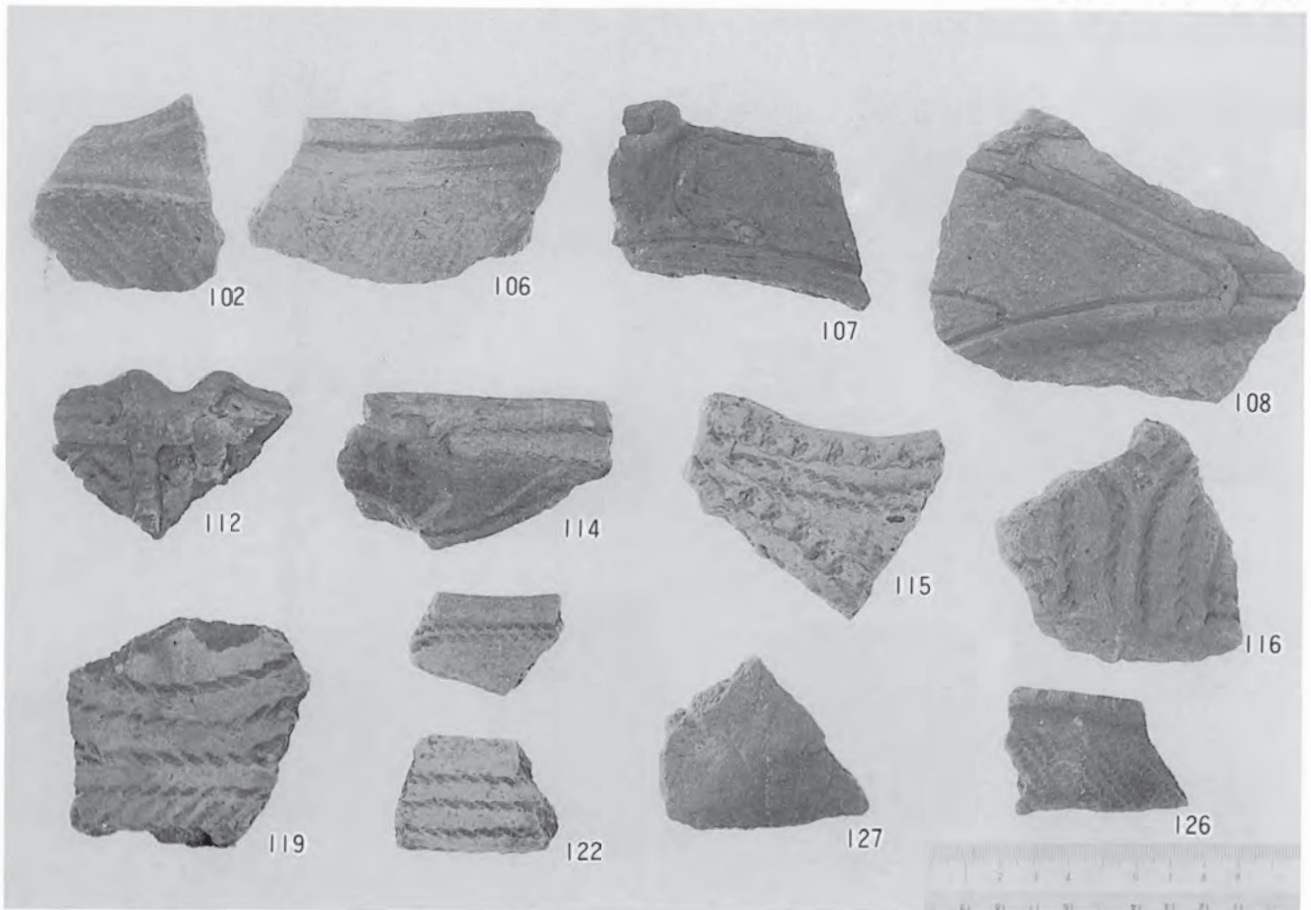
# 第16図版



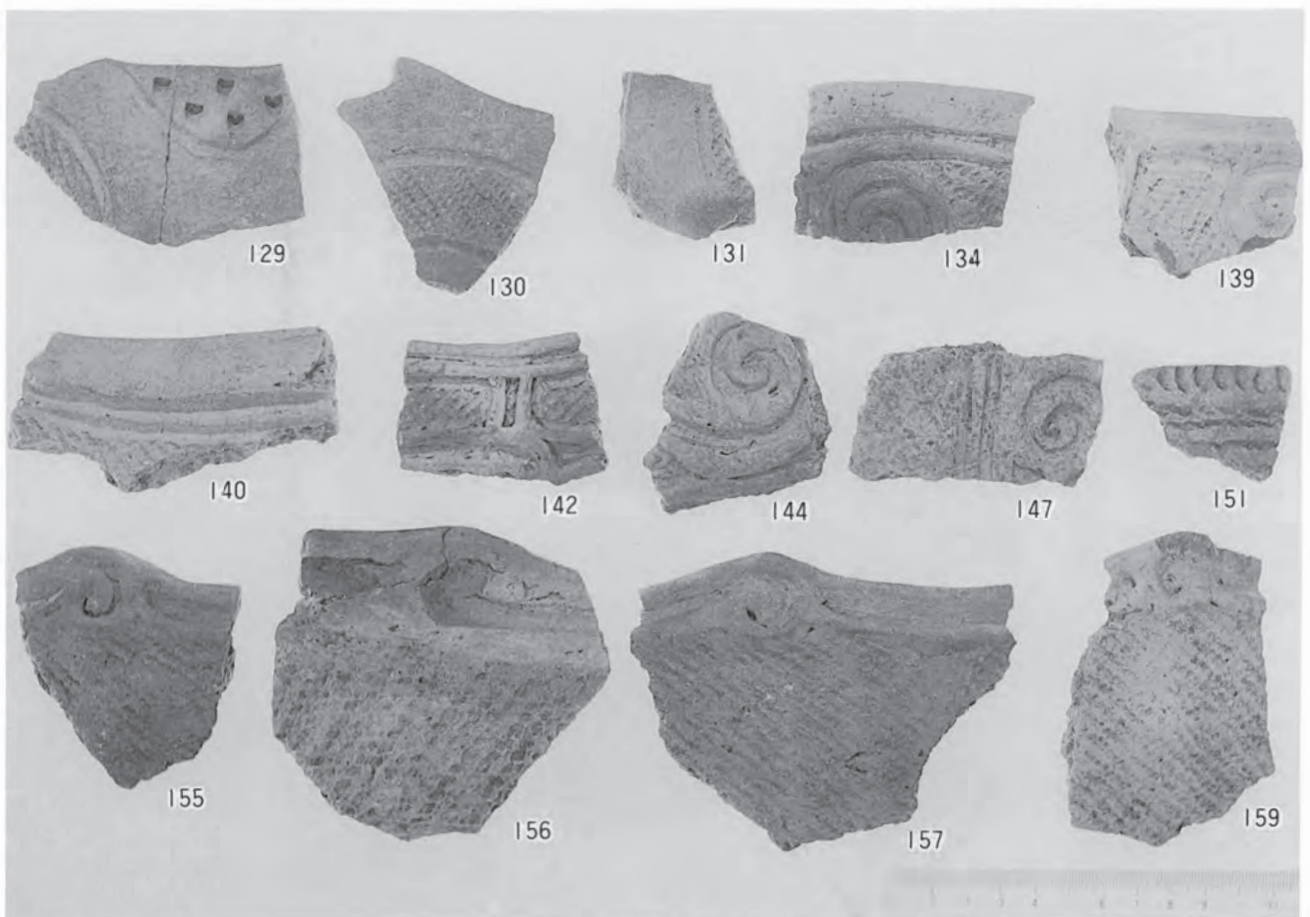
土壇埋土出土土器 (第13図)



遺構外出土土器 (第60図)

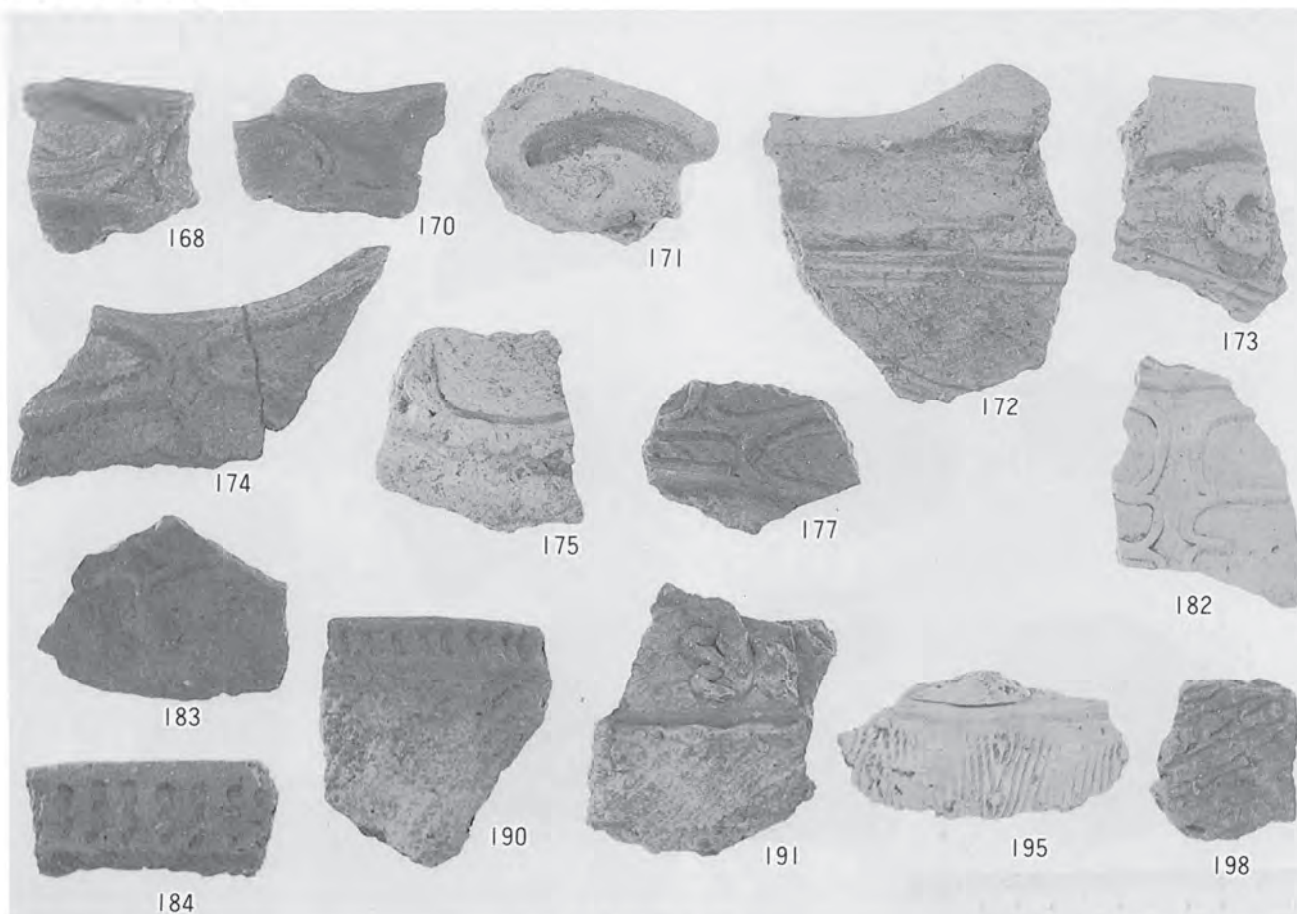


遺構外出土土器（第61図）

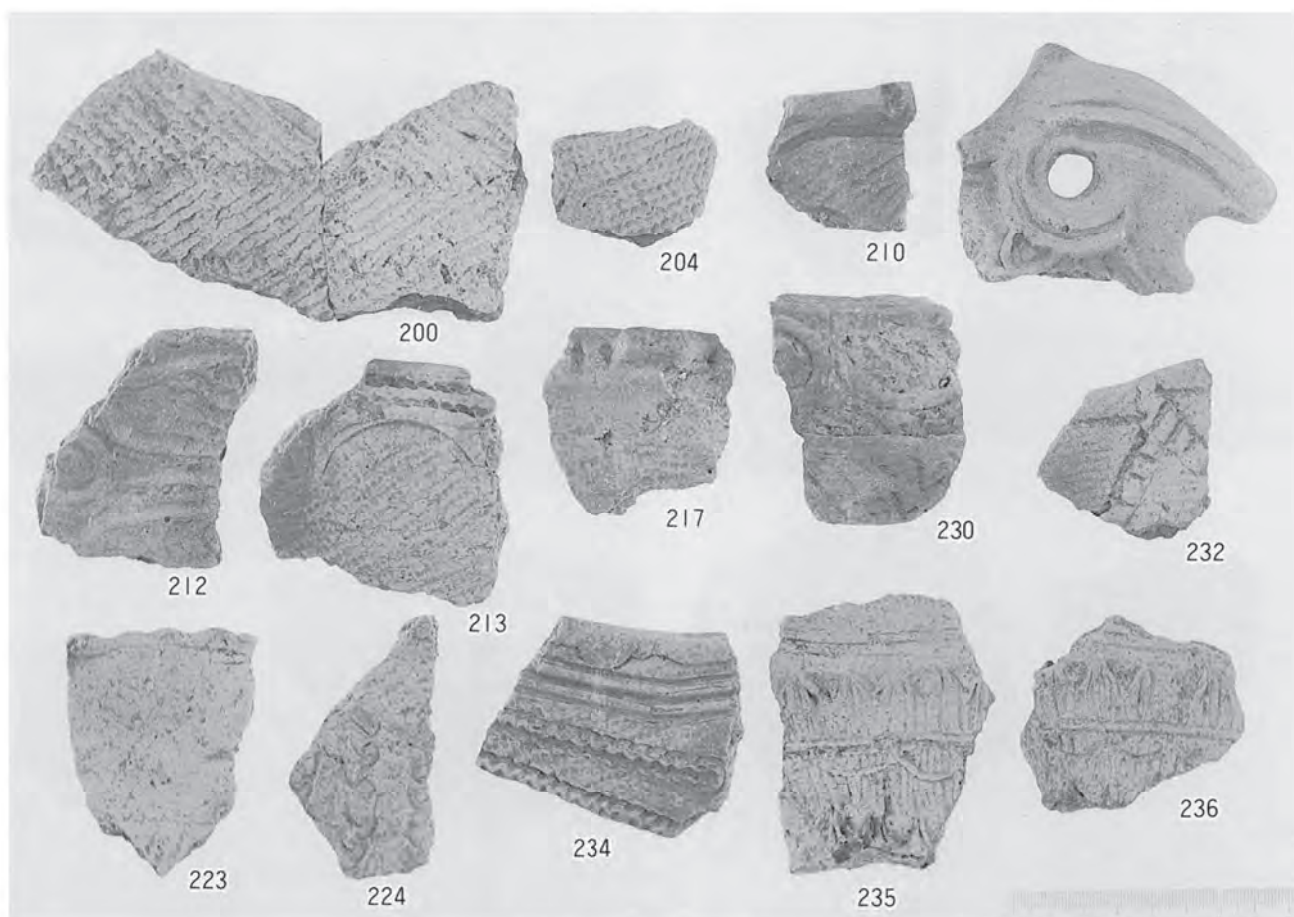


遺構外出土土器（第62図）

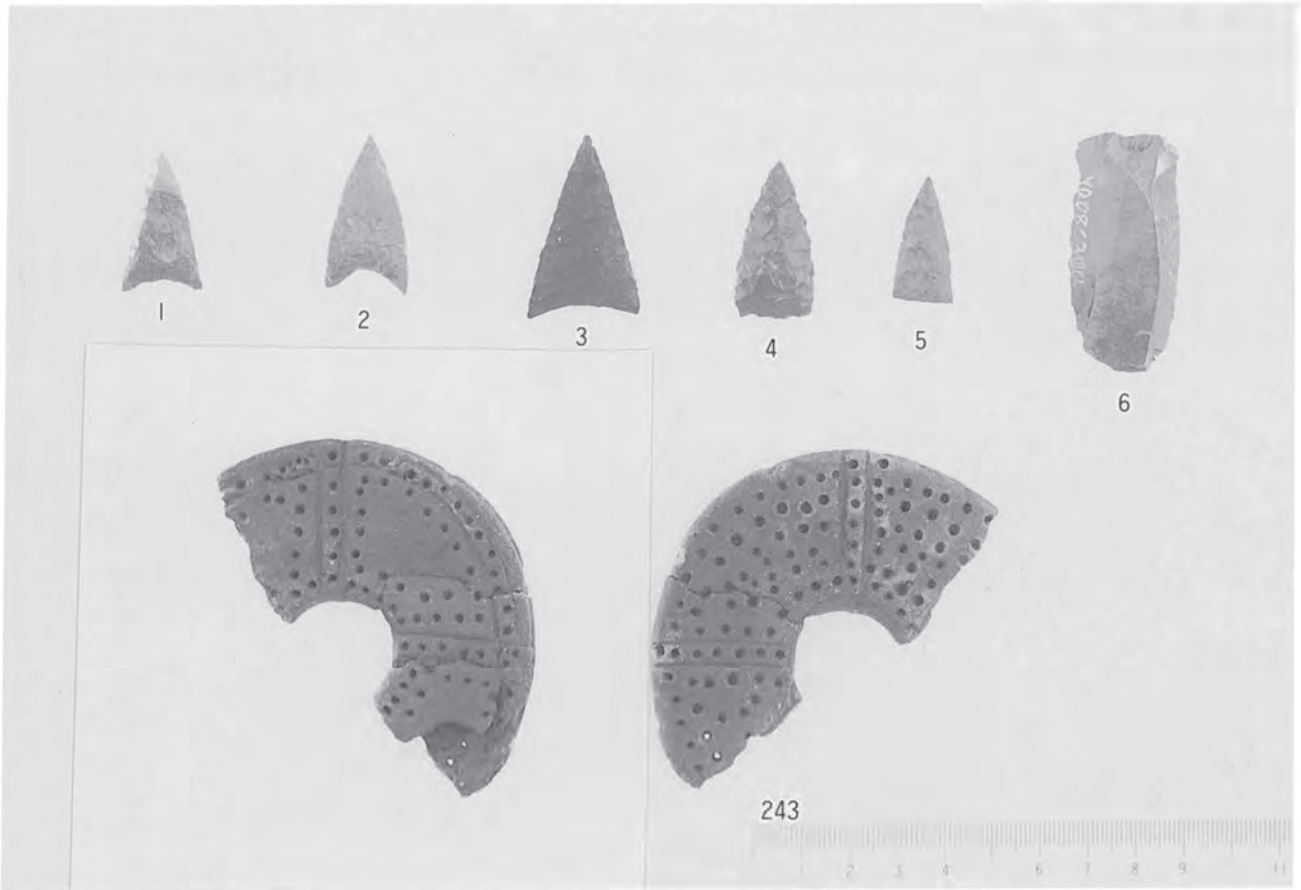
# 第18図版



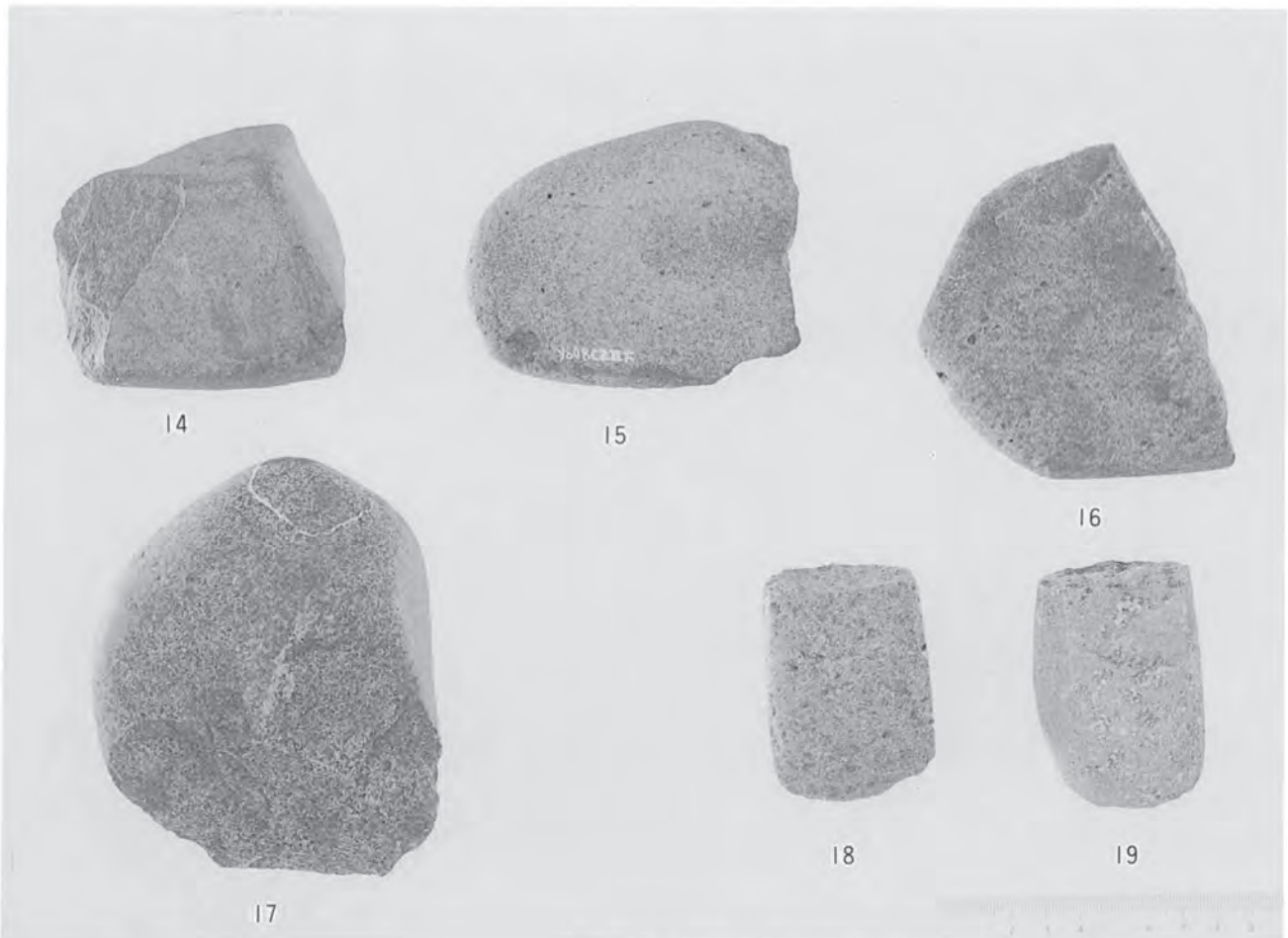
遺構外出土土器 (第63図)



遺構外出土土器 (第64図)



遺構外出土石器・土製品 (第65図)



遺構外出土石器

宮古市埋蔵文化財調査報告書19

# 高 根 遺 跡

—昭和63年度発掘調査報告書—

1989.6

発 行 宮古市教育委員会

〒027 岩手県宮古市新川町2番1号

TEL 0193 (62) 2111

印 刷 株式会社 文化印刷

〒027 岩手県宮古市大通り2丁目5の2